

静岡県立大学

看護学部・研究科報

2023 年度

目次

I. はじめに	1
II. 看護学部の歴史	2
1. 歴史	2
III. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成	4
1. 学部の教員構成	4
2. 研究科の教員構成	5
3. 年度途中退任の教員	6
4. 令和5年度全学委員会一覧	6
5. 学部委員会	7
6. 学部・研究科合同委員会	7
7. 研究科委員会	7
IV. 看護学部・看護学研究科の教育課程	8
1. 学部	8
1) 学部の理念	8
2) 教育目標	8
3) ディプロマ・ポリシー	8
4) カリキュラム・ポリシー	9
5) アドミッション・ポリシー	10
6) 学部カリキュラム	11
2. 研究科	20
1) 教育理念	20
2) 博士前期課程	20
3) 博士後期課程	21
4) 研究科カリキュラム	22
3. 臨地実習表	25
1) 基礎看護学実習 I	25
2) 基礎看護学実習 II	26
3) 3年次後期臨地実習配置表	27
4) 臨床シミュレーション EBN 実習	28
5) 公衆衛生看護基礎実習	30
6) 公衆衛生看護学実習 I	31
7) 公衆衛生看護学実習 II (行政・学校・産業)	32
8) 国際保健・看護実習	33
9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習	33

4. 学生の研究	35
1) 学部の指導体制と研究テーマ	35
2) 研究科の指導体制と研究テーマ	43
V. 学生生活	45
1. 学生定員および在学学生数	45
1) 学部	45
2) 研究科	46
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	47
1) 学部	47
2) 研究科	48
3. 卒業・修了者の進路状況	49
1) 学部	49
2) 研究科	50
4. 免許・資格などの取得状況	51
VI. 国際交流	52
1. 令和5年度国際交流等事業	52
2. 国際保健・看護実習	54
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	56
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	56
1) 専門基礎領域の活動	56
2) 環境看護学領域の活動	57
3) 基礎看護学領域の活動	59
4) 成人看護学領域の活動	61
5) 老年看護学領域の活動	64
6) 小児看護学領域の活動	66
7) 母性看護学・助産学領域の活動	69
8) 精神看護学領域の活動	77
9) 公衆衛生看護学領域の活動	79
10) 在宅看護学領域の活動	82
11) 国際看護学領域の活動	83
2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動	87
1) 研究活動	87
2) 外部資金受け入れ	103
3) 令和5年度学部研究推進費等	109
4) 海外研修活動	113
5) その他特記事項	114

VIII.学部・研究科としての社会貢献	117
1. 国・地方自治体における活動	117
2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	120
3. 学会・シンポジウム等の主催	125
4. 雑誌編集関連委員	127
5. 雑誌の査読	128
6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等	130
7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等	137
8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説	138
9. 新聞等メディアへの掲載・出演	139
10. その他活動	140
11. 県民の日	147
12. 高大連携による講師派遣	147
13. 公開講座等の開催状況	149
IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について	150
1. 看護実践家に対するリカレント教育プログラムの提供	150
2. 看護学教育研究に関する国際交流の推進拠点	151
3. 特定行為研修について	151
4. その他、センターの運営事業実績	153

I. はじめに

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことを機に、従前の看護教育体制の整備と強化に取り組みました。特に看護実習科目においては、実習施設関係者の皆様のご理解とご協力により、学生は臨地でしか学び得ない看護体験を行うことができました。また、国際交流事業を再開し、5月にタイ国コンケン大学看護学部より4名の学生を受け入れ、8月には本学看護学部4年生4名がコンケン大学看護学部を訪問しました。さらに今後、学生および教員の活発な交流と共同研究に発展していくことを期待し、9月にモンゴル国立医科大学・ドルノゴビメディカルスクール、10月にモンゴル国立医科大学看護学部と部局間交流協定を締結しました。1月には韓国の慶熙（キョンヒ）大学看護科学部の学部長が、本学看護学部との部局間交流を立ち上げるため、本学を来訪しました。教育の質保証の取り組みとして、外部の専門家による研修とコンサルティングを受けながら、ディプロマ・ポリシー達成度調査のためのルーブリック表を完成させ、4年生を対象に評価を行いました。国家試験対策としては、学習環境の整備や保健師国家試験対策のセミナーなど強化したところ、看護師国家試験合格率99.0%（全国93.2%）、保健師国家試験合格率100%（全国97.7%）、昨年度よりも良い結果を得ることができました。看護実践教育研究センターでは、開設して3年目になった特定行為研修事業の他、訪問看護や看護研究、看護倫理、看護管理に関するセミナーを開講し、リカレント事業の拡大を図りました。1年間、看護学部の運営にご尽力くださいました教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

大学院看護学研究科において2023年度当初に取り上げた重点課題は、①博士後期課程における入学定員の確保、②内部質保証の改善に向けた取り組み、③研究の実践力の向上の3項目でした。これらのすべては、本研究科委員会、各委員会の積極的な活動により順調に達成へと進んでいます。博士後期課程では募集定員3名のところ4名の入学予定者がありました。さらに、内部質保証においては、大学基準協会の受審を受けました。そして2023年度大学評価の結果、静岡県立大学は本協会の大学基準に適合していると認定されています。但し看護学研究科における研究指導担当教員の資格基準については、明文化されていないので改善が望まれるという改善事項があったため、今後の改善課題としたいと思います。また研究の実践力の向上については、2回のFD開催によって教員の意識向上を行ったところです。これらの活動には、本研究科教員だけでなく、他部局の先生方、事務の皆様にも多大なご支援、ご協力をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。今後も、継続して課題達成に取り組み、大学・大学院教育の質の担保とさらなる充実を目指していきます。

最後に、学部・研究科報作成にあたりご協力いただいた教員の皆様に御礼申し上げます。

静岡県立大学 看護学部長 山下早苗
大学院 看護学研究科長 篁宗一

Ⅱ. 看護学部の歴史

1. 歴史

主な出来事

昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	看護学部看護学科が設置される。 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。 (セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加。
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。

平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。 第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。 第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。
平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。 第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。 第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。 第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。 看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。 第 8 代研究科長に渡邊順子が就任する。
平成 30 年	4 月	編入学定員を 25 人に増員する。
平成 31 年	4 月	第 10 代学部長に太田尚子が就任する。 第 9 代研究科長に山田紋子が就任する。
令和 2 年	4 月	看護学研究科博士後期課程が設置される。
令和 2 年	12 月	看護学部附属看護実践教育研究センターが設置される。 （初代センター長に荒井孝子教授が就任する）
令和 3 年	2 月	看護師の特定行為に係る「特定行為研修指定研修機関」に指定される。（厚生労働省医政局 指定研修機関番号 2122010）
令和 3 年	4 月	第 7 代学長に尾池和夫が就任する。 第 11 代学部長に太田尚子が就任する。（再任） 第 10 代研究科長に山田紋子が就任する。（再任）
令和 5 年	4 月	第 12 代学部長に山下早苗が就任する。 第 11 代研究科長に篁宗一が就任する。

Ⅲ. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1. 学部の教員構成

表 3-1-1 令和5年度 学部の教員構成

※ (令和6年3月31日現在)

領 域	担当教員			
	教授	准教授	講師	助教
専門基礎	井上健一郎 (呼吸器病学)	堀 芽久美	濱井妙子 (薬学、国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学) ヘムストック・ ウェンディ・ リアン
環境看護学	荒井孝子			
基礎看護学	操華子			
		山口みのり 加藤京里	管原清子	三沢萌佳
成人看護学	山田紋子 林みよ子		前野真由美	中岡正昭 鈴木郁美 星 有紀 長谷部美紀 植田春美
老年看護学		成瀬早苗		宮澤典子 佐藤理乃
精神看護学	篁 宗一	長澤利枝		近藤美保 小泉祐貴
小児看護学	山下早苗	鈴木和香子		池田麻左子 丸山始美 梁川 明
母性看護・助産学	太田尚子 藤田景子	中川有加 永谷実徳	福島恭子	大和田裕美 長屋和美 池田美音
公衆衛生看護学	畑中純子	杉山眞澄 (特任准教授) 鈴木千智	佐藤瑠美	栗田真由美 安藤継子 伊藤純子
在宅看護学	富安眞理		加納江理	榊みのり 森 洋子
国際保健・看護学	竹熊カツマタ 麻子 渡邊順子 (特任教授)		根岸まゆみ	

2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 令和 5 年度 研究科の教員構成

※ (令和 6 年 3 月 31 日現在)

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	必修	操華子 富安眞理 山田紋子		
	看護学共通科目	井上健一郎 操華子 篁 宗一 山下早苗 太田尚子 富安眞理 竹熊カツマタ麻子		
専門科目	基盤看護学	☆荒井孝子 ☆操 華子 ☆竹熊カツマタ麻子	山口みのり 加藤京里	
	実践看護学	☆山田紋子 ☆林みよ子 ☆山下早苗 ☆太田尚子 ☆藤田景子	中川有加 鈴木和香子 永谷実穂	
	広域看護学	☆富安眞理 ☆篁 宗一 ☆畑中純子	鈴木千智 成瀬早苗 堀芽久美	
	助産学課程	☆太田尚子 ☆藤田景子	☆中川有加 ☆永谷実穂	福島恭子 (助教) 大和田裕美 (助教) 長屋和美 (助教) 池田美音

☆主指導教員

3. 年度途中退任の教員

表 3-3-1 令和 5 年度途中退任教員

※ (令和 6 年 3 月 31 日現在)

区分	職名	退任月日	氏名
—	准教授	令和 5 年 5 月 31 日	永谷 幸子
—	助教	令和 5 年 6 月 30 日	飯塚 真樹
—	教授	令和 5 年 9 月 30 日	田中 範佳
—	助教	令和 5 年 9 月 30 日	梶山 千珠子

4. 令和 5 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	感染症管理対策委員会
留学生委員会	感染症流行検討部会
入学者選抜委員会	中期・年度計画推進委員会
入学者選抜実施委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
個別学力検査問題検討委員会	FD 委員会
質保証委員会	情報センター運営委員会
共同利用機器運営委員会	情報セキュリティ管理責任者
キャリア支援センター委員会	情報セキュリティ管理者
学生委員会	利益相反委員会
教務委員会	男女共同参画推進会議
教務管理部各部会組織	防災委員 (草薙・小鹿)
図書館情報委員会	COC センター運営委員
障害学生支援部会	地域貢献・産学官連携推進会議委員
保健衛生委員会	SDGs イニシアティブ推進委員会
教職課程委員会	「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」に基づく学内選考委員会
研究倫理委員会	教育研究組織将来計画委員会
公開講座委員会	大学院協議会
国際交流委員会	教員人事委員会
環境安全委員会	教員活動評価委員会
RI 取り扱い管理委員会 (放射線安全委員会)	危機管理委員会

全学委員会名	
動物実験センター運営委員会	公的研究費等適正管理推進委員会
ハラスメント防止・対策委員会	臨床研究施設運営委員会
ハラスメント事実調査部会候補者	麻薬・向精神薬管理委員会
ハラスメント相談員	新学部設置構想検討委員
はばたき寄金運営委員会	国際交流会館（仮称）構想検討委員会
発明委員会	学務情報システム選定委員会
開学記念行事実行委員会	—
施設の有効利用に関する委員会	—

5. 学部委員会

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
入学者選抜実施委員会	FD委員会
学部質保証委員会	カリキュラム検討委員会

6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	教育情報環境整備委員会
広報・企画委員会	研究倫理審査委員会
実習委員会	

7. 研究科委員会

研究科委員会	
研究科教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
FD委員会	研究科入学者選抜実施委員会
研究科質保証委員会	—

IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

1. 学部

1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

3) ディプロマ・ポリシー

看護学部（以下、本学部という）は、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とします。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与します。

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に寄与するために、探究心と主体性を身につけている。

4) カリキュラム・ポリシー

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1. 基礎分野Ⅰ、2. 基礎分野Ⅱ、3. 専門基礎分野、4. 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1) 専門分野Ⅰ：

看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

2) 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に

対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3) 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

5) アドミッション・ポリシー

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援します。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求めます。

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

6) 学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	日本の歴史と文化
	フランス語入門		社会を変える手法：コミュニティ・オーガナイズング
	スペイン語入門		国際安全保障入門Ⅰ
	中国語入門		国際安全保障入門Ⅱ
	日本語作文A		くらしと化学A
	日本語作文B		くらしと化学B
			実用科学英語基礎編
			実用科学英語応用編
	情報検索実習		基礎生命科学Ⅰ 【英語による科目】
	情報処理実習		基礎生命科学Ⅱ 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		現代日本文化入門A 【英語による科目】
	ライティング基礎		現代日本文化入門B 【英語による科目】
	ライティング実践		経営分析入門A 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅰ		経営分析入門B 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学ⅠA 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学ⅠB 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学ⅡA 【英語による科目】
TOEIC ビジネス英語Ⅱ	英語で学ぶ日本語学ⅡB 【英語による科目】		
第2部門 (概論)	自然科学概論	財務会計入門A 【英語による科目】	
	化学入門	財務会計入門B 【英語による科目】	
	生物学入門	言語の学習・習得ⅠA 【英語による科目】	
	薬剤発達史入門	言語の学習・習得ⅠB 【英語による科目】	
	物理学入門	言語の学習・習得ⅡA 【英語による科目】	
	環境科学入門	言語の学習・習得ⅡB 【英語による科目】	
	哲学入門	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】	
	社会思想史入門	静岡の防災と医療 【しずおか学】	
	歴史学入門	静岡地域食材学A 【しずおか学】	
	宗教学入門	静岡地域食材学B 【しずおか学】	
	社会学入門	バイオ — 静岡から世界へA 【しずおか学】	
	国際関係学入門	バイオ — 静岡から世界へB 【しずおか学】	
	文化人類学入門	茶学入門 【しずおか学】	
	公共政策入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化A 【しずおか学】	
	心理学入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化B 【しずおか学】	

生涯発達心理入門	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産 A	【しずおか学】
知的財産管理入門	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産 B	【しずおか学】
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 A	【しずおか学】
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 B	【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 A	【しずおか学】
	ビジネスの視点でみる静岡 B	【しずおか学】
	静岡の市民活動	【しずおか学】
	歴史から読み解くしずおか学 A	【しずおか学】
	歴史から読み解くしずおか学 B	【しずおか学】
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】
	SDGs 概論	【しずおか学】
	地域づくりの方法	【しずおか学】
	ふじのくに学(富士山)	【しずおか学】
	ふじのくに学(お茶)	【しずおか学】
	ふじのくに学(観光学)	【しずおか学】
	ふじのくに学(演劇論)	【しずおか学】
	ふじのくに学(南アルプスの自然)	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	【しずおか学】
	ふじのくに学(農林業)	【しずおか学】
	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	【しずおか学】
	総合科目 I (キャリア形成概論 I)	
	総合科目 II (キャリア形成概論 II)	
	男女共同参画社会とジェンダー	
	人権が支える社会	
	グローバル政治経済事情	
	ジャーナリズム論	
	キャリアと社会	
	高野山で学ぶキャリアとわたし	

授業科目一覧
(平成30年度以降の入学生用)

	授業科目の名称		配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位	
					必修	選択			
授業科目の概要	基礎分野Ⅰ (全学共通科目)	第1部門	1・2・3・4	前・後		各 2 5 1	38 5 135	10 単位 以上 選択	
		第2部門							
		第3部門							
		総合科目							
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	137	
		研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
		教育	日本国憲法	1	後		2	139	
	教育学		2	後		2	140		
	基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		141	必修 7 単位
			基礎セミナーⅡ	2	前		1	142	
		英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		143	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		144	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		145	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		147	
			英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		148	
			英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		149	
専門基礎分野	人間と人間の生活の理解	人間関係論	1	前	2		151	2単位選択	
		臨床心理学	2	後		1	152		
		健康行動論	2	前		1	153		
		運動と健康の生理学	1	前		1	154		
		健康環境論	1	前		1	155		
		医療・看護経済論	2	前		1	156		
		国際看護論	2	後		1	157		
	機能と人体の構造	機能形態学Ⅰ	1	前	2		158	必修 28 単位 十 選択 4 単位	
		機能形態学Ⅱ	1	後	2		159		
		生物化学	1	前	1		160		
		基礎健康科学演習	1	後	2		161		
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2		163		
		微生物学	1	後	1		164		
		臨床薬理学	2	前	2		165		
		臨床栄養学	2	前	2		166		
病態学		2	前	2		167			
社会保健制度と健康支援	公衆衛生学	1	前	2		169			
	社会福祉論	1	後	1		170			
	保健福祉行政論	2	前	2		171			
	保健医療統計学	1	前	2		172			
	情報処理演習	1	後	1		173			
	疫学	2	後	2		174			
基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野 単位数計							49(選択4含む)		

授業の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
					必修	選択		
専門分野 I	看護学原論	1	前	2		175	必修 51 単位	
	基礎看護技術論 I	1	前	2		176		
	基礎看護技術論 II	1	後	2		177		
	基礎看護技術演習 I	1	後	1		178		
	看護コミュニケーション演習	1	前	1		179		
	基礎看護技術演習 II	1	後	1		180		
	看護アセスメント演習	2	前	1		181		
	看護と倫理	2	後	1		183		
	看護コミュニケーション実習	1	前	1		184		
	看護アセスメント実習	2	前	2		185		
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2			186
		慢性看護援助論演習	2	後	1			187
		急性期看護学概論	3	前	2			188
		急性期看護援助論演習	3	前	1			189
		慢性看護学実習	3	後	2			190
		急性期看護学実習	3	後	2			191
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2			192
		老年看護学概論	2	後	2			193
		老年看護援助論	2	後	1			194
		老年看護学演習	3	前	1			195
		老年看護学実習 I	3	後	2			196
		老年看護学実習 II	3	後	1			197
		母性看護学概論	2	前	1			198
		母性看護援助論 I	2	後	1			199
		母性看護援助論 II	3	前	1			200
		母性看護学演習	3	前	1			201
		母性看護学実習	3	後	2			202
		小児看護学概論	2	後	2			203
		小児看護援助論	3	前	1			204
		小児看護学演習	3	前	1			205
	小児看護学実習	3	後	2		206		
	精神看護学概論	2	後	2		207		
	精神看護援助論	3	前	1		208		
	精神看護学演習	3	前	1		209		
精神看護学実習	3	後	2		210			

授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
			必修	選択		
地域包括ケア	1	後	1		211	必修 25 単位
災害看護セミナー	2	後	1		212	
地域家族支援論	2	後	2		213	
在宅看護学概論	3	前	2		214	
在宅看護学演習	3	前	1		215	
在宅看護学実習	3	後	2		216	
看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1	217	
看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1	218	
公衆衛生看護学概論	1	後	2		219	
ヘルスプロモーション	2	前	2		220	
国際保健・災害看護論	2	前	2		221	
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		222	
公衆衛生看護基礎実習	2	後	1		223	
公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	224	
公衆衛生看護管理論	3	前		2	225	
公衆衛生看護方法論	3	前		2	226	
公衆衛生看護学演習	3	後		1	227	
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	前		2	228	
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	229	
看護研究	3	前	1		230	
卒業研究A	3	通		2	231	
卒業研究B	4	通	2		232	
国際保健・看護演習	4	前		1	233	
国際保健・看護実習	4	通		2	234	
発展看護実習	4	通	2		235	
看護管理論	4	後	1		236	
看護政策論	4	後	1		237	
看護キャリアデザイン論	4	後		2	238	
専門分野 単位数計						76
卒業要件(最低単位数)						125

※保健師国家試験受験資格要件

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位——公衆衛生看護活動論Ⅱ(2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(2 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(2 単位)を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。
本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

- イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
- ウ 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー
- ※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧

(令和4年度以降 入学生用)

授業科目の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位
					必修	選択		
(全学共通科目)	第1部門		1・2・3・4	前・後		各 2 5 1	37 5 133	10 単位 以上 選択
	第2部門							
	第3部門							
	総合科目							
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	134	
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
	教育	日本国憲法	1	後		2	136	
教育学		2	後		2	137		
基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		138	必修 7 単位
		基礎セミナーⅡ	2	前		1	139	
	ケー ー シ ョ ン	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		140	
		フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		141	
		フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		142	
		フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		144	
		英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		145	
		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		147	
解 理	人間と人間の生活の	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1		148	2単位選択必修 2単位選択必修
	人間関係論Ⅰ	1	前	1		149		
	人間関係論Ⅱ	1	前		1	150		
	臨床心理学	2	後		1	151		
	健康行動論	2	前		1	152		
	運動と健康の生理学	1	前		1	153		
	健康環境論	1	前		1	154		
	医療・看護経済論	2	前		1	155		
	国際看護論	2	後		1	156		
	機 能 と 回 復 の 促 進	構 造 と 人 体 の 機 能	機能形態学Ⅰ	1	前	2		
機能形態学Ⅱ			1	後	2		158	
生物化学			1	前	1		159	
基礎健康科学演習			1	後	2		160	
疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進		症候論	1	後	2		162	
		微生物学	1	後	1		163	
		臨床薬理学	2	前	2		164	
		臨床栄養学	2	前	2		165	
		病態学	2	前	2		166	
		疫学	2	後	2		173	
社 会 保 障 制 度 と 健 康 支 援	公衆衛生学	1	前	2		168		
	社会福祉論	1	後	1		169		
	保健福祉行政論	2	前	2		170		
	保健医療統計学	1	前	2		171		
	情報処理演習	1	後	1		172		
疫学	2	後	2		173			
基礎分野Ⅰ + 基礎分野Ⅱ + 専門基礎分野 単位数計							49(選択4含む)	

授業の概要	専業分野	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位
						必修	選択		
授業の概要	専門分野Ⅰ	看護学概論		1	前	2		174	必修 48 単位
		基礎看護技術Ⅰ		1	前	1		175	
		看護コミュニケーション論		1	前	1		176	
		基礎看護技術Ⅱ		1	後	2		177	
		基礎看護技術Ⅲ		1	後	1		178	
		看護アセスメント演習		2	前	1		179	
		看護アセスメント方法論		2	前	1		180	
		基礎看護技術Ⅳ		2	後	1		181	
		看護と倫理※		2	後	1		182	
		基礎看護学実習Ⅰ		1	前	1		183	
		基礎看護学実習Ⅱ		2	通	2		184	
		慢性看護学概論		2	後	2		185	
		慢性看護援助論演習		2	後	1		186	
		慢性看護学実習		3	後	2		187	
		急性期看護学概論		3	前	2		188	
		急性期看護援助論演習		3	前	1		189	
		急性期看護学実習		3	後	2		190	
		老年看護学概論		2	後	2		191	
	老年看護援助論		2	後	1		192		
	老年看護学演習		3	前	1		193		
	老年看護学実習		3	後	2		194		
	母性看護学概論		2	前	1		195		
	母性看護援助論Ⅰ		2	後	1		196		
	母性看護援助論Ⅱ		3	前	1		197		
	母性看護学演習		3	前	1		198		
	母性看護学実習		3	後	2		199		
	小児看護学概論		2	後	2		200		
	小児看護援助論		3	前	1		201		
	小児看護学演習		3	前	1		202		
	小児看護学実習		3	後	2		203		
	精神看護学概論		2	後	2		204		
	精神看護援助論		3	前	1		205		
	精神看護学演習		3	前	1		206		
	精神看護学実習		3	後	2		207		
	専門分野Ⅱ	地域包括ケア		1	後	1		208	
		災害看護セミナー		2	後	1		209	
		地域家族支援論		2	後	2		210	
		在宅看護学概論		3	前	2		211	
		在宅看護学演習		3	前	1		212	
	統合分野	在宅看護学実習		3	後	2		213	

授業科目の概要	専門分野	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位
					必修	選択		
					単位数			
	統合分野	公衆衛生看護学概論	1	後	2		214	必修 27 単位 + 選択 2 単位
		ヘルスプロモーション	2	前	1		215	
		国際保健・災害看護論	2	前	2		216	
		保健医療システム論	2	後	1		217	
		コミュニティ・アセスメント論	2	後	1		218	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		219	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	後	1		220	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	221	
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	3	前		1	222	
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	4	後		1	223	
		公衆衛生看護方法論	3	前		2	224	
		公衆衛生看護学演習	3	後		1	225	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前	2(選択必修)		226	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	4	前		2	227	
		多職種連携実習	3	通	1		228	
		看護研究	3	前	1		229	
		卒業研究A	3	通		2	230	
		卒業研究B	4	通	2		231	
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2		232	
		国際保健・看護演習	4	前		1	233	
		国際保健・看護実習	4	通		2	234	
	発展看護実習	4	通	2(選択必修)		235		
	感染看護演習アドバンス	4	通		1	236		
	看護管理論	4	後	1		237		
	看護キャリアデザイン論	4	後		2	238		
	看護政策論	4	後	1		239		
専門分野 単位数:計								77(選択2含む)
卒業要件(最低単位数)								126

※卒業に必要な最低修得単位数は 126 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※さらに「保健師国家試験受験資格要件」で指定された 11 単位を修得することで「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

保健師国家試験受験資格取得を希望する場合は、3 年前期に公衆衛生看護活動論Ⅱ（2 単位）、公衆衛生看護管理論Ⅰ（1 単位）、公衆衛生看護方法論（2 単位）を修得すること。

保健師国家試験受験資格取得の科目履修者として選抜された場合は、3 年後期に公衆衛生看護学演習（1 単位）、4 年前期に公衆衛生看護学実習Ⅱ（2 単位）、公衆衛生看護学実習Ⅲ（2 単位）、4 年後期に公衆衛生看護管理論Ⅱ（1 単位）を修得することで、保健師国家試験受験資格取得を得られる。

※基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。
本学部授業期間中の履修については、原則として単位を認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。

(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

ウ 担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。

また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

2. 研究科

1) 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し、最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2) 博士前期課程

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、

演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。

3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3) 博士後期課程

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や

保健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。

3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究の経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

4) 研究科カリキュラム

2023年度 教育課程

博士前期課程

	授業科目	開講年次	単位数		
			必修	選択	
共通科目	必修	研究法Ⅰ	2		
		研究法Ⅱ	2		
	選択	看護理論			2
		看護倫理特論			2
		看護教育学特論			2
		看護管理学特論			2
		家族看護特論			2
		基礎科学特論			2
		母子相互作用支援論			2
		国際保健医療特論			2
英語科学論文クリティーク			2		
専門科目	選択必修	基盤看護学特論Ⅰ		2	
		基盤看護学特論Ⅱ		2	
		基盤看護学特論Ⅲ		2	
		基盤看護学特論Ⅳ		2	

	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	基盤看護学特別研究	2通		6
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4
	実践看護学特別研究	2通		6
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4
	広域看護学特別研究	2通		6
助産学課程選択必修	助産学特論	1前		2
	助産学応用演習	1後-2前		4
	妊娠期助産診断技術学	1前		2
	統合ヘルスケア論	1通		2
	妊娠期助産診断技術学演習	1前		3
	助産学基礎演習	1通		3
	地域助産学実習	1通		2
	助産学課題研究	2通		4
助産師養成選択科目	助産学概論	1通		2
	助産管理論	1後		2
	母子保健包括支援論	1通		2
	周産期学	1前		2
	リプロダクティブ・ヘルス演習	1後		2
	周産期助産学演習	1前		1
	周産期助産学実習	1通		1

		助産診断学演習Ⅰ	1 前		2
		助産診断学演習Ⅱ	1 前		3
		助産技術学演習	1 通		3
		助産学実習	1 後		9
		助産学統合実習	2 前		2

博士後期課程

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	看護学研究特講	1 前	2	
	選択	生体環境科学特講	1 前・2 前		2
		保健福祉政策特講	1 前・2 前		2
専門科目	選択	看護技術開発特講	1 前		2
		感染看護学特講	1 前		2
		小児看護実践開発特講	1 前		2
		助産学特講	1 前		2
		がん看護理論特講	1 前		2
		周手術期看護学特講	1 前		2
		精神保健看護学特講	1 前		2
		地域・在宅看護システム特講	1 前		2
演習・研究科目	必修	看護学特別演習	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅰ	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅱ	2 通	2	
		看護学特別研究Ⅲ	3 通	4	

3. 臨地実習表

1) 基礎看護学実習 I

G	A 60 人	クラス		Aクラス							
		日程	学内		臨地①		臨地②		臨地③		学内
			5/9 (火)	5/16 (水)	5/30 (火)	6/6 (火)	6/13 (火)	6/20 (火)	6/27 (火)	7/4 (火)	
1	5			静岡市立静岡病院 東10階病棟		静岡市立静岡病院 東9階病棟		学内実習 253講義室		学内実習 253講義室	
2	5			静岡市立静岡病院 東9階病棟		静岡市立静岡病院 東10階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東6階病棟	
3	5			静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室	
4	5			静岡市立静岡病院 東6階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室	
5	4			静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西9階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西8階病棟	
6	4			学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西8階病棟		学内実習 253講義室	
7	4	ガイダンス 253講義室	学内実習 253講義室	学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西7階病棟		静岡市立静岡病院 西6階病棟		学内実習 253講義室	
8	4			学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西6階病棟		静岡市立静岡病院 西7階病棟		学内実習 253講義室	
9	4			静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟	
10	4			静岡赤十字病院 3-4病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟	
11	4			静岡赤十字病院 3-7病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-7病棟	
12	4			静岡赤十字病院 3-9病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟	
13	4			学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟	
14	4			学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟			
G	B 60 人	クラス		Bクラス							
		日程	学内		臨地①		臨地②		臨地③		学内
			5/9 (火)	5/16 (水)	5/30 (火)	6/6 (火)	6/13 (火)	6/20 (火)	6/27 (火)	7/4 (火)	
15	5				静岡市立静岡病院 東10階病棟		静岡市立静岡病院 東9階病棟		学内実習 253講義室		
16	5				静岡市立静岡病院 東9階病棟		静岡市立静岡病院 東10階病棟		学内実習 253講義室		
17	5				静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東6階病棟		
18	5				静岡市立静岡病院 東6階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東7階病棟		
19	4				静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西9階病棟		学内実習 253講義室		
20	4				学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西8階病棟		
21	4	ガイダンス 253講義室	学内実習 253講義室	学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西7階病棟		静岡市立静岡病院 西6階病棟		学内実習 253講義室	
22	4			学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西6階病棟		静岡市立静岡病院 西7階病棟		学内実習 253講義室	
23	4			静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟	
24	4			静岡赤十字病院 3-4病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟	
25	4			静岡赤十字病院 3-7病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-7病棟	
26	4			静岡赤十字病院 3-9病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟	
27	4			学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟			
28	4			学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟			

2) 基礎看護学実習Ⅱ

グループ	A 62人	Aグループ		前半実習					後半実習			
		月	日	8月				2月				
		学籍番号	学生氏名	28	29	30	31	1	13	14	15	16
			月	火	水	木	金	火	水	木	金	
1	6			静岡県立総合病院 3E					静岡県立総合病院 3E			
2	6			静岡県立総合病院 4A					静岡県立総合病院 4A			
3	6			静岡県立総合病院 4B					静岡県立総合病院 4B			
4	6			静岡県立総合病院 4E					静岡県立総合病院 4E			
5	5			静岡県立総合病院 4G					静岡県立総合病院 4G			
6	5			静岡県立総合病院 5A					静岡県立総合病院 5A			
7	5			静岡県立総合病院 5B					静岡県立総合病院 5B			
8	6			静岡県立総合病院 5E					静岡県立総合病院 5E			
9	6			静岡県立総合病院 5G					静岡県立総合病院 5G			
10	5			静岡県立総合病院 6C					静岡県立総合病院 6C			
11	6			静岡県立総合病院 6D					静岡県立総合病院 6D			
グループ	B 60人	Bグループ		前半実習					後半実習			
		月	日	9月				2月				
		学籍番号	学生氏名	4	5	6	7	8	19	20	21	22
			月	火	水	木	金	月	火	水	木	
12	6			静岡県立総合病院 3E					静岡県立総合病院 3E			
13	6			静岡県立総合病院 4B					静岡県立総合病院 4B			
14	6			静岡県立総合病院 4E					静岡県立総合病院 4E			
15	6			静岡県立総合病院 4G					静岡県立総合病院 4G			
16	6			静岡県立総合病院 5A					静岡県立総合病院 5A			
17	6			静岡県立総合病院 5B					静岡県立総合病院 5B			
18	6			静岡県立総合病院 5E					静岡県立総合病院 5E			
19	6			静岡県立総合病院 5G					静岡県立総合病院 5G			
20	6			静岡県立総合病院 6C					静岡県立総合病院 6C			
21	6			静岡県立総合病院 6D					静岡県立総合病院 6D			

4) 臨床シミュレーション EBN 実習

病棟施設	日程	G	チーム	人数	教員
病棟実習・看護過程の展開 & EBNプロジェクト	6月6日～6月9日	1	A	3名	林みよこ
			B	3名	
		2	A	3名	山田紋子 長谷部美紀
			B	3名	
		3	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		4	A	3名	前野真由美
			B	3名	
	6月12日～6月16日	5	A	5名	林みよこ
		6	A	3名	長谷部美紀
			B	3名	
		7	A	3名	山田紋子 植田春美
			B	3名	
		8	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		9	A	3名	前野真由美
	B		3名		
	6月26日～6月30日	10	A	3名	林みよこ
B			3名		
11		A	3名	長谷部美紀	
		B	3名		
12		A	3名	植田春美	
		B	3名		
13		A	3名	鈴木郁美	
		B	3名		
14	A	3名	前野真由美		
	B	3名			
7月3日～7月7日	15	A	3名	長谷部美紀	
		B	3名		
	16	A	3名	植田春美	
		B	3名		
	17	A	3名	鈴木郁美	
		B	3名		
	18	A	3名	前野真由美	

	日程	G	チーム	人数	教員	
シ ミ ユ レ ー シ ョ ン 実 習	6月6日～6月9日	5	A	5名	田中範佳	
			6	A		3名
		B		3名		
		7	A	3名		
			B	3名		
		8	A	3名		中岡正昭
			B	3名		
		9	A	3名		
	B		3名			
	6月12日～6月16日	1	A	3名	田中範佳	
			B	3名		
		2	A	3名		
			B	3名		
		3	A	3名	中岡正昭	
			B	3名		
		4	A	3名		
			B	3名		
	6月26日～6月30日	15	A	3名	中岡正昭	
			B	3名		
		16	A	3名		
			B	3名		
		17	A	3名	田中範佳	
			B	3名		
		18	A	3名		
7月3日～7月7日	10	A	3名	中岡正昭		
		B	3名			
	11	A	3名			
		B	3名			
	12	A	3名	田中範佳		
		B	3名			
	13	A	3名			
		B	3名			
	14	A	3名			
		B	3名			

5) 公衆衛生看護基礎実習

公衆衛生看護学実習 I (R4 カリ)

日程表Aグループ：(静岡市・西部) 59名

	2月9日(金)		2月13日(火)		2月14日(水)		2月15日(木)		2月16日(金)																																																																																																																					
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後																																																																																																																				
1	西部健康福祉センター 21名 鈴木・佐藤		御前崎市 4名 栗田		三菱電機 21名 鈴木・安藤		御前崎市 4名 栗田		まとめ グループワーク・発表 252講義室 鈴木 伊藤 杉山 253講義室 畑中 佐藤 栗田 安藤																																																																																																																					
2			ジャトコ 38名 畑中・伊藤	静岡市保健福祉 センター合同オ リ 38名 (北部保福セン ター・ 若月副主幹) 佐藤 伊藤 杉山 253講義室			静岡市北部 4名 安藤	静岡市城東 8名 伊藤			静岡市保健所 38名 栗田 杉山 伊藤 (AMのみ)	袋井市 13名 鈴木	静岡市清水 10名 杉山																																																																																																																	
3														静岡市南部 8名 佐藤	静岡市南部 8名 伊藤	静岡市南部 8名 伊藤																																																																																																														
4																																																																																																																														
5																																																																																																																														
6																																																																																																																														
7																																																																																																																														
8																																																																																																																														
9																																																																																																																														
10																																																																																																																														
11																																																																																																																														
12																																																																																																																														
13																																																																																																																														
14																																																																																																																														
15																																																																																																																														
16																																																																																																																														
17																																																																																																																														
18																																																																																																																														
19																																																																																																																														
20																																																																																																																														
21																																																																																																																														
22																																																																																																																														
23																																																																																																																														
24																																																																																																																														
25																																																																																																																														
26																																																																																																																														
27																																																																																																																														
28																																																																																																																														
29																																																																																																																														
30																																																																																																																														
31																																																																																																																														
32																																																																																																																														
33																																																																																																																														
34																																																																																																																														
35																																																																																																																														
36																																																																																																																														
37																																																																																																																														
38																																																																																																																														
39																																																																																																																														
40																																																																																																																														
41																																																																																																																														
42																																																																																																																														
43																																																																																																																														
44																																																																																																																														
45																																																																																																																														
46																																																																																																																														
47																																																																																																																														
48																																																																																																																														
49																																																																																																																														
50																																																																																																																														
51																																																																																																																														
52																																																																																																																														
53																																																																																																																														
54																																																																																																																														
55																																																																																																																														
56																																																																																																																														
57																																																																																																																														
58																																																																																																																														
59																																																																																																																														
60																																																																																																																														

日程表Bグループ：(富士・東部) 60名

	2月19日(月)		2月20日(火)		2月21日(水)		2月22日(木)		2月26日(月)																																																																													
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後																																																																												
1	富士健康福祉センター 26名 杉山 安藤		富士市 7名 安藤	富士市 オリ			ジャトコ 30名 杉山 伊藤		まとめ グループワーク・発表 253講義室 杉山 鈴木 栗田 254講義室 畑中 佐藤 安藤 伊藤																																																																													
2			中部健康福祉センター 34名 栗田 伊藤	富士宮市 12名 畑中							14名 安藤	富士市 7名 安藤	アマダ 30名 畑中 佐藤																																																																									
3											牧之原市 10名 栗田	島田市 12名 佐藤																																																																										
4																焼津市オリ 12名 鈴木	焼津市 4名 鈴木																																																																					
5																																																																																						
6																																																																																						
7																																																																																						
8																																																																																						
9																																																																																						
10																																																																																						
11																																																																																						
12																																																																																						
13																																																																																						
14																																																																																						
15																																																																																						
16																																																																																						
17																																																																																						
18																																																																																						
19																																																																																						
20																																																																																						
21																																																																																						
22																																																																																						
23																																																																																						
24																																																																																						
25																																																																																						
26																																																																																						
27																																																																																						
28																																																																																						
29																																																																																						
30																																																																																						
31																																																																																						
32																																																																																						
33																																																																																						
34																																																																																						
35																																																																																						
36																																																																																						
37																																																																																						
38																																																																																						
39																																																																																						
40																																																																																						
41																																																																																						
42																																																																																						
43																																																																																						
44																																																																																						
45																																																																																						
46																																																																																						
47																																																																																						
48																																																																																						
49																																																																																						
50																																																																																						
51																																																																																						
52																																																																																						
53																																																																																						
54																																																																																						
55																																																																																						
56																																																																																						
57																																																																																						
58																																																																																						
59																																																																																						
60																																																																																						

※人数は学生数 ※氏名は担当教員

地区視診

6) 公衆衛生看護学実習 I

公衆衛生看護学実習 I

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市清水保健福祉センター	5/15～5/26	9名	伊藤純子・杉山眞澄
富士市保健センター	5/8～5/19	10名	畑中純子・安藤継子
御前崎市役所	5/8～5/19	4名	栗田真由美
吉田町保健センター	6/19～6/30	4名	栗田真由美
静岡市東部保健福祉センター	5/15～5/26	8名	鈴木千智・佐藤瑠美
焼津市保健センター	6/19～6/30	6名	鈴木千智
静岡市南部保健福祉センター	6/19～6/30	6名	杉山眞澄・畑中純子
静岡市蒲原保健福祉センター	6/19～6/30	4名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	6/19～6/30	8名	安藤継子・伊藤純子
島田市保健センター	8/28～9/8	9名	佐藤瑠美
牧之原市保健センター	8/28～9/8	8名	鈴木千智・杉山眞澄
袋井市保健センター	9/4～9/15	3名	栗田真由美
静岡市城東保健福祉センター	8/28～9/8	8名	畑中純子・安藤継子
静岡県富士健康福祉センター	5/16	18名	畑中・安藤・伊藤
静岡県西部健康福祉センター	5/15	7名	伊藤純子・栗田真由美
静岡県中部健康福祉センター	6/19	27名	杉山・鈴木・佐藤・栗田・伊藤
静岡市保健所	5/11	35名	畑中・鈴木・佐藤・安藤・伊藤

7) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政・学校・産業)

公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政)

施設	実習期間	学生数	担当教員
富士市保健センター	5/29～6/9	6名	安藤継子
静岡市東部保健福祉センター	6/5～6/16	4名	鈴木千智
静岡市清水保健福祉センター	6/5～6/16	5名	杉山眞澄
静岡市南部保健福祉センター	7/3～7/14	4名	杉山眞澄
焼津市保健センター	7/3～7/14	6名	鈴木千智
静岡市蒲原保健福祉センター	7/10～7/21	4名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	7/17～7/28	4名	伊藤純子
静岡市城東保健福祉センター	9/11～9/22	4名	安藤継子
牧之原市保健センター	9/18～9/29	5名	杉山眞澄
島田市保健センター	9/18～9/29	6名	佐藤瑠美

学生数：51名

公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業)

施設	実習期間	学生数	担当教員
ジャトコ株式会社	5/29～6/9	4名	畑中純子
富士第1地区健康サポート室	7/3～7/14	6名	安藤継子
三菱電機(株)静岡製作所	7/17～7/29	4名	栗田真由美
JR 東海健康管理センター 静岡健康管理室	9/18～9/29	6名	伊藤純子

学生数：20名

公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校)

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市立大里西小学校	5/22～5/26	4名	畑中純子
静岡市立安東小学校	5/29～6/2	4名	栗田真由美
静岡市立富士見小学校	5/29～6/2	4名	伊藤純子
静岡市立東豊田小学校	6/5～6/9	4名	佐藤瑠美
静岡県立清水特別支援学校	5/29～6/2	4名	佐藤瑠美
静岡県立南部特別支援学校	6/12～6/16	4名	伊藤純子
静岡県立北特別支援学校	7/3～7/7	4名	畑中純子
静岡県立中央特別支援学校	7/10～7/14	4名	栗田真由美
静岡県立吉原林間学園	7/20	16名	畑中純子、鈴木千智

学生数(実数)：16名

総責任者：畑中純子

8) 国際保健・看護実習

P.52 を参照

9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習

実習総責任者 太田尚子

科目	学年	実習期間	実習施設	学生数	担当教員
妊娠期助産診断 技術学演習 (妊婦健康診査 実習)	1	6/1～7/20 (1回/週 8週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	2名	永谷実穂
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学基礎演習 (助産準備実習)	1	9/25～10/6 (2週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	2名	永谷実穂
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学実習	1	第1期 10/10～11/10 (5週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	2名	永谷実穂
		第2期 11/20～12/15 (4週間)	静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
周産期助産学実習 (NICU実習)	1	2/19～22 (4日間)	静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
			聖隷浜松病院	2名	永谷実穂
		2/19、20、22、26 (4日間)	静岡県立こども病院	2名	福島恭子
地域助産学実習	1	第1期 9/4～9/8 (5日間)	くさの助産院	2名	永谷実穂
			渡辺助産院	2名	太田尚子
			エス・アール・ハウス	2名	福島恭子
地域助産学実習	1	第2期 12/18～3/31の うち4日間	各学生の実習目的に 沿った施設・団体等	6名	太田尚子 永谷実穂 福島恭子 金田千依
助産学統合実習	2	4月～9月	渡辺助産院	2名	太田尚子

	(うち 10 日、22 日)			
	5 月～9 月 (うち 15 日)	おはな助産院	1 名	金田千依
	5 月～9 月 (うち 15 日)	エス・アール・ハウス	1 名	福島恭子
	5 月～9 月 (うち 12 日、22 日)	くさの助産院	2 名	永谷実穂
	4 月～9 月 (うち 23 日)	助産院こうのとり	1 名	福島恭子

4. 学生の研究

1) 学部の指導体制と研究テーマ

教員の学生担当数は、専門基礎・保健医療領域、環境看護学、基礎看護学領域、成人看護学領域、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-4-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「令和5年度（2023）卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-4-1 令和5年度（2023）看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1915002	青野 雅	夜間労働をする看護師における身体的・精神的影響についての文献検討	根岸 まゆみ
1915054	鈴木 琴美	看護職者が行うストレス対処方法のCOVID-19流行における影響	篁 宗一
1915103	室伏 優	独居高齢がん療養者の自分らしい療養生活継続への看護支援についての文献検討	富安 眞理
2015001	青木 文美	文献レビューで見る、長期入院中の高校に在学している慢性疾患患児の持つ思い-学習、友人に対する思いに焦点を当てて-	梁川 明
2015002	青木 保奈実	大気汚染とアトピー性皮膚炎の悪化	井上 健一郎
2015004	青島 麗奈	地域在住高齢者の社会関連性と身体機能の関連	加藤 京里
2015006	天野 日菜乃	在宅で療養生活を送る認知症高齢者の介護者に対する心理的看護支援についての文献レビュー	成瀬 早苗
2015008	安藤 望乃	静岡県における透析施設までの移動時間と死亡リスクとの関連	堀 芽久美

2015009	伊賀 紀枝	初期流産をした母親に対するグリーフケアの現状と課題に関する文献調査	永谷 実穂
2015012	市川 美月	20歳代女性の子宮頸がん検診の受診行動に影響する因子に関する文献検討	鈴木 千智
2015013	伊藤 ひなた	わが国における糖尿病患者のセルフケア向上を促す効果的な看護支援に関する文献レビュー	前野 真由美
2015014	伊藤 悠里	看護学部生におけるボディイメージと食行動の関連の実態調査	ヘムストック ウェンディ
2015015	梅原 晴香	2型糖尿病高齢者の自己管理指導における高齢者の特徴を踏まえた指導の工夫に関する文献レビュー	成瀬 早苗
2015017	榎田 凧紗	要支援・要介護高齢者の生活意欲を向上させるための支援についての文献レビュー	成瀬 早苗
2015018	遠藤 飛那乃	医療処置が必要となった重症心身障害児の親が意思決定した後に抱える心情についての文献検討	池田 麻左子
2015019	大島 那歩	花粉症の発症要因および症状緩和方法に関する文献調査研究	三崎 健太郎
2015021	大畑 莉杏	統合失調症患者が長期入院となる要因と効果的な介入についての文献検討	長澤 利枝
2015022	岡田 莉那	日本語でのコミュニケーションの難しい外国人患者が医療現場で抱える困難	山口 みのり
2015023	小澤 璃子	妊娠糖尿病の既往がある成人女性への糖尿病発症を予防するための産後の看護介入に関する文献検討	前野 真由美
2015024	織田 明佳音	術後の患者の回復過程における心理	山口 みのり
2015026	梶山 実優	体位変換における呼吸機能および循環状態への影響	田中 範佳
2015027	加藤 沙也香	統合失調症患者の家族が当事者と生活を共にしていく中で生じた感情についての文献検討	近藤 美保

2015028	加藤 望	市区町村別所得と悪性新生物死亡率の関連～生態学的研究～	堀 芽久美
2015029	加藤 瑞喜	働く女性の子育てに関するニーズと支援の実態	中川 有加
2015030	加藤 佑梨	母親役割獲得に影響を与える要因の分析	大和田 裕美
2015031	河合那々葉	NIPT と羊水検査を受ける女性とパートナーが置かれている現状に関する文献検討	長屋 和美
2015032	川井 風香	在宅認知症高齢者の家族介護者に対する訪問看護師の支援	加納 江理
2015033	川井 萌音	学校現場における若者の自殺対策の現状と課題	篁 宗一
2015035	河島 咲季	中年・高齢者の高血圧を有する人が血圧を下げるために有効な運動について	鈴木 千智
2015036	河田 茉瑚	終末期がん在宅療養者を支える家族に対する訪問看護師の支援	榊 みのり
2015037	木多 桃子	精神科病棟における暴言・暴力を起こす統合失調症患者に対する看護師の介入についての文献検討	長澤 利枝
2015038	北島 彩香	入院児のきょうだい支援の現状に関する文献検討～支援者の立場による違い～	山下 早苗
2015039	木原 玲名	笑いヨガが精神面に及ぼす効果についての文献検討—精神看護の場での自発的な笑いの活用を見据えて—	近藤 美保
2015040	木村 美月	救急外来での院内トリアージにおけるアンダートリアージの要因に対しての文献検討	中岡 正昭
2015041	久保田 夏央	国内の看護文献にみる一般病棟に入院中の高齢患者に面会制限が及ぼす影響	山田 紋子 長谷部 美紀
2015042	久保田 かりん	血液透析告知から導入決定までの患者の思いに関する文献研究	前野 真由美
2015043	小池 香奈	クリティカルケア領域における患者の意思を尊重した家族代理意思決定のための看護支援	林 みよ子 植田 春美

2015044	小林 萌峰	難病を患う子どもとその家族への情報提供のあり方	鈴木 和香子
2015045	五藤 歌音	急性期病院における脳卒中再発予防に関する文献検討	鈴木 郁美
2015046	後藤 紗希	被虐待児への看護介入に関する文献検討	丸山 始美
2015047	後藤 麟	日本の医療学生に行われているセクシャル・マイノリティについての教育の実態と課題	竹熊 カツマ タ 麻子
2015048	上村 佳蓮	児童虐待の予防支援における保健師の保護者への関わりに関する文献検討	栗田 真由美
2015050	薩川 日菜	未熟児・低出生体重児を育てる母親に対する保健師の支援に関する文献検討	安藤 継子
2015052	佐藤 夕紀	地域在住高齢者の IADL と身体機能の関連	加藤 京里
2015053	佐藤 柚希	医療における「やさしい日本語」：看護学生の知識と言い換え能力	濱井 妙子
2015054	佐野 琴音	先天性心疾患を合併するダウン症児の母親の心理過程に関する文献検討	長屋 和美
2015055	佐野 このみ	女子大学生の子宮頸がん予防行動における要因と促進方法に関する文献検討	福島 恭子
2015056	佐野 詩音	ペリネイタル・ロスを経験した母親の次子の妊娠・出産・育児における体験に関する文献検討	太田 尚子
2015057	澤野 琴海	看護学部の女子大学生を対象にした体型認識に関するアンケート調査	管原 清子
2015058	嶋田みのり	臨床看護師の医療通訳者の活用に関する認識と実践	濱井 妙子
2015060	清水 彩加	訪日外国人が日本の医療機関を利用する際の困難に関する文献検討	根岸 まゆみ
2015061	清水 ひより	地域共生社会における医療的ケア児の支援体制と看護の機能	佐藤 瑠美
2015064	杉山 叶愛	20代の被災者が心のケアを必要とする要因と看護職に必要な知識・技術の検討	根岸 まゆみ

2015065	鈴木 愛梨	生理中の女性への支援に対する男女の認識の違いについて	荒井 孝子
2015066	鈴木 葵	医療職者による ICT 技術の活用における課題についての考察	佐藤 瑠美
2015067	鈴木 愛結	在留外国人の安全な分娩に関する研究—日本人と在留外国人の死産の動向と特徴—	濱井 妙子
2015068	鈴木 哲平	急性期における頸髄損傷患者の文献検討	鈴木 郁美
2015070	鈴木 真菜	妊娠期から出産後1年までにおける児童虐待リスクのある女性を発見する視点	藤田 景子 太田 尚子
2015071	鈴木 麻紘	異なる体位におけるハンドマッサージによるリラクセス効果	加藤 京里
2015072	鈴木 悠乃	三次喫煙による曝露実態と健康影響リスクについて	三崎 健太郎
2015073	瀬川 千晶	産後の母親の孤立予防に効果的な支援に関する文献検討	永谷 実穂
2015074	高田 真帆	パーキンソン病患者の生活における体験に関する文献検討	林 みよ子 植田 春美
2015075	高橋 利乃	乳房切除術後に伴う日常生活動作に関する合併症に対する入院中の看護実践に関する文献検討	田中 範佳
2015076	高山 結月	男性介護者の介護負担感を招く要因に関する文献検討	栗田 真由美
2015077	瀧 未結	ペリネイタルロスを経験した父親の体験	福島 恭子
2015078	竹本 桃	産後うつ予防のための保健師と医療機関との連携体制	安藤 継子
2015079	田中 里実	ICU せん妄の予防に対する家族面会の効果についての文献検討	中岡 正昭

2015080	辻 華乃	HPV ワクチン接種行動の影響要因に関する考察-ヘルスビリーフモデルを用いた分析より-	伊藤 純子
2015081	傳田 彩乃	成人移行した発達性吃音患者の効果的な訓練方法に関する文献検討	操 華子
2015082	富永 結衣花	先天性心疾患児がひとり立ちするまでの過程で両親が抱える困難感に関する文献検討	山下 早苗
2015083	土橋 夏海	ラベンダーアロマオイルを用いた手浴の身体的・心理的效果	加藤 京里
2015084	中川 清花	パーキンソン病と診断された時から要介護状態に至るまでの療養者と家族の体験	林 みよ子 植田 春美
2015085	仲佐 めい	認知症高齢者が地域で生活する中で必要な訪問看護師の支援	富安 眞理
2015087	永井 美紅	労働者の治療と仕事の両立に関する課題とその対策	畑中 純子
2015088	夏目 胡桃	死産を経験した母親の次子妊娠・分娩・育児期の心情	福島 恭子
2015089	西島 なる美	コロナ禍で高齢者が体験した孤立による身体的・心理的・社会的変化に関する文献検討	操 華子
2015090	二宮 素乃	看護学生の入学次と4年次のコミュニケーション・スキルの比較	管原 清子
2015091	橋口 由佳	重症心身障害児者を持つ親の障害受容に向けての過程	山口 みのり
2015092	花村 愛菜	認知症に対するユマニチュードの効果に関する文献検討	管原 清子
2015093	濱口 美春	予防接種における子どもへの説明に関する文献検討	丸山 始美
2015096	深津 奈那	予期せぬ妊娠をした若年妊婦に対する支援の実態	中川 有加

2015097	藤沢 未羽	自閉スペクトラム症を持つ患者の家族が抱える課題に対する効果的な看護介入についての文献検討	長澤 利枝
2015098	藤田 千歩	小学校中・高学年におけるオンラインゲームの心理・社会的影響と対処方法の検討	竹熊 カツマ タ 麻子
2015099	藤巻 夏海	朝食摂取の有無が大学生の健康に及ぼす影響	鈴木 千智
2015100	堀内 瑠花	国内看護文献にみる再発乳がん患者の治療に対する意思決定プロセスと意思決定支援	山田 紋子 長谷部 美紀
2015101	升谷 弥英	終末期療養者の在宅看取りをされる家族に対する訪問看護師の支援	加納 江理
2015102	増田 妃南	母親はなぜ虐待に至るのか	山口 みのり
2015103	松下 千莉	移行期にいる慢性疾患を持つ子どもが獲得している自立性に関する文献レビュー	梁川 明
2015105	松本 花奈	サードプレイスとたべものカフェの比較によるたべものカフェの特徴と学生への健康影響	畑中 純子
2015106	眞野 陽世	がんの親をもつ子どもに対する支援のあり方についての文献検討	井上 健一郎
2015107	丸井 千怜	国内の看護文献にみる若年性乳がん患者のボディイメージの変容に対する心理過程	山田 紋子 長谷部 美紀
2015108	見崎 さくら	急性期病院に入院中の高齢者に対する認知機能障害の増悪を防ぐ看護に関する文献レビュー ―趣味や余暇活動に焦点を当てて―	成瀬 早苗
2015109	水上 真琴	きょうだい支援の疾患別による比較の検討	鈴木 和香子
2015110	宮崎 栞菜子	不妊治療を受けている女性の感情	大和田 裕美
2015111	宮代 桜華	がん療養者の“自宅で過ごす終末期”を支える訪問看護に関する文献検討	加納 江理

2015112	宮本 遥	高齢療養者とその家族の在宅復帰におけるセルフケアの促進とサポート体制の構築に関わる退院支援について	榊 みのり
2015113	村上 裕真	認知症高齢者の行動心理症状（BPSD）軽減に向けたコミュニケーション支援に関する文献検討	富安 眞理
2015114	村山 なぎさ	職種別の生活満足度への関連要因とこれらに対する COVID-19 の影響について	堀 芽久美
2015115	元谷 優里	患児の入院により生じる幼児期前期、幼児期後期、学童期におけるきょうだい児の影響に関する文献検討	池田 麻左子
2015116	山内 琴美	成人移行期世代の患児と家族への看護支援を振り返る	鈴木 和香子
2015117	山口 桃佳	看護師による高齢入院患者に対する非薬物的せん妄予防ケア	林 みよ子 植田 春美
2015118	山下 友菜	父親の産後うつの効果的なスクリーニングおよび支援方法に関する文献検討	伊藤 純子
2015119	山田 楓奈	過疎地域の在宅療養者に対する医療提供体制	山口 みのり
2015120	山本 裕季子	精神疾患を抱えた母親に対する児童虐待防止のための地域社会での取り組みの現状と課題	佐藤 瑠美

2) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、博士後期課程 1 名が博士論文審査および最終試験に合格、博士前期課程では 12 名が修士論文審査および最終試験に合格し修了した。

指導教員を中心に、副指導教員とともに指導が行われた。研究の実施にあたっては、多くの病院等の施設の支援・協力を得た。博士論文および修士論文発表会を令和 6 年 3 月 4 日（月）、4 年ぶりに対面で開催した。博士論文発表会は看護学研究科委員会委員を対象に、修士論文発表会は大学院生、学部生、教員、そして研究協力施設の関係者などを対象に開催し、多数の参加があった。

博士後期課程、博士前期課程の修了生の氏名、専門分野および論文題目、指導教員・副指導教員は下表のとおりである。

表 4-4-2 令和 5 年度看護学研究科博士後期課程修了生および博士論文題目等一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
栗田 真由美	看護学	高齢者虐待の対応経験をもつ熟練保健師の実践知と養護者のリアクションから導き出された統合モデル～高齢者の虐待対応支援への活用を目指して～	操 華子 藤田 景子

表 4-4-2 令和 5 年度看護学研究科博士前期課程修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
塚本 由佳	在宅看護学	心不全高齢者の急性増悪予防に関する訪問看護支援	富安 眞理 操 華子
中川 寿恵	助産学	ペリネイタル・ロスを経験した母親の家庭訪問におけるサポート・ニーズ	太田 尚子 篁 宗一
小村 博昭	看護技術学	学童期におけるダウン症児の呼吸器感染症の予防対策に関する質的記述的研究	操 華子 富安 眞理
曾根千尋	成人看護学	てんかん外科手術を決意してから手術後 1 年までの成人てんかん患者の社会生活における体験	林 みよ子 山田 紋子
坂本明海	公衆衛生 看護学	若年労働者の生活習慣に関連する要因-健康への関心度と労働環境に焦点を当てて-	畑中 純子 鈴木 千智
杉浦寿子	公衆衛生 看護学	子ども虐待予防のために 1 歳 6 ヶ月児健康診査で保健師が行うアセスメントのプロセス	畑中 純子 鈴木 千智

西尾彩夏	助産学課程	母親が高校生の娘の月経随伴症状に対処する上で抱えている困難	中川 有加 山田 紋子
飯田理加	助産学課程	初めての育児休業に向けた父親の事前準備	太田 尚子 篁 宗一
岡島和花	助産学課程	高齢出産後の早期閉経移行期に育児を行う女性の心身の不調	永谷 実穂 太田 尚子
栗田董	助産学課程	後期早産児を出産した母親が地域で生活する中で抱く困難と支援ニーズ	中川 有加 太田 尚子
瀧口莉佳子	助産学課程	生殖補助医療を受けて妊娠した女性に対する妊娠初期の助産ケア	太田 尚子 鈴木 和香子
増田梨那	助産学課程	性暴力被害に遭ったことを身近な人から相談された友人や家族等の適切な対応～性暴力被害者支援専門家の視点から～	太田 尚子 永谷 実穂

*学籍番号順

V. 学生生活

1. 学生定員および在学生数

1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学25名であり、収容定員は計530名である。

表 5-1-1 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年 編入生	4年生	4年 編入生	合計
学部定員	120	120	120	25	120	25	530
在籍者数	120	138	115	0	107	0	480
休学者数	1	7	0	0	1	0	9
退学者数	0	1	0	0	0	0	1

※在籍者数はR5年度当初、休学者はR5年度末、退学者数はR5年度内の数字

2) 研究科

看護学研究科博士前期課程の入学定員は16名、収容定員は32名、博士後期課程の入学定員は3名、収容定員は9名である。R5年度の博士前期課程在籍者数は、表5-1-2示すとおり、1年12名、2年13名であり、博士後期課程在籍者数は、表5-1-3に示すとおり、1年2名、2年3名、3年生4名である。

表 5-1-2 博士前期課程 定員および在学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	12	13	25
休学者数	0	2	2
退学者数	0	0	0

表 5-1-3 博士後期課程 定員および在学生数

	1年生	2年生	3年生	合計
入学定員	3	3	3	9
在籍者数	2	3	4	9
休学者数	0	0	2	2
退学者数	0	0	0	0

※在籍者数はR5年度当初、休学者はR5年度末、退学者数はR5年度内の数字

2.入学志願者数および入学者数とその背景

1) 学部

各入学試験志願者数（受験者数）を令和4年度→令和5年度で示すと、一般選抜前期132(121)→212(200)、一般選抜後期146(27)→182(59)、社会人選抜3(3)→0(0)、学校推薦型選抜50(50)→59(59)、編入学1(1)→0(0)であった。一般選抜の志願倍率は、後期は例年並みであったが、前期は2.5倍と昨年(1.38倍)より上昇した。これは前年度の低倍率に対する各高校の揺り戻し反応と考えられる。しかし県内での看護系学校の乱立による将来的な倍率の低値持続も予想されるため、引き続き選抜方法や募集人員の内訳の検討を慎重に行う必要がある。

表 5-2-1 令和5年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	212	200	86	84
一般後期	5	182	59	6	6
推薦	30	59	59	30	30
社会人	若干名	0	0	0	0
編入学	25	0	0	0	0
合計	145	332	202	128	120

※県内出身の入学者は100名（編入生を除いて）

表 5-2-2 令和4年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	132	121	88	81
一般後期	5	146	27	9	8
推薦	30	50	50	30	30
社会人	若干名	3	3	1	1
編入学	25	1	1	0	0
合計	145	332	202	128	120

※県内出身の入学者は108名（編入生を除いて）

2) 研究科

令和5年度入試の入学志願者数（博士前期）は看護学研究科の一次募集において9名、二次募集において2名であった（延べ11名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が10名で、社会人特別選抜での出願が1名であった。一次二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は11名であった。研究科全体としては志願者数が同数であった。また、なお博士課程の志願者は定員3名のところ出願者2名、合格者2名であった。選抜区分としては一般選抜での出願者が1名で、社会人特別選抜での出願が1名であった。合格者はいずれも入学手続きを行った。

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景(上：博士前期、下：博士後期)

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
入学志願者	8	9	21	16	15	16	14	16	11
入学者数	8	7	13	10	12	13	10	12	11
(うち社会人 特別入学)	(5)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(3)	(4)	(1)
	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度				
入学志願者	3	5	4	2	4				
入学者数	2	4	3	2	4				
(うち社会人 特別入学)	(2)	(3)	(1)	(0)	(3)				

3. 卒業・修了者の進路状況

1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(令和6年3月31日現在)

表5-3-1 学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

年度	性別	卒業生数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
令和3年度	男	7	7	—	0	5	0	2	6	1	—
	女	113	100	—	5	82	16	2	86	14	8
	計	120	107	—	5	87	16	4	92	15	8
令和4年度	男	7	7	—	0	7	0	0	7	0	—
	女	116	107	—	2	102	4	1	82	25	7
	計	123	114	—	2	109	4	1	89	25	7
令和5年度	男	1	1	—	0	1	0	0	1	0	0
	女	103	95	—	1	84	11	0	73	22	7
	計	104	96	—	1	85	11	0	74	22	7

2) 研究科

博士後期課程修了生は1名である。修了後の進路状況は、現職の継続で教職である。

博士前期課程修了生は、助産学課程6名、看護技術学1名、成人看護学1名、公衆衛生看護学2名、在宅看護学1名、助産学1名の合計12名である。修了後の進路状況は、助産学課程修了生6名は助産師として就職、公衆衛生看護学領域修了生2名が保健師として就職、社会人修了生は、現職の継続が4名（看護師3名、助産師1名）である。

表 5-3-2 博士前期課程 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成 26 年度	12	1	0	5	3	3	0
平成 27 年度	11	3	0	7	1	0	0
平成 28 年度	7	3	1	3	0	0	0
平成 29 年度	4	1	1	1	0	1	0
平成 30 年度	13	2	0	8	3	0	0
平成 31 年度 (令和元年度)	12	3	2	7	0	0	0
令和 2 年度	8	0	1	5	1	0	1
令和 3 年度	11	1	1	7	0	0	2
令和 4 年度	15	6	0	5	3	1	0
令和 5 年度	12	3	2	7	0	0	0

表 5-3-3 博士後期課程 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
令和 4 年度	2	0	0	0	2	0	0
令和 5 年度	1	0	0	0	1	0	0

4. 免許・資格などの取得状況

過去3年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表5-4-1に示した。令和5年度の全国合格率は、看護師87.8%（93.2%）、保健師95.7%（97.7%）、助産師98.8%（99.3%）であった。※（ ）は新卒者。

表5-4-1 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
令和3年度	116/119	94/97	7/7
	(97.5)	(96.9)	(100.0)
令和4年度	120/122	90/95	5/6
	(98.4)	(94.7)	(83.3)
令和5年度	103/104	86/86	6/6
	(99.0)	(100.0)	(100.0)

（ ）内は合格者数/受験者数の百分率

VI. 国際交流

1. 令和5年度国際交流等事業

今年度は5月以降渡航制限（海外実習、研修、視察など）が緩和されたこともあり、海外協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との交換留学が実現した。そして、4月からは国際看護演習8月にはタイのコンケン大学看護学部での国際看護実習を実施することができた。また、例年同様にオンラインによる国際交流活動も活発に実施した。また、今年度は静岡県が友好県として協定を結んでいるモンゴル国ドルノゴビ県のドルノゴビ医科大学、また令和5年4月に着任した竹熊教授の国際看護・研究活動からモンゴル国医科大学看護学部との国際学術教育についての学部間協定が締結されるなど国際交流が活発化した年となった。

【交換留学・臨地実習（タイ）】

2023年5月8日～20日は、本領域が主体となり協定校のコンケン大学看護学部からの交換留学生（3年生4名）を受け入れ、コンケン大学の担当教員と連携を図りながら実習指導と評価も行った。今年度の実習期間は2023年8月21日から9月1日の約2週間であり、教員2名の引率のもと（1名は後半の1週間から参加）本学部4年生4名が履修した。実習内容はコンケン大学看護学部のほとんどの領域（小児、母性、成人、老年、精神、地域・家族、国際他）のコーディネートにより、専門領域による講義や大学病院または地域の各種医療機関視察、地域の健康イベント、農家への地域実習などの内容が組み込まれた。主な実習施設は以下の通りである。

- 1) Srinagarind Hospital（コンケン大学の附属病院）
- 2) Khon Kaen Hospital（コンケン地域の総合病院）
- 3) Thunyararak Hospital（コンケン地域の病院）
- 4) PCU Samliam（依存症専門医療機関）
- 5) Health Promotion Center（母子保健センター、助産院）
- 6) Community center（保健センター）
- 7) Community visit Bankho village（バンコ村への地域実習）
- 8) Me Aura（タイ伝統医療施設）

本実習の過程においては、本履修生の英語力含むコミュニケーション力の上達が目覚ましく、各自が自発的に課題をこなし学習し、日々のディブリーフィングで臨床的思考の発展が見られた。したがって、本科目の目的「多様な地域環境に暮らす人々の健康な生活を守るための保健医療福祉に関わる取り組みにおける看護活動の実践を学ぶ。そして、グローバルな視点で看護職としての活動のあり方を学ぶ。」は達成できたと考える。

【COIL 授業開催とシンポジウムでの発表】

今年度も昨年に引き続きCOIL授業を展開し、タイ、アメリカ、日本を繋いだ合同講義なども試みた。本学の学生たちからも活発なエンゲージメントがみられた。また、地元の静岡新聞がCOIL授業について記事として取り上げ、静岡県立大学の活動としてCOIL授業が紹介された。

	実施日	科目名	オンライン接続先	本学生参加数	先方学生数	先方教員名
1	2023年 6月6日	発展看護実習	米国オレゴン健康科学 大学看護学部	3	50	Dr. Ruth Tadesse, Prof. Kristy Lanciotti
2	2023年 8月29日	国際保健看護 実習	米国オレゴン健康科学 大学看護学部	4	20	Dr. Ruth Tadesse, Prof. Kristy Lanciotti
3	2023年 6月6日	国際保健・ 災害看護論	コンケン大学看護学部 オレゴン健康科学大学 看護学部	122	5	Dr. Juraporn Tangpukdee, Dr. Ruth Tadesse
4	2023年 10月3日	発展看護実習 ・卒業研究	コンケン大学看護学部	6	120	Prof. Nisachon Bubpa, Dr. Arunnee Jaitiang, Dr. Kittiphoom phinyo

【COIL 授業の取り組みについて国際学会発表】

根岸講師はオレゴン健康科学大学（米国）と本学部の5年に渡るグローバル教育共同プロジェクトを実施してきた。令和3年度からはWendy Hempstock助教と上智大学看護学部の吉野八重准教授も同プロジェクトに参加した。根岸は、Hempstock助教、吉野准教授とオレゴン健康科学大学看護学部教員2名と共同し、これらの取り組みをThe International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会（令和5年7月カナダ、モントリオール）で発表を行った。

【国際学術教育協定締結と教員の教育活動（モンゴル国）】

令和5年5月にモンゴル国ドルノゴビ県からドルノゴビ医科大学のオットンチメグ学長と同大学の看護学科教員1名の表敬訪問があり、静岡県立大学看護学部との学部間協定への提案がなされ協定締結についての教授会承認が得られた。協定締結は、令和5年8月に本学教員2名（竹熊教授、荒井教授）と学生2名によるドルノゴビ医科大学への訪問の折

に山下早苗学部長の署名入りの協定書にオットンチメグ学長が署名、協定締結が成された。10月にはモンゴル国医科大学看護学部との学部間協定も締結された。

【国際学術教育協定締結に向けての活動（ベルギー王国）】

令和5年の6月には令和4年度から国際交流を行ってきたベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学を竹熊が正式に訪問し、学部間協定締結について提案、協定締結に向けた準備が始まった。令和6年5月に協定締結予定で協定書の内容について協議中である。

【国際学術教育協定締結に向けての活動（大韓民国）】

令和6年1月には韓国の慶熙大学看護学部からヨンヒー・ジョン学部長、ヨジン・イム副学部長が静岡県立大学看護学部を表敬訪問され、学部間協定への提案がなされた。令和6年2月の教授会で学部間協定についての承認が得られ、令和6年5月27日に慶熙大学看護学部にて行われる国際学術教育協定署名式に向け準備を進めている。山下学部長、篁研究科長、竹熊の3名が訪韓予定である。

2. 国際保健・看護実習

本科目は、学部間協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との短期交換留学プログラムの一環として設けられ、2019年度まで公衆衛生看護学領域の担当科目であり、2020年度から本領域の担当科目となった。しかし、同年初期に起こったパンデミック（新型コロナウイルス）の影響により2022年度まで閉講された。本学の科目（海外実習）における教員や学生の渡航許可が出たのは2022年6月である。したがって、2023年度に初めて本領域で本科目を開講する運びとなった。

今年度の実習期間は2023年8月21日から9月1日の約2週間であり、教員2名の引率のもと（1名は後半の1週間から参加）本学部4年生4名が履修した。実習内容はコンケン大学看護学部のほとんどの領域（小児、母性、成人、老年、精神、地域・家族、国際他）のコーディネートにより、専門領域による講義や大学病院または地域の各種医療機関視察、地域の健康イベント、農家への地域実習などの内容が組まれた。

【主な実習施設】

- 1) Srinagarind Hospital（コンケン大学の附属病院）
- 2) Khon Kaen Hospital（コンケン地域の総合病院）
- 3) Thunyararak Hospital（コンケン地域の病院）
- 4) PCU Samliam（依存症専門医療機関）
- 5) Health Promotion Center（母子保健センター、助産院）
- 6) Community center（保健センター）

7) Community visit Bankho village (バンコ村への地域実習)

8) Me Aura (タイ伝統医療施設)

1)～3)の病院ではそれぞれの看護部から歓迎と病院概要のオリエンテーションを受け、急性期から慢性期の病棟や外来を視察した。4)ではアルコールや薬物の依存症患者への外来・入院治療の過程、退院に向けた就業支援等について学習した。5)では母子への予防的取り組みから助産院の活動内容について視察し学習した。

6)のコンケン大学近郊の保健センターでは、地域住民への予防接種、初期医療、感染症対策等について学習し、保健センタースタッフと共に地域を回るアセスメントにも参加した。7)のバンコ村における地域実習では、コンケン大学の看護学部生と本履修生がペアを組み共同実習を行った。バンコ村までの行程では、市の保健所や市立保育園に立ち寄り、地域の医療政策や取り組みについて講義を受け、議員や医療職者とのディスカッションにも参加した。8)ではタイの伝統医療のマッサージやハーブを使用したヒーリングの施術を体験した。

上記の他に、コンケン大学や他大学の医療系学生、大学病院、地域の医療機関や企業、ボランティア団体が共催した「健康フェア」に参加し、地域住民へのヘルスプロモーション活動について学習の機会を得た。さらに、2023年5月に本学部へ短期交換留学に来たコンケン大学の看護学生4名が本学生4名を市内視察(寺院、美術館、ナイトマーケットほか)に引率するなど学生間交流によりタイの文化や生活に触れ学習する機会も得た。

実習最終日には本学生4名による文化紹介と成果発表会を実施した。文化紹介では浴衣を着て盆踊りを披露し、成果発表では本履修生の個々人の学び、日本とタイの医療制度や看護職者の役割の類似点・相違点、医療格差是正に関する考察などをまとめ発表し、コンケン大学看護学部の教員や学生から質問や好評価を得た。

本実習の過程においては、本履修生の英語力含むコミュニケーション力の上達が目覚ましく、各自が自発的に課題をこなし学習し、日々のディブリーフィングで臨床的思考の発展が見られた。したがって、本科目の目的「多様な地域環境に暮らす人々の健康な生活を守るための保健医療福祉に関わる取り組みにおける看護活動の実際を学ぶ。そして、グローバルな視点で看護職としての活動のあり方を学ぶ。」は達成できたと考える。

2024年2月22日には本学部生対象に「国際保健看護実習説明会」をハイブリッド開催した。春休み期間であること、本科目履修希望者が少ないことから参加学生は少数であったが10名ほどの教員参加が見られた。また、当日参加できなかった2名の学生から動画視聴の希望があり、後日動画リンクを共有した。

VII.看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

1) 専門基礎領域の活動

(1) 医学系教員の活動

<教育活動>

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「症候論」「病態学」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、臨床所見から臓器・組織病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明・観察する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「基礎セミナーII」）を行った。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの要因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、心電図測定、呼吸機能検査、血液・尿検査、経口ブドウ糖負荷試験（OGTT）などの生理学・検査法、放射線の種類と防護方法（距離、遮蔽、時間の三原則）などの環境科学実験、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指中の微生物の検出などの微生物学に関する実験を対面で、また抗微生物薬の効果判定などの実習項目についてはオンデマンド形式で実施した。今年度はノートについて書き方を詳細に指導し、また評価方法を事前学習、実験結果、スケッチ・図表・計算、考察に分けてルブリック表を用いたものを採用し、学生がより主体的に学び、実習を進めていき、それを客観的に評価できるように工夫した。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、論理的文章の書き方、文章表現やレポート作成方法、スライド発表に関する基礎教育を講義およびグループワーク演習により実施した。また、「基礎セミナーII」では、臨床で得られる情報を看護職者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。

<地域貢献活動>

堀、濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。ヘムストックは、高校生のための、英語又は科学の発表及び質疑応答のセミナーに参加した。

(2) 保健学系教員の活動

<教育活動>

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ち、モチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、自然災害、インフルエンザや COVID-19 の流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義に導入している。今年度の講義・演習は基本的には対面形式で実施した。講義終了後のリフレクションや演習問題を提出することによって授業内容の理解を深めてもらう工夫をしている。

<領域で行っている地域貢献活動>

堀は、袋井市と共同で実施する静岡多目的コホート事業の住民健康診断において、咀嚼力検査を行い、住民の健康情報を把握し、地域の健康づくりに取り組んでいる。また、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、公共公益施設の建築等について審査した。

濱井は、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネーターを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で医療通訳に関する調査を実施し、情報を提供している。

2) 環境看護学領域の活動

<教育活動>

看護学部

①担当した授業の特徴

環境看護学は、看護学と基礎医学をつなぐ位置づけで配置された部門である。教員は、教授1名であるが、専門基礎医学領域の教員と連携して授業運営を行った。

具体的には、機能形態学Ⅰ・Ⅱ、病態学、基礎セミナー、基礎健康科学演習、病態学等の科目を担当している。大学に入学した学生が看護を目指す上で習得しなければならない専門基礎医学が看護学にどのように繋がっていくかを示しながら授業を構築している。病

態学においては各非常勤講師がどのような内容の講義でどのような部門を学習しているか実態を把握し、非常勤講師を派遣していただいている静岡県立病院機構静岡県立総合病院との調整を行い、専門医を派遣していただいた。学生の授業評価からも満足度が高い評価が得られた。

②実習について

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、発展看護実習Ⅰは、「看護師の臨床判断とアセスメント」、発展看護実習Ⅱは、「地域連携を軸にした看護師の臨床判断とアセスメント」をテーマとして実習した。静岡赤十字病院およびしずおか日赤訪問看護ステーションの協力により、病院と在宅を中心に実習を展開する中で看護師の臨床判断について学習することができた。実習日程を余すことなく調整していただき、どの部署においても熱心に実習指導を行っていただいた。また、事前学習を踏まえた組織・地域全体をアセスメントする体験や看護師へのインタビューによって、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となり、将来の看護師像への展望を持つことができた。

次年度より開始となる多職種連携実習について、担当する実習施設との調整を行っている。

大学院看護学研究科

基盤看護学領域では基盤看護学分野を担当したが学生の受け入れはなかった。博士後期課程においては、共通科目の生体環境科学特講の担当であるが、履修者がいなかったため今年度は未開講であった。

<地域貢献活動>

2015年より看護師特定行為研修の指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として継続して活動している。2017年より静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員を継続して担当した。2023年度は、静岡県が開催した令和5年度特定行為研修に係る交流会（シンポジウム）の企画および座長を務め、交流会の運営に貢献した。

看護実践教育研究センターにおいては、センター運営、特定行為研修運営、特定一般教育訓練講座の運営、センターにおけるリカレント教育運営に寄与している。

また、2023年度は国際看護交流活動にも参画し、新しく看護学部との協定校となったモンゴル国立医科大学看護学部（ウランバートル）やモンゴル国立医科大学ドルノゴビメディカルスクールにおいて、教員間での教育・研究活動を推進する一貫として研究のプレゼンテーションを行い意見交換ができた。一方で、先方からの依頼による学部学生および卒業生に対するシミュレータを使った看護技術の公開演習を行った。現地の教員、学生、卒業生ともに非常に熱心に演習に参加した。

3) 基礎看護学領域の活動

基礎看護学領域

<教育活動>

① 授業運営について

令和5年度は令和4年カリキュラムが開始して2年目である。1年次開講科目は、看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰである。2年次は、令和4年カリキュラム開始の学年であり、看護アセスメント方法論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅱを開講した。また2年次の一部の学生に対し、平成30年カリキュラムで対応した。演習科目はこれまでに引き続き、感染に留意しつつ、学修内容と展開方法を検討しながら運営した。

授業資料は事前配布を行い、学生が主体的に事前学修に取り組めるように学修環境を整えた。演習科目では、基礎看護学教員が演習内容の模範となるオリジナルの看護技術動画を作成した。ナーシングスキルなどの e-learning の活用と演習要項の事前配布によって、学生の技術の修得を目指し、授業計画を工夫した。

② 実習について

基礎看護学領域における実習は、1年次「基礎看護学実習Ⅰ」（1単位）、2年次「基礎看護学実習Ⅱ」（2単位）、4年次「発展看護実習」（1単位）である。

「基礎看護学実習Ⅰ」は、1年生120名が履修した。静岡病院は1病棟5名×4病棟・4名×4病棟で計8病棟、赤十字病院は4名×4病棟の配置とした。昨年度同様、週1回の隔週実習の内訳を臨地2日・学内1日とした。また、最終日の成果発表会は実施せず、学内実施の看護部講義を実施した。2日間の臨地実習は、1日ずつ異なる病棟配置となったが、学生は看護の実際を見学し、患者ともコミュニケーションを図ることができ、一定の実習目標を達成することができた。総合評価の結果、120名合格した。次年度は臨地実習3日、成果発表会の実施を計画する。

「基礎看護学実習Ⅱ」は、2年生120名が履修した。カリキュラム変更に伴い、実習名称および実習内容の一部変更を行った。6月に隔週3日間で行っていた前半実習は、8月に1週間での実施に変更した。前半実習では今までよりも看護技術体験を強化し、看護援助の根拠を考えることに焦点化した。臨床の協力のもと、多くの看護技術を体験することができ、学生は体験した技術の意味を考えることができた。後半実習は、8月から2月に移動して1週間実施した。学生は原則一人の患者を受けもち、看護過程の展開、フィジカルイグザミネーションを行った。学生は初めて受け持ち患者を持ち、対象理解の方法や看護の思考過程を学修した。予定通りの日程・内容で臨地実習を行うことができ、実習目標は概ね達成することができた。

「発展看護実習」では8名が履修した。実習目的は「看護職の専門性の高い役割・機能について、主体的に実習を行う。病院の看護単位における看護管理を学ぶ。」である。実習前

半は、学内にて病棟の看護体制を学習した後、学生が経験した臨地実習を振り返り、看護管理が行われていた場面を再考して発表した。実習後半では臨地にて師長、リーダー層看護師、スタッフ看護師の看護業務を見学し、看護管理の実際を学んだ。最終日は個々の学びを共有してレポートにまとめ、実習目標を達成することができた。

<地域貢献活動>

永谷幸子

准教授として大学内外で活動し、令和5年5月31日付で本学を退職した。

山口みのり

静岡大学非常勤講師を兼務した。学会では、日本看護学教育学会教育活動委員として委員会活動、理事会企画・臨地実習指導研修会の企画運営を行い、日本看護研究学会査読委員を委嘱された。その他、県内病院施設にて研究指導を行った。学内では、看護実践教育センター公開講座「看護管理」に携わった。

加藤京里

静岡県看護協会学術研究推進委員会委員として会議への参加、研修の企画を行った。また、第12回静岡県看護学会の企画、運営に携わり、演題の査読、口演発表の座長を務めた。県内の看護職向け教育研修会の運営に携わった。生涯健康科学ジャーナルの編集委員を務めた。静岡県立大学大学祭（第37回剣祭）で一般参加者向けの模擬授業を行った。静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に企画から当日運営までの分担者として参加した。

管原清子

静岡市立静岡病院および静岡市立清水病院の地域医療支援委員として委嘱を受け、会議に参加し、地域医療や病院運営、感染対策に関する意見交換を行った。また、静岡市立清水看護専門学校の教育課程編成委員として会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」を主催した。女性健康相談室主催、看護学部附属看護実践教育研究センター共催の講座「これからの女性の健康を考えよう」に企画から当日運営までの分担者として参加した。日本看護協会の査読委員として活動した。

三沢萌伽

4月より非常勤職員として領域の学務に従事し、8月より助教に着任した。

* 高大連携出張講義

山口：静岡県立三島北高等学校

加藤：焼津中央高等学校

管原：静岡県立静岡城北高等学校

4) 成人看護学領域の活動

<教育活動>

成人看護学領域(学部)

① 教育目的および目標

成人看護学領域における教育目的は、成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する人々とその家族を対象者とし、根拠に基づいた系統的な知識、技術を適用して、対象者の健康障害の悪化予防・回復促進・緩和に働きかけ、可能な限りその人らしい生活と人生(life)が送れるよう援助できる能力を持った人材の育成を行うこととしている。

そのような教育目的の達成を目指して、以下の教育目標を挙げている。

1. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者を、解剖・病態生理学的知識や諸理論・概念に基づき身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者に対して、自ら判断して主体的に行動することにより、根拠に基づいた知識・技術を適用した援助ができる能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、他専門職と協働できるための基礎的能力を養う。

② 講義および演習

本領域では、2年次配当科目である慢性看護学概論(2単位)と慢性看護援助論演習(1単位)、3年次配当科目である急性期看護学概論(2単位)、急性期看護援助論演習(1単位)の計4科目(6単位)を教授している。

慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などを含む慢性疾患を有する人びととその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護である。概論および演習を通して、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、看護を実践するために必要な諸理論や概念・技術を理解し、その実際を学ぶ。

急性期看護学とは、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人びととその家族を対象とし、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を目的に行う看護である。概論および演習を通して、対象者の健康問題の特性、看護の基盤となる理論、科学的根拠に基づいた看護援助に必要な系統的な知識・技術を理解し、その実際を学ぶ。

③ 実習

「慢性看護学実習」、「急性期看護学実習」、「臨床シミュレーション EBN 実習」の3つの実習を行っている。各実習は2単位であり、1クールを2週間としている。

「慢性看護学実習」と「急性期看護学実習」は3年次後期に配当されている科目である。今年度の履修生はそれぞれ116名、117名であり、計40グループ、40クールの実習を行った。実習施設は静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病

院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの5ヶ所とした。コロナ禍での実習であることを鑑み、各施設の看護部および実習部署と密に連携しつつ行い、全クールを臨地で実施することができた。

「臨床シミュレーション EBN 実習」は4年次前期に配当されている科目であり、実習施設は静岡赤十字病院である。今年度の履修生は104名であり、18グループ編成とした。実習内容としては1グループを1～2チームに分け、チーム毎に、受け持ち患者に対するEBN(Evidence-Based Nursing)に基づく看護過程の展開と臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションを行った。コロナ禍での実習であることを鑑み、看護部および実習部署と密に連携しつつ行った。

成人看護学分野(研究科)

成人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と学生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。学生自身の看護実践と向き合ったうえで独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、応用演習(各現象への基本的理論の適用と評価、基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には博士前期課程1年3名、2年1名の学生が在籍した。

<領域で行っている地域貢献活動>

山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員を務めた。日本看護診断学会の評議員・専任査読委員・編集委員として活動した。また、静岡県看護協会が主催する令和5年度静岡県専任教員養成講習会において看護教育方法論(研究方法・文献検索・クリティーク)に関する講義を行った。研修「効果的なプレゼンテーション技法」の講師を務めた。さらに、看護診断研究会主催の第24回公開セミナーにおいて統括ファシリテーターを務めた。本学の高大連携事業として静岡学園高等学校にて出張講義を行った。

林 みよ子

日本クリティカルケア看護学会の編集委員および専任査読委員、日本救急看護学会・日本看護研究学会・日本赤十字看護学会・日本看護診断学会の専任査読委員として活動した。

静岡県看護協会主催の令和5年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程において「看護チームのマネジメント」の講師、静岡県立総合病院の看護部主催の看護師の研究活動の年間個別指導の講師を務めた。

看護実践教育研究センターにおいて、リカレント講座では担当者として全セミナーの運営に携わりつつ、「看護職のための看護研究セミナー1」の講師を務め、看護師特定行為研修では「疾病・臨床病態概論」、「地域在宅療養支援論」、「課題研究」の講義・演習と OSCE の一部を担当、臨地実習の事前実習、実習の記録、課題学習のまとめの指導を行なった。

前野 真由美

令和5年度生涯活躍のまち静岡事業（静岡市 CCRC）における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康：外国人の看取りと若年層の心理」のうちの1つ「韓国語版終末期ケア『みせてお話し』ノート」の作成、公表（静岡県立大学 HP）と「外国人高齢者のケア・介護を考える会」（9月24日、於：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」）の開催の主研究者を担った。

「外国人のための無料健康相談と検診会」の記者会見、チャリティーコンサート、検診会の準備、当日の運営（10月15日、於：静岡済生会総合病院）、今年度の評価と来年度の企画にボランティアとして参加した。

中岡 正昭

看護実践教育研究センターにおいて、リカレント講座では全セミナーの運営・広報業務に携わり、看護師特定行為研修では、急性・重症患者看護専門看護師として「臨床病態生理」、「臨床推論」、「疾病病態」、「医療安全特定行為」、「フィジカルアセスメント」、「シミュレーション演習」の講義を担当し、「縫合演習」、「超音波演習」、「気管カニューレ交換演習」、OSCE の一部を担当した。

静岡県教育委員会事務局特別支援教育課指導班が主催の県内特別支援学校教諭に対し、「静岡県特別支援学校看護師人工呼吸器管理研修」で講師を務めた。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県立吉原高等学校で出張講義を行った。

鈴木 郁美

令和5年度生涯活躍のまち静岡事業（静岡市 CCRC）における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康：外国人の看取りと若年層の心理」の研究分担者として「韓国語版 終末期ケア『みせてお話し』ノート」とコロナ感染症防止対策健康チェック表の韓国語版の作成において韓国語翻訳の確認、および「外国人高齢者のケア・介護を考える会」（9月24日）開催に協力した。

静岡県立大学の高大連携事業として、静岡県立浜松湖南高等学校で出張講義を行った。

長谷部 美紀

静岡済生会総合病院で開催された「第26回外国人のための無料健康相談と検診会」で医療ボランティアとして活動した。検診会の運営資金となる静岡英和女学院でのチャリティーコンサート、言語ごとの問診票等を準備するカルテ作成にボランティアとして参加した。

植田 春美

令和5年度生涯活躍のまち静岡事業（静岡市 CCRC）における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康：外国人の看取りと若年層の心理」の分担研究者として「韓国語

版「終末期ケア『みせてお話し』ノート」の作成、公表（静岡県立大学 HP）と「外国人高齢者のケア・介護を考える会」（9月24日、於：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」）の開催に協力した。

静岡県立大学の高大連携事業として、静岡県立富士東高等学校にて出張講義を行った。

5) 老年看護学領域の活動

<教育活動>

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すための基礎的知識を修得する。その上で実習では、高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化や老年期に生じやすい健康問題を持ちながら生活する高齢者を理解し、対象に応じた看護実践能力を養う、また、あらゆる生活の場や高齢者の理解を深め、望む生活を継続するための看護のあり方、高齢者を中心とした多職種連携および看護の役割について学び、高齢者観を養うことを目標にしている。

本年度の科目は、R4カリキュラム：「老年看護学概論」、「老年看護援助論」、H30カリキュラム「老年看護学演習」で構成されている。COVID-19感染症予防のため、老年看護学演習は、密にならないように講義室と実習室に分散して行った。また学習ノートを活用した自己学習を推奨した。

内容としては各科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する必要性を強調するとともに、高齢者看護を実践する上で必要となる基本的知識として、加齢現象や高齢者特有の症状の現れ方、認知症等の理解ができるようなものとした。老年看護学概論では、実際に高齢者にライフヒストリーのインタビューさせてもらい、高齢者の理解を深めるようにした。老年看護援助論と老年看護学演習では、実践の知を教授してもらうため、老人看護専門看護師の宗像倫子氏と認知症看護認定看護師の磯野たえ子氏の講義を取り入れた。また演習では高齢者の健康問題を抽出し、強みを活かし生活の質（Quality of Life）の確保と向上に資するような看護過程展開及び高齢者の倫理的課題について討議、高齢者疑似体験、口腔ケアを中心とした看護技術を教授した。

② 実習について

老年看護学実習Ⅰ（2単位）は、3年次117名が履修した。今年度は、回復期リハビリテーション病院と療養型病院を実習施設とし、4施設（静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、山の上病院、小鹿病院）にて実施した。

本年度は、COVID-19感染症拡大防止に努めながら、通常通りの日程で実施した。一部、実習時間短縮や学内実習への切り替えがあった。隣地実習を行った学生は、受け持ち高齢者

や実習指導者と積極的に関わることができ、看護過程の展開を行うことで高齢者に対する看護について学ぶことができたと考える。また、最終日の学内での学びの発表を通して、健康障害をもつ高齢者が望む生活支援、多職種の連携のあり方、看護職の役割について考察を深めることができた。

老年看護学実習Ⅱ（1単位）は、117名が履修した。介護老人保健施設の通所リハビリテーション部門にて実習を行い、在宅での高齢者支援として、要介護状態の悪化防止や介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設7施設（エスコートタウン静清、ケアセンター池田の街、アリス草薙、あみ、星のしずく、ケアセンター瀬名、こみに）にて実施した。COVID-19感染拡大の影響はなく、全員が臨地での実習を経験できた。実習最終日の発表会にて、実習施設での実習、学内実習ともに、在宅高齢者に関わる多職種間の連携や高齢者看護のあり方や役割について考察を深めることができた。

<領域で行っている地域貢献活動>

老年看護学領域

1) 健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、「県大生と！！動いて、骨骨（コツコツ）、健康に ～足腰鍛えてみませんか？～」というテーマで地域在住の高齢者を対象に「来・て・こ」にて健康講座を実施した。

成瀬早苗

- 1) 看護実践教育研究センター主催 地域貢献事業「イキイキと高齢期を過ごそう！」というイベントで企画と当日運営を行った。
- 2) 静岡社会健康医学大学院大学の客員研究員、静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループとして、静岡コホート研究「ふくけん！事業」に参加し、調査を実施した。
- 3) 社会福祉法人駿府葵会特別養護老人ホーム久能の里の第三者評議員を務めた。
- 4) 静岡市介護認定審査委員を務めた。

佐藤理乃

- 1) 看護実践教育研究センター主催 地域貢献事業「イキイキと高齢期を過ごそう！」の当日運営を行った。
- 2) 第30回日本排尿機能学会にて、排尿自立支援演題に関するポスターセッションの座長として、セッションの司会・進行を行った。また「JCS DEI,,diversity セミナー他科の医師・他の職種からみた【ウロの医者】～誤解から理解へ～」というセミナーにて、「看護師からみた泌尿器科」と題し講演を行った。
- 3) 令和6年度国立長寿医療研究センターの排尿自立支援研修会において、排尿自立支援に関する講演を行った。
- 4) 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会サテライトセミナーにおいて「褥瘡管理における排尿ケアの意義～超音波膀胱容量測定機器の実際～」と題し講演し、その後超音波膀胱容量測定機器を用いたハンズオンセミナーを実施した。

6) 小児看護学領域の活動

<教育活動>

学部における教育活動（講義）

2年生の「小児看護学概論」、3年生前期の「小児看護援助論」の対面講義（一部オンライン）を行った。講義では毎回リフレクションペーパーを用い、学生の感想や理解度、質問内容からなどわかりにくいポイント等の把握に努めた。4年生の「卒業研究」では、学生自らが持つ看護への課題を明確化し、個別の指導の時間をかけ、リサーチクエストンにつなげられるように導いた。研究計画の段階、研究の中間の段階、卒業研究発表会の直前の3段階において、PowerPointを使用したシミュレーション発表の機会を設け教員全員で指導した。

学部における教育活動（演習）

3年生を対象とした「小児看護学演習」では、感染拡大を予防する対策を徹底し、参集型の演習を実施した。前年度と同様に特別講師として、静岡県立こども病院地域連携室の看護師長及びMSWを招聘し、こども専門病院における看護実践や多職種連携について学習する機会を設けた。さらに、短期大学部との学部間協力員である松平千佳准教授の協力を得て、小児看護に重要なプレパレーションについて学習する機会を設けた。

演習体制の工夫としては、2つの演習室を確保し、1つの演習室に2名の小児看護学教員を配置した。DVDによる模擬事例を活用したグループワークによる看護過程の検討では、学生間のエンパワーメントの場になっており、思考過程を深めることができていた。映像による事例の提示であったため、紙面による事例よりも実際の小児患者の行動や態度をイメージすることにつながった。技術演習では、小児看護実践に必須である技術を中心に学習し、技術チェックシートを用いて自己評価を行った。技術として、子どものVS測定、身体計測、安全な移送、ベッド柵の管理、BLSについて修学できた。しかし、実習後の学生の状況により子どもの安全な環境整備の実践が不十分であることが課題となったため、学習の機会を設けていく必要がある。

学部における教育活動（実習）

全ての学生が静岡県立こども病院にて臨地実習（1名のみインフルエンザ感染により3日間のみ学内実習実施）を行うことができた。県立こども病院の実習指導体制は、各病棟に実習指導者が専属あるいは学生の患者さんを受け持ちながら指導にあたるため、学生にとっては一日の行動計画やケア内容について相談しやすい環境にあった。学生の実習アンケートの結果から、臨床指導者に対する評価は非常に高かった。しかしながら小児は病状の回復及び悪化のスピードも早いという特徴があり、小児看護学実習において「成長発達段階に応じた正確なバイタルサイン測定の実施」「子どもの健康状態の観察の仕方」について、全ての学生が十分学び技術の習得ができたとは言いがたい。今後も学生の理解度に応じつつ、個

別性のある小児看護特有の看護を適切に学生に教授していく必要がある。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、将来の活動の場を小児看護領域で考えている学生が多いことを考慮し、静岡県立こども病院で1週間「2名の患者を担当した多重課題に関する学習」を行った。また、地域における「多職種連携の活動の場での参加学習」も行い、病院以外の小児看護活動の場についても学習を深めることができた。

さらに、「基礎看護学実習Ⅱ」における指導教員不足の事態が発生したため、学部教育を支援するために、山下早苗教授・鈴木和香子准教授・丸山始美助教は、積極的に実習指導の代行業務を申し出て担った。

研究科における教育活動

博士前期課程の学生を対象にした「看護倫理特論」と「実践看護学特論Ⅳ」「実践看護学応用演習Ⅳ」、博士後期課程の学生を対象にした「看護学研究特講」と「小児看護実践開発特講」「看護学特別演習」を担当し、研究指導を行った。

看護実践教育研究センターにおける教育活動

特定行為研修の研修生を対象に小児独自科目である「在宅における子どもの成長発達支援論」と「在宅における子どもの看護演習」を企画運営した。今年度の研修生は昨年との2倍となる4名であったため演習方法を工夫した。医療的ケアを必要とする子どもの在宅生活の実態を知り、訪問診療を行う医師との連携について学びを深めるために、訪問診療に同行する演習を取り入れた。

<地域貢献活動>

山下早苗

- ・「静岡県立こども病院」に所属するクリニカルラダーレベルⅢにあたる看護師（9名）を対象に「看護研究」の講義や演習、研究指導を行った。
- ・「静岡県立こども病院」の看護部長および看護師長と共に、こどもを対象とする看護師育成に関する共同研究に取り組んだ。
- ・静岡県看護協会主催「暮らしをつなげる看護職員のための研修（看護倫理）」の講師を担当した。
- ・看護実践教育研究センター主催「看護職のための看護倫理に関する研修」の講師を担当した。
- ・山梨県立大学研究科の非常勤講師を継続し、「看護倫理」の講義を担当した。
- ・日本看護倫理学会の代議員を務めた。
- ・「看護科学研究」雑誌の編集委員および「日本看護倫理学会」の編集委員を担当した。
- ・「日本看護学雑誌」「日本放射線看護学会誌」の査読委員を継続担当し、研究支援を行った。

鈴木和香子

- ・ 静岡市医療的ケア児等支援協議会の委員として、静岡市内の医療的ケア対象児の就学、家族問題、人工呼吸器を装着した児童の通学問題など課題の取り組みを中心に年4回討議を行った。
- ・ 静岡県発達障害者支援地域協議会の委員として、年2回の協議に参加し、県内の発達障害児・者の支援及び教育環境の整備について意見を述べた。
- ・ 静岡県訪問看護ステーション協会の依頼を受け、年に3回「小児訪問看護研修」の研修を担当した。
- ・ リレー・フォー・ライフジャパン静岡 2023 実行委員としてイベント運営にかかわった。また、がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業・静岡県対がん協会ピアサポーター養成研修の研修会内において、「模擬相談」でピアサポーターとしての実際や体験を学ぶための演習を担当した。
- ・ 静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3月（継続看護師対象）、4月（新任看護師対象）、年2回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。
- ・ 静岡県教育委員会学校教育課からの依頼で、県の特別支援学校の自立活動教諭に対し、人工呼吸器管理の研修プログラムの作成、準備、実施を行った。
- ・ 静岡県看護協会主催の「静岡県専任教員養成講習会運営委員会」の委員として、講習会のカリキュラム、講義内容、受講者の合否判定、などの運営にかかわった。
- ・ そのほか、静岡県立看護学校の非常勤講師、伊豆の国市子育て支援技能講習会講師、難病の子ども支援全国ネットワークの静岡実行委員、HPS 国際シンポジウムの実行委員、富士市保育士キャリアアップ研修会講師、日本看護学会誌査読委員、静岡市中央子育て支援センターの講座の講師、高大連携出張講義などの活動をした。

池田麻左子

- ・ 静岡県立こども病院看護部に所属し、嘱託看護師としての兼務を継続した。
- ・ 岐阜県立大学大学院の非常勤講師として CNS コースの大学院生 2 名に対し、「小児看護アセスメント論」「小児看護援助論」の講義を担当した。
- ・ 静岡市静岡中央子育て支援センターの「子どもの日常における事故に関する講座」の講師、県立特別支援学校看護師等研修会（継続看護師対象）、静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室の依頼による看護師養成研修、静岡市特別支援教育センターの依頼による静岡市医療的ケア看護職員研修の講師を務めた。
- ・ 静岡県小児保健協会の実行委員、日本難病看護学会学術集会の企画委員を担当した。
- ・ 小児看護専門看護師の活動として、小児看護に関する商業誌の執筆、動画講義の監修・企画、小児看護に関連した学会や専門看護師会等が開催する学術集会及び研修での講師およびファシリテーターを務めた。

丸山始美

- ・日本がん看護学会が主催する SIG（小児・AYA 世代がん看護）学習会は、テーマ「死を経験する子どもと家族の看護を考えよう～小児・AYA 世代にとっての死とは～」が 11 月に開催され、50 名程度の参加者に対し、講師を行った。
- ・高大連携として、6 月に静岡県立静岡西高等学校の 1・2 年生（39 名）に対して、「静岡県立大学の概要、看護現場の労働環境」について対面形式による講義を行った。
- ・国際看護交流の一環として、5 月にタイ国コンケン大学の留学生 4 名に対し、子ども病院への視察の引率を行った。成果発表会にて、学生の学びを確認した。
- ・国際看護として、6 月にテーマ「Healthcare in Japan」のプレゼンの一部を担当した。対象者は、米国オレゴン州立オレゴン健康科学大学看護学部、編入 3 年生 50 名で、本学部の教員 7 名、4 年生 1 名にて実施した。
- ・静岡県立大学看護実践教育研究センター主催の国際交流事業「Yorisoi Project～寄り添いプロジェクト～」が 3 月に開催され、協力教員として支援を行った。
- ・モンゴル国ドルノゴビ県立医科大学の学長や教員の本学部視察時に小児看護学の紹介を行った。

梁川 明

- ・国際看護領域における米国オレゴン健康科学大学看護学部を対象とした Coil 授業において Global Health: Healthcare in Japan についての講義の一部を担当した。
- ・タイ国コンケン大学留学生を対象とした歓迎会を企画・運営した。またコンケン大学留学生の子ども病院見学における引率同行した。
- ・広島県へモフィリア友の会における血友病患者を対象としたサマーキャンプにおいて、賛助会員として参加し、患者家族に対して自己注射指導の支援を行った。
- ・県民の日に静岡県立大学小鹿キャンパスカレッジホールで行われた看護実践教育研究センター主催の小鹿キャンパスいきいきフェスタの準備や当日の運営補助業務を支援した。

7) 母性看護学・助産学領域の活動

<教育活動>

(1) 学部 母性看護学

看護学部 1 年次の専門基礎分野の科目である「身体と心のセクシュアリティ」では、セクシュアリティの視点から健康を考えられる学生を育てるため、セクシュアリティの概念・多様性・発達、性意識・性行動、プレコンセプションケア、性感染症、人工妊娠中絶、性暴力の内容を 7 名の教員が担当しオムニバス形式で実施した。毎回の講義では、講義内容に沿ったテーマでのディスカッションの時間を設けて、活発な意見交換が行われた。学生の関心は高く、授業評価アンケートでも総合評価 4.71（アンケートの回収率 93%）とよい評価を

得た。また、講義の一環として、第 45 回日本産婦人科医会主催の性教育指導セミナー全国大会に履修学生全員が参加し、それぞれの学びをレポート課題として提出した。

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護ケアの考え方、ケア方法について教授している。担当科目は、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、2 年次に概論的な講義から基礎知識を学び、3 年次には、各論的な講義から専門的な知識へと段階を追って学びを深め、その上で演習を通して思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習で統合するという流れで組み立てている。今年度は、COVID-19 感染の影響が続く中、感染対策を継続し、対面での講義・演習を実施した。

母性看護学概論では、母性看護学の対象となる女性および家族に目を向けた健康課題や法的制度にも関心を持てるような講義を展開した。女性特有の疾患に関する病態や治療、診断技術、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義から理解を深めた。そして、性感染症、不妊症、出生前診断など、報道等でも目にする機会の多いテーマを学生自らが選択し、文献学習を経て自分の考えをレポートにまとめた。また、対象となる女性および家族に関する問題を身近に捉えるために、開業助産師による地域での母子や家族への支援活動の実際についての講義を実施した。

母性看護援助論Ⅰでは、生殖の生理から、正常、異常を含めた妊娠・分娩・産褥経過について現場で活躍している産婦人科医師による講義を組み入れ専門的な知識の修得を図った。母性看護学担当教員は、母親になることへの支援に向けて、産褥経過や新生児に関する概論的な知識と母子相互作用からみた母乳育児支援についての講義を実施した。

母性看護援助論Ⅱは、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、4 名の担当教員により、オムニバス形式で講義を実施した。看護過程は、事例を用いながら個人による課題学習を進めると共に、看護過程の展開への理解を深めるため、教員が学生一人ひとりの看護過程を添削し、フィードバックを行った。

母性看護学演習では、担当教員が、各技術項目の内容、デモンストレーションの方法、学生への教授方法について事前に検討し、褥婦の健康診査、新生児のフィジカルアセスメントと沐浴、産後に必要な癒しケアとして足浴とハンドマッサージ、母乳育児支援のための適切なポジショニングとラッチオンに関して演習を実施した。健康教育では、グループで企画・進行・媒体作成および健康教育の実施とその評価までの一連のプロセスを体験し、グループ発表することにより学びを深めた。

母性看護学実習は、2 週/1 クール 5~6 人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の 6 か所であった。COVID-19 の影響のため、焼津市立総合病院は、学生 3 名まで病棟実習可という人数制限があったため、学生は 3 名ずつ 1 週間交代で臨地実習と学内実習を行った。その他の 5 施設では、通常通り 2 週間の臨地での実習を行った。臨地実習では、1 組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基

本とし、受け持ち母子がいない場合には、分娩期のケアや妊婦健康診査、産褥 2 週間健診の見学など産婦人科外来での実習を行った。学内実習では、経膈分娩と腹式帝王切開術での分娩のビデオを視聴した後、母乳育児が困難な症例の入院中から退院後までの経過を収録した DVD を視聴し、褥婦の看護過程の展開、健康教育のロールプレイ、実際のケアのシミュレーションを実施した。実習最終日のまとめの会では、臨地および学内実習での学びを文献で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習は、4 年生 11 名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所 1 か所に 5 名、母乳育児支援や産後ケアを行う助産所 2 か所に 1 名ずつの学生が実習を行い、地域における助産師の子育て支援について学びを深めた。また、子育て支援を行っている NPO 法人バディプロジェクト主催の育児イベントの開催にあたり、学生 4 名は、個々に実習計画を立案して主体的に主催者とコンタクトをとり、一部のイベントを担当して積極的に取り組んだ。10 月に発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・中川・永谷・大和田・長屋が各 2 名の学生、藤田が 1 名（10 月まで）の学生、福島が各 3 名の学生の計 13 名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを対面または学生の状況により、Microsoft teams を使用したオンラインで研究指導を実施した。

（2）大学院博士前期課程 助産学課程

博士前期課程 2 年生 7 名、1 年生 6 名が在籍した。

1 年次は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。県外在住の非常勤講師担当の一部講義は、ZOOM を活用したオンライン双方向形式を採用したが、その他は原則対面で講義・演習を実施した。

助産診断学演習 I・II では PBL を用いた授業を展開した。妊娠期助産診断技術学、助産技術学演習では、臨地実習に必要な知識・技術習得のための講義と演習を行った。統合ヘルスクエア論では、妊産婦の冷えと助産ケア、周産期の植物療法、東洋医学など、助産ケアに必要、かつ、より豊富な知識やスキルを習得できるよう演習を行った。新生児蘇生法(NCPR)講習会は、対面で実施し 1 年生 6 名全員が専門コースの認定を受けた。リプロダクティブ・ヘルス演習は、リプロヘルスサポーター認定に向けて、各テーマにおける研究者、開業助産師をはじめとする地域の専門家やの講義、避妊法・受胎調節法に関するプレゼンテーションを実施した。さらに本学看護学部 1 年生を対象に『自分と相手をまもるために～知っておきたい避妊のはなし』と題した、参加型形式の性教育講座を計画・実施して、高評価を得た。助産学概論では、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実を図るため、「周産期のメンタルヘルス」の講義を行った。さらに、助産管理論では、大学院で学んだ助産学生として、政策的に助産師の活動をとらえて、将来、活動することを狙い、「助産と政策」の講義を行った。実際に「助産と政策」では、日本看護協会会長の福井トシ子先生をお迎えして公開講

義を実施した。その後、政策提言に関して各学生が作成し、発表検討を行った。助産学特論と助産学応用演習は、Evidence-based Midwifery のステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式で行った。

臨地実習は、COVID-19 の 5 類感染症移行後も、感染防止策に努めながら、実習施設の基準に基づいて実施した。1 年次の妊婦健康診査実習は、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の 3 か所に 2 名ずつに分かれて、計 6 名が実習を行った。うち 1 名は、期間中の体調不良による出席日数不足のため、後日、渡辺助産院にて 2 日間の追実習を実施した。全員が妊婦健診および個別健康教育実施の機会を得た。助産学準備実習および助産学実習は、学生が静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の 3 か所に 2 名ずつ分かれて、計 6 名が実習を行った。学生は臨地にて妊婦の健康審査や保健指導を経験し、継続事例 1 例を含む分娩直接介助（9 例：3 名、8 例 1 名、7 例：1 名、6 例：1 名）を経験した。また昨年度、体調不良により分娩介助例数が少なかった学生は、3 月～5 月に渡辺助産院にて追実習をさせていただき、4 例の分娩介助を実施することができた。地域助産学実習第 1 期は、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 2 名、エス・アール・ハウスで 2 名が実習し、地域における助産師の役割と活動について学びを深めた。地域助産学実習（第 2 期）では、母子保健包括支援の観点から、地域における女性や母子の生活および支援、助産師の活動に焦点を当て、実際の健康課題をとらえ理解するため、各学生が各々実習先について調査しフィールドワークを行った。NICU 実習（周産期助産学実習）は、静岡県立こども病院で 2 名、静岡済生会総合病院で 2 名、聖隷浜松病院で 2 名が実習し、1 例のハイリスク母子の看護過程を展開し、胎児期からのつながりとしての母子の理解と支援、ハイリスク母子にかかわる多職種連携について学びを深めた。

2 年次の助産学統合実習では、助産院こうのとりを新たな実習施設として開拓し、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 2 名、エス・アール・ハウス、おはな助産院、助産院こうのとりで各 1 名の計 7 名が実習を行った。妊娠期末期からの継続事例 1 名の受け持ちを含む、1～2 例の分娩介助を経験し地域における助産師のプライマリケアと職責について学びを深めるとともに、より質の高い助産ケアの習得に努めた。

修士論文指導は、太田 3 名、中川 3 名、永谷 1 名、（藤田 2 名：10 月まで）の学生を主指導教員として担当した。1 名が 1 月から休学となったため、6 名が、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得した。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、6 名が 2 月の助産師国家試験を受験した。

看護学研究科を含む、助産師養成課程への進学希望者を対象に、8 月（第 12 回）と 3 月（第 13 回）に助産について語る会（MJ café）を開催した。参加した学部生は進学、母子保健やウィメンズヘルスケアへの関心が高まった様子うかがえた。

(3) 大学院博士前期課程 実践看護学(助産学領域)

1名の学生が、実践看護学特別研究を履修し、太田が担当した。データ収集、分析、論文作成を行い、12月に中間審査、1月に修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得した。この学生は、長期履修制度を利用して3年間で修了となった。

<領域で行っている地域貢献活動>

助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」を8月28日に対面で開催した。教育講演は、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック・師長である横山いずみ氏による教育講演「助産師による産後ケアの実際」であった。領域で主催した公開講義・特別講義は、「開業助産師による継続ケア」(出張さんばステーション日野春・松浦助産院 院長松浦照子先生)、「今改めて Women's Health を問うー健康寿命 100 年・ジェンダーイノベーション・Dx からー」(文京学院大学看護学研究科特任教授・高橋眞理先生)であった。助産学管理において助産と政策に関する内容では、国際医療福祉大学 国際医療福祉大学大学院副大学院長(前・公益社団法人日本看護協会会長) 福井トシ子氏による公開講義「母子の健康の現状を把握し、助産ケアにつなげる」を開催し、35人が参加した。

7月5日開催の新生児蘇生法(NCPR)講習会について、静岡市助産師会会員を受講対象とする公募制とし、1名が新たに受講、専門コース修了認定を得た。

静岡市助産師会と共催で、4月7日から4月28日まで小鹿キャンパス事務・図書館棟2階ギャラリーにて、助産師と助産所の活動を広めることを目的に助産所で生まれたばかりの赤ちゃんを囲む家族の写真など、10枚の写真パネルを展示し、12月5日から3月6日まで、「地域助産師との交流会ーGoto 産婆ー」を実施した。また、大和田が代表者となり藤枝市地域政策研究・創造事業の助成金を獲得し、助産学課程在学学生・同修了生、NPO 法人 place of peace、開業助産師とともに、9月16日「ハッピーパパマタニティ講座」、11月11日「親子で学ぼう こどもの健康管理 プレコンセプションケア」、11月18日「親子で考えよう 自分のからだ・大切なからだ」の講座を開催した。事業の成果は、2月29日、藤枝市産学官連携推進センターで開催された「令和5年度 藤枝市地域政策研究・創造事業成果報告会」にて、助産学課程の大学院生が活動報告や政策提言を行い、藤枝市から敢闘賞をいただいた。

さらに、2月19日から3月25日まで、静岡市およびNPO 法人 place of peace との共催で、子育て中の親を対象とした「ノーバディーズパーフェクトプログラム 完璧な親なんて、いないよ!」を開催した。

太田は、第37回日本助産学会学術集会(東京&ハイブリッド開催)において、教育講演「グリーンサポートの健康増進的アプローチ」の座長、一般演題「多様なケア」の座長、シンポジウム「流産・死産後の切れ目のないグリーンケアの実装のために」の企画、交流集会「周産期緩和ケアー周産期に子どもの生命が限られた重篤な状態と診断された妊婦・家族

の子どもとの過ごし方の意思決定支援」のファシリテーターを務めた。また、第 35 回静岡県母性衛生学会学術集会にて、総会の議長と羽衣セミナー「今改めて災害時における周産期体制について考える！」の座長を務めた。ペリネイタル・ロスに関しては、東京で開催しているサポートグループ「天使の保護者ルカの会」へ 6 回参加した。研修会の講師については、こども家庭庁母子保健課主催、母子保健指導者養成講座「流産・死産を経験した家族へのグリーフケア」(オンライン)、恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター主催の研修会周産期看護研修会<産科編>「周産期に子どもを亡くした家族のケア」(ハイブリッド型)、富山県看護協会「ペリネイタル・ロスのグリーフケア」(対面)、第 40 回水戸周産期懇話会「周産期におけるメンタルケア～ペリネイタル・ロスのグリーフケアに焦点を当てて～」(オンライン)の講師を務めた。また、全国助産師教育協議会の理事として、総会や理事会に参加した。さらに、看護実践教育研究センター主催国際交流事業「女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！」の司会・運営を担当した。

藤田は、伊豆の国市社会福祉協議会主催の子ども食堂の企画において、子育て親子を対象に「たいせつなじぶんのいのち～いのちの輝き」と題した命や性、性暴力被害帽子に関する講習での講師を務めた。困難な女性への支援に関するワークショップを運営し、性暴力被害を受けた方への看護職の支援に関する話をした。SBS 静岡放送のライブ静岡において、ジャニーズ事務所の性加害問題に関してビデオコメントを行った。

中川は、日本助産学会誌、日本看護学会誌の専門査読委員として、投稿論文の査読に携わった。全国助産師教育協議会のシミュレーション小委員会として、出生数の減少により直接分娩介助実習の例数が確保できなかつたりする場合に備えてシミュレーション教育の充実を図る目的で、他大学の教員および臨床教授 6 名で分娩期のシミュレーション 12 事例を作成した。また、全国助産師教育協議会の将来構想委員会の委員として、今後の助産師教育について計画立案を行った。保健師助産師看護師試験委員として、第 107 回助産師国家試験問題作成に携わった。公益社団法人桶谷式母乳育児推進協会の倫理審査委員会の委員長として研究倫理審査を行った。静岡市男女共同参画審議員として、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する教育および啓発の推進、人権に関する行動指針、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。静岡県看護協会の研究に関する研修会で質的研究及び研究計画書の講評の講師を担当した。メディカ出版主催の「昨日より少し自信がもてる実習 分娩介助セミナー」を愛育病院看護部長の石川紀子氏と共に講師をとって東京と大阪でセミナーを実施した。また、同じくメディカ出版主催の「フリースタイル分娩介助セミナー」を日赤医療センター元看護副部長の中根直子氏と共に大阪でセミナーを実施した。社会福祉法人駿府葵会介護施設の看護師対象に「看護研究」について講演を行った。第 54 回日本看護学会学術集会においてポスター発表の座長として発表の進行に携わった。

永谷は、小鹿キャンパス内で女性健康相談室を月 1 回の健康相談を開催 (12 月～3 月) した。看護実践教育研究センター主催の令和 5 年度県民の日地域貢献事業「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」にて「楽しく更年期とつきあおう！」を担当し、一般女性対象に

更年期の時期におこる身体の変化の理解を深めてもらい、自己チェックや自己管理の方法を紹介した。令和4年度開催の女性健康相談室主催の「これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー」の健康講座を令和5年度も10月に企画し、浜松医科大学基礎看護学講座・永谷幸子氏、本学基礎看護学領域・管原清子講師、精神看護学領域・近藤美保助教と講座をハイブリッド形式で開催し、小鹿キャンパス参加者は体験型の内容を実施した。第21回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会シンポジウム「更年期障害各症状への認知行動療法（CBT）によるセルフケアーホットフラッシュ、不安、不眠、泌尿生殖器症状へのアプローチの実際ー」のシンポジストとして「ホットフラッシュと寝汗のコントロール」を発表した。また、一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘルス研究所の幹事として、2月にオンライン研修会の企画・運営に携わった。焼津市介護保険審査会の審査委員として認定審査に携わった。一般向けの更年期女性に向けて、「メノ・マゼンタの会」としてメノポーズカウンセラー1名と2名で奇数月に1回、オンラインでミニ講座と座談会を平日の夜に開催した。

福島は、環境看護学・荒井孝子教授、菜桜助産所・堀田久美院長との共同研究の成果「子宮脱の整復およびペッサリー着脱の技術を獲得するための子宮脱モデルの改良について」、第565回日本医学教育学会でポスター発表を行った。また、この改良モデルおよび共同執筆した小冊子を用いて、8月21日県民の日「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」にて「骨盤内臓器脱予防&上手なつきあい方」講座を開催し、静岡県立総合病院産婦人科の医師・看護師・助産師を対象とした子宮脱患者に対するペッサリー着脱指導講習会で講師を務めた。ほかに、静岡県看護協会主催・新人助産師交流会「助産師のキャリアビジョンについて」、静岡県産婦人科医会主催・第14回羽衣セミナー「今改めて災害時における周産期体制について考える！」で講師を務めた。看護実践教育研究センター主催国際交流事業「女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！」の企画・運営を担当した。

大和田は、NPO法人 place of peace との共催でパートナーが妊娠中の父親を対象とした講座「ハッピーパパマタニティ講座」、子育て中の親を対象とした「ノーバディーズパーフェクトプログラム 完璧な親なんて、いないよ！」を企画しファシリテーターをつとめた。また、静岡県中部健康福祉センター主催の妊産婦及び母子支援ネットワーク会議において、事例検討のグループワークファシリテーターと他職種連携による切れ目ない母子・家族支援に関する講演を行った。看護実践教育研究センター主催国際交流事業「女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！」の企画・運営を担当した。

長屋は、静岡県立こども病院を拠点に活動を行う、低出生体重児の親の会「ポコアポコ」の定例会に参加すると共に、11月に静岡県庁で行われた世界早産児デーの展示企画に貢献した。

池田は、特別講義「開業助産師による継続ケア」（出張さんばステーション日野春・松浦助産院 院長松浦照子先生）の企画・運営を担当した。また、開業助産師をテーマにした映画「1%の風景」先行上映会の企画・運営を担当した。

母性看護学・助産学領域が主催した講座等

講座等の名称	開催日時	会場	参加者	共催・後援等
静岡県助産師会写真展	令和5年 4月7日～28日	静岡県立大学 小鹿キャンパス 事務・図書館棟2 階ギャラリー		【共催】 看護実践教育 研究センター 静岡市助産師会
新生児蘇生法専門 コース講習会	令和5年 7月5日(水)	小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室4	対象：静岡市内の 助産師・看護師 1名	
ひよこママの サブリ講座	令和5年 9月22日(金) 9月26日(火) 9月28日(木) 10:00～11:00 (全3回)	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室3	生後2～5ヶ月の 第1子とその母親 計6組	【共催】 看護実践教育 研究センター NPO法人 バディプロジェクト サブリ講座実 行委員会 【協力】 静岡市子ども 未来課 【後援】 静岡市助産師会
女性健康相談室主 催 これからの女性の 健康を考えようー 生き生きとステキ に年を重ねるため にー	令和5年 10月14日(土) 13:00～16:30	小鹿キャンパス オンライン (Zoom)	静岡県内在住の 30歳以上の 女性 会場13名 ZOOM3名	【共催】 看護実践教育 研究センター
藤枝市地域政策研 究・創造事業 「ハッピーパパマ タニティ講座」 「親子で学ぼう	令和5年 9月16日(土) 9:30～11:30 11月11日(土)	藤枝市産官学連携 推進センターBiVi キャン	パートナーが妊娠 期あるいは0歳児 の子を持つ男性11 名 小学生のお子様と	【共催】NPO法人 place of peace 【共催】看護実践 教育研究センター

こどもの健康管理 プレコンセプション ケア」、 「親子で考えよう 自分のからだ・大 切なからだ」	10:00~12:00 11月18日(土) 10:00~11:00		高校生の子の保護 者4名 5歳~8歳のお子 様とその保護者13 名	
地域助産師との交 流会 —Go to 産婆—	令和5年 12月5日(火) 12月13日(水) 令和6年 1月18日(木) 1月20日(土) 2月2日(金) 2月22日(木) 3月4日(月) 3月6日(水)	中央子育て支援セ ンター、まき助産 院、くさの助産院、 Ami助産院、いぶ きの助産院、まま ここっち・いなば 助産院、助産院こ うのとり、助産院 hanahakka	妊娠中の女性、育 児中の母親等 計56名	【共催】 静岡市助産師会
公開講義 「母子の健康の現 状を把握し、助産 ケアにつなげる」	令和6年 2月3日(土) 10:00~12:00	静岡県立大学 小鹿キャンパス 実習室3	助産学生、看護学 生、助産師、看護 師、保健師等 計 35名	
Nobody's Perfect プログラム 完ぺきな親なん て、いないよ!	令和6年 2月19日(月)、2 月26日(月)、 3月4日(月)、 3月11日(月)、 3月18日(月) 3月25日(月) 10:00~12:00 (全6回)	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5	0~3歳までの子を もつ親 13名	【共催】 NPO法人 place of peace 静岡市子ども未来 課 【後援】 看護実践教育 研究センター

8) 精神看護学領域の活動

<教育活動>

精神看護領域では、人間関係論、精神看護学概論、生涯発達心理入門（全学共通科目）、精神看護援助論、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門、卒業研究を担当した。

また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護実習を担当した。

対面授業を原則として行ったが、非常勤講師の都合上、講師の確保が困難な精神看護学概論はzoomによる授業とした。

また外部講師を招聘し臨床現場の実際（当事者からの体験談、司法精神看護、精神科の看護管理、精神科における看護管理や訪問看護、精神保健医療福祉における自殺防止対策等）についての講義を継続して実施した。

見学実習として実習前の3年生を対象に精神科医療の現場である沼津中央病院ところの医療センターの二施設を見学する機会を設けた。現場のリアルな状況について看護職から直接話を聞く機会や見学は、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高めることにつながっていた。

精神看護学実習において作業所実習では、1日ごとに別の作業所で実習を行い、各施設の特徴や通所者にとっての役割の違いを学んだ。さらに、これまで特に病院実習において患者との関わりを通して学習してきた、コミュニケーション・ストレングス・患者への関わり方等については各種課題を出して、学内でのDVD視聴・グループワーク・課題提出用録画作成等と、オンラインでのグループ検討・課題結果の発表等を行った。

最終学年の4年次発展看護実習においては、精神障がいを抱えた方々が地域の中で生活することの意味や課題を、3年次に行った精神看護学実習での学びを基に、作業所や支援センターでの実習を通して改めて考え、理解を深めることができた。さらに、精神保健福祉センターでの行政機関の実習では、精神保健を広く発展的に理解する機会を得ることができた。来年度は、今年度の学習スタイルを踏襲しながら、病院の外来デイケア部門での実習を少しでも取り入れることができるよう、実習施設側に働きかけていく予定である。

最新看護の動向では、国内外の精神保健福祉の領域をけん引する講師を招聘して、「ナイチンゲールの知られざる側面～女性史からの分析」（富田裕子先生：長野県立大学 グローバルマネジメント学部教授）の講義を行った。

臨床心理学入門、生涯発達心理入門では学内外の心理職や、LGBTの当事者や、障害を有する当事者の家族等の話を聞く機会を設けながら、心理学全般や、生涯発達の基礎について学ぶ機会を提供しながら講義を展開した。

大学院では精神保健看護学に関連する講義を担当した。また修士論文指導では副指導教員として二名の修士学生の指導を行った。また博士後期課程では主指導として一名担当した。

<領域で行っている地域貢献活動>

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、精神医療審査会の審査委員、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員の役割を担当した。また看護系の雑誌の査読、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校、富士市立専門学校の非常勤講師を担当した。静岡県からの依頼で教育関係者向けに自殺対策の講演会を実施した。静岡県内の精神科看護師を対象とした沼津中央病院の研究の講評、森町のストレス対処に関する講演を担当した。また全国自

治体病院協会の講演会を担当した。

長澤は、静岡福祉大学の非常勤講師を担当した。

近藤は、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校の非常勤講師、富士市立専門学校を担当した。静岡市地域活動支援センターみらい運営委員を担当した。

小泉は静岡県立看護専門学校の非常勤講師を担当した。

9) 公衆衛生看護学領域の活動

<教育活動>

(1) 講義・演習

令和4年度カリキュラムにより、2年次に保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論を開始した。公衆衛生看護学の科目は2年次までは必修であり、保健師課程を履修しない学生も学ぶ。公衆衛生看護学概論により地域における予防活動ならびに保健師の役割、ヘルスプロモーションにより保健活動の概念とあり方、保健医療システム論により地域の健康課題に即した政策ならびに課題解決に向けたシステム、コミュニティ・アセスメント論により健康に関する地域のとらえ方と生活について学ぶことで、看護師として臨床のみならず地域で暮らす人への看護へと視点を広げ、一人の人への臨床から地域への切れ目のない看護の提供のあり方を学修した。

3年次と4年次は平成30年度からのカリキュラムであるが、1年次から4年次までの公衆衛生看護学を積み上げられるようにそれぞれの科目からのつながりを重視した授業内容とした。また、学生の学習を効果的に進められるよう適宜グループワークを用いたり、ゲストスピーカーを招聘した。公衆衛生看護学演習では家庭訪問による個別支援と地域診断の健康課題を統一することで、学生が個別支援からの地域支援へのつながりを理解し、地域診断による健康課題を検討することができた。

(2) 実習

①公衆衛生看護学実習 I (令和4カリキュラム)

2年次後期に119名が保健所4カ所、市町村保健センター16カ所、事業場3カ所に分かれ、地区視診と学内まとめを合わせた5日間の実習を60名、59名に分かれ2週に渡り行った。保健所では地域の健康課題及び各種事業の概要の説明に加え、新任保健師による活動紹介等、学生が理解しやすい講義内容となるようなプログラム構成であった。市町村保健センターでは地域の健康課題及び各種事業の概要の説明と事業参加により学生が保健活動の実際を経験した。事業場では事業場概要及び健康課題と保健活動に関する説明並びに工場見学により労働環境からの健康課題と保健活動との関連を理解できた。地区視診はコミュニティ・アセスメント論で学んだ観察項目を学生の居住地にて各自実施して、他学生と人々の生活とそれに関連する地域の情報を共有することで地域の共通点・相違点を整理し、生活の場である地域の多様性と特徴を学べた。

学生は、本学習を通じて3年次での保健師国家試験受験資格取得課程の選択の意思決定をしやすくなり、選択しない学生にとっても、地域に暮らす人々への保健活動の学びは、医療機関から地域へと看護が継続されていることの理解に役立っている。

②公衆衛生看護学実習Ⅰ（平成30カリキュラム）

保健師課程を選択した87名が、県内4保健所、13保健センターに分かれて10日間実施した。

事前学習では既存資料の分析を行い、実習では地区踏査や住民・保健福祉関係者からの聞き取りを通して地域診断を行った。また学内で、各実習地の地域診断を発表し合うことで、地域の人々の暮らしぶりや健康課題の違いを学ぶことができた。さらに地域の特性に合わせた公衆衛生看護活動とは何か、行政保健師の活動を知ることで、その役割について考えることができた。

③公衆衛生看護学実習Ⅱ

30カリ学生のうち、本実習を選択した87名が、4年次前期に学生の希望により「行政」「産業」「学校」に分かれて、それぞれ10日間の実習を実施した。市町村保健センターを実習拠点とする「行政」で51名が、事業場を実習拠点とする「産業」で20名が、小学校と特別支援学校を実習拠点とする「学校」で16名が、18グループに分かれ、28施設で実習を行った。

「行政」の実習グループは、保健所4か所、市町村保健センター12か所にて、実習Ⅰで実施した地区診断に基づき、地域で展開されている各種保健事業への参加、家庭訪問、健康教育の実施といった予定をしていた実習内容を実施することができた。対象は乳幼児から高齢者まで幅広い対象であったが、それぞれの発達段階や暮らしの状況に応じ、地域の強みと弱みも意識しながら地区活動を学ぶことができた。実習Ⅰと同じ市町村で実施することにより、地域の特徴の理解が深まった。そのことにより、地域や住民の方々の中にある自らの健康を増進する力を高めようとする力に気づき、それを支援する公衆衛生看護活動における行政保健師の機能と役割を具体的に学ぶことができた。

「産業」の実習グループは、事業所3か所にて、働く場の特性に応じた産業保健活動の実際を学ぶことができた。作業条件に関連する健康障害の予防や安全のために職場巡視の必要性や観察すべき内容や行動変容に結びつけるための根拠に基づく保健指導について、事業所における健康課題の特徴と関連づけて理解することができた。実際に実施した健康教育や保健指導では労働環境を考慮した内容を考案できた。

「学校」の実習グループは、前半は静岡市内の小学校4校、後半は特別支援学校4校と吉原林間学園（1日の見学実習）で実習を行った。小学校では、学校保健活動の概要や児童生徒および職員の健康状態を把握し、健康課題を捉える方法を学んだ。養護教諭からの助言を基に児童生徒の健康状態を分析し、児童生徒を対象に保健教育を実施した。特別支援学校では、障害をもつ児童生徒への自立に向けた支援について理解することができた。児童心理治療施設では、入所している児童の特徴や保健師の役割について

理解を深めることができた。実習終了後には、実習グループ毎に実習内容の発表を行い、児童生徒の発達と健康課題、養護教諭の役割等、広く学校保健についての学びを深めた。

実習最終日の学内のまとめでは、同じ時期に実習を展開していた学生が学びを報告しあい、「行政」「産業」「学校」といった様々な場での保健師活動について理解を深めることができた。

<領域で行っている地域貢献活動>

令和5年度は、県内で開催された「産業看護学会」の第12回学術集会の集会長を畑中が務め、「とどけ！すべての働く人への健康支援～産業看護の力の結集～」というテーマのもと、多くの参加者を得て盛況のうちに終了した。また、「第69回東海公衆衛生学会学術大会」では、静岡県立大学を会場に「今、改めて考える健康危機管理」というテーマで、領域の教員が企画から運営に携わり、公衆衛生に携わる関係者の学びと交流の場になった(畑中、杉山、鈴木)。

地域の専門職への現任教育活動としては、静岡市新任保健師研修に協力し、1年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義とグループワークを行った後、3月には、地区活動の今年度の取り組みを発表してもらい、講義と共に今後どのように繋げていくかといった観点で助言と講評を行った(鈴木、佐藤)。静岡県の保健師には、8月に「新任保健師地域保健従事者研修会」で記録の書き方とアセスメントを、また「地域保健従事者研修(中堅期)」では、新任保健師研修の内容に加えて、新任保健師の人材育成についての研修を行った(杉山)。9月には静岡県保健師会の依頼により「効果的な健康教育実施のための理論、スキルに関する研修」を実施した(伊藤)。10月には袋井市健康長寿課の依頼により「地域包括支援センタースキルアップ研修～高齢者虐待対応について」の講師を務めた(栗田)。2月には、静岡県賀茂健康福祉センターの「賀茂地域健康福祉研究発表会」にて講話と8題の研究発表についての講評及び助言を行った(栗田)。また、静岡県看護協会の依頼により、3職能交流会で「子どもの権利と虐待の予防」を講演した(杉山)

静岡県中部健康福祉センター「新任保健師現任研修」を1月と3月に実施した(畑中)。静岡県富士健康福祉センター「新任保健師現任研修」を1月に実施し、2月には同管内の「地域保健・医療・福祉活動研究会」にて、6題の発表についての講評と講義を行った(鈴木千智)。その他、静岡県健康福祉部主催の「市町村等保健師管理者能力育成研修」において遠隔講義の作成(10月～11月)、集合研修当日(1月)の助言を行った他、「地域保健従事者(管理期)研究会・統括保健師連絡会(12月)」にて意見交換会における助言を行った(鈴木千智)。

その他、愛知産業保健総合支援センターの産業看護職のためのステップアップ講座で「産業看護職としてのメンタルヘルス不調者支援」の講師を1月に務めた(畑中)。静岡県看護協会主催の静岡県専任教員養成講習会の「看護教育課程論」保健師課程の講義

(7月)を行った(鈴木千智)。「認定看護師教育課程・乳がん看護分野」で、ヘルスプロモーションの講義を8月に行った(鈴木千智)。また、島田市健康増進計画等検討委員会委員長、静岡市保健所運営協議会委員として参画した(畑中)。静岡県国民健康保険団体連合会の「保健事業・評価委員会」の委員として地域の保健事業に関する助言指導を行う他、静岡県看護協会・保健師職能理事としても活動している(杉山)。静岡県の依頼により「包括的相談支援体制構築に係る市町へのアドバイザー」として活動している(栗田)。

10) 在宅看護学領域の活動

<教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。

学部1年生の「地域包括ケア」では、地域住民を中心とした地域包括ケアにおいて、あらゆる健康状態にある人々の生活を支える多職種連携と、看護専門職者の役割・機能について理解し表現できること、学部2年生の「地域家族支援論」では、家族の発達課題と健康問題への支援の展開方法を修得することを学習目標とした、事例検討を取り入れた授業を展開した。学部3年生の「在宅看護学概論」での学びを基盤に、「在宅看護学演習」では、医療機関や行政機関、訪問看護の立場において静岡市の地域包括ケアシステム推進に取り組む講師の活動事例から、地域包括ケアにおける多職種連携や看護実践について説明・表現できる能力を養う学習内容とした。

「在宅看護学実習」は訪問看護実習、在宅ケア実習の2部構成としている。在宅ケア実習では、重症心身障害児者通所施設(つばさ静岡、ぴゅあ)において看護師のシャドウイングや家族への聞き取りを中心とした実習を行い、2日目の実習日に通所サービス担当看護師が参加するカンファレンスを実施した。訪問看護実習では、①在宅療養者・家族への療養生活支援(訪問看護事業所)、②臨床判断能力テスト(学内)、③医療機関において在宅復帰を予定している患者への多職種連携支援(JCHO 桜ヶ丘病院、清水厚生病院、白萩病院)の内容とした。実習最終日に訪問看護事業所の指導者がオンラインで参加する成果発表会を行い、学びの共有を図った。

学部4年生の「発展看護実習」は、訪問看護ステーション5ヶ所、聖隷三方原病院のホスピスセミナー、医療機関(清水厚生病院)地域連携室、パーキンソン病友の会ボランティア、ICT救助隊コミュニケーション支援研修において、学生が主体的に実習計画を立案

して積極的に取り組み、12月の成果発表会で学びを共有した。実習の一環として、オープンキャンパスのイベント（文字盤を使用したコミュニケーション体験）を担当し、実習での学びを来学した高校生に伝える機会を持った。

<領域で行っている地域貢献活動>

富安眞理

- 1) 静岡市健康福祉審議会委員、介護保険専門分科会会長として、議会運営に参画した。
- 2) 日本看護科学学会誌、日本難病看護学会誌査読、日本在宅看護学会誌編集を行った。

加納江理

- 1) 静岡県看護協会認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師を担当した。
- 2) 日本看護学会誌、日本看護学会学術集会の査読を担当した。
- 3) 浜松市介護認定審査会の認定審査員を担当した。

榊みのり

- 1) 2023年4月～10月、日本腎不全看護学会誌の編集委員として活動した。
- 2) 第68回日本透析医学会学術集会で一般演題の座長を務めた。

11) 国際看護学領域の活動

<教育活動>

国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康維持・改善のために、地球規模の健康格差との背景を学び、国際保健における看護の役割と実際を学ぶ学問である。本領域では、災害看護も担当している。従って、学生は、国内外で起こる災害の種類、災害対策・疾患予防や、災害時支援における看護の役割と実際についても学習する。開発途上国、先進国、在留外国人の健康問題、災害発生前の対策や発生後について、それぞれの国・文化・宗教・言語などを考慮した看護について理解を深め、文化的能力を身につけるべく、学習し実践する。

2023年度の教育的取り組みは、例年同様、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践家・教育者・研究者たちを「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「災害看護セミナー」「発展看護実習」の1～2コマにゲスト講師として招き、国際保健や災害看護の最前線の学問や状況について学生が学習できる機会を提供した。ゲスト講義を含む全ての授業において学生参加型の多様なアクティブラーニングを実施した。

また、例年同様、Collaborative Online International Learning (COIL)型授業にも取り組み、合計4回のCOIL授業（下記参照）を達成した。

実施日	科目名	オンライン接続先	本学生参加数	先方学生数	先方教員名

1	2023年 6月6日	発展看護実習	米国オレゴン健康科学 大学看護学部	3	50	Dr. Ruth Tadesse, Prof. Kristy Lanciotti
2	2023年 8月29日	国際保健看護 実習	米国オレゴン健康科学 大学看護学部	4	20	Dr. Ruth Tadesse, Prof. Kristy Lanciotti
3	2023年 6月6日	国際保健・ 災害看護論	コンケン大学看護学部 オレゴン健康科学大学 看護学部	122	5	Dr. Juraporn Tangpukdee, Dr. Ruth Tadesse
4	2023年 10月3日	発展看護実習 ・卒業研究	コンケン大学看護学部	6	120	Prof. Nisachon Bubpa, Dr. Arunnee Jaitiang, Dr. Kittiphoom phinyo

2023年5月8日～20日は、本領域が主体となり協定校のコンケン大学看護学部からの交換留学生（3年生4名）を受け入れ、コンケン大学の担当教員と連携を図りながら実習指導と評価も行った。（本領域の「国際保健看護実習」開催については別資料：R5 国際保健看護実習を参照。）発展看護実習は国内実習と国外実習に分け実施した。国内実習では、1) COIL 授業での英語プレゼンテーションやディスカッションへの積極的な参加や、2) 外国人のための無料検診相談での支援活動、3) 神奈川県座間米軍キャンプ内のクリニックでの実習、4) 静岡県地震防災センターの防災士の方との教育実習等を実施した。国外実習では国際領域の発展看護実習の一部として8月に1名10日間の日程でモンゴル国医科大学看護学部、並びに静岡県が友好県として関係を結んでいるモンゴル国ドルノゴビ県にあるドルノゴビ医科大学を訪問、モンゴル国の医療職者養成機関と教育病院で見学実習を行った。発展の途上にある国の都市部と僻地の医療や教育の様子を現地で学ぶことが出来た。10月には3名の学生が国際領域の発展看護実習の一部として5日間の日程でモンゴル国医科大学看護学部とその実習施設において研修を行った。モンゴル日本友好病院、モンゴル国陸軍病院、高度専門病院である国立トラウマセンターも見学し、モンゴル国の医療モデルと実際の医療現場の状況を参観し学ぶことができた。

根岸は、2022年度に過去5年に渡りCOIL授業を協働主催してきた上智大学看護学部教員の依頼により同学部の卒業生（現看護師）1名の卒業研究を国際看護学会に抄録を応募する過程を指導した。結果として抄録が採択された。2023年度は、その卒業生の学会ポスター作成を指導し、The International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会（令和5年7月カナダ、モントリオール）に引率し、学会発表までの過程を指導した。なお、根岸も本学部でのグローバル教育の取り組みを同学会にて発表した。

最後に、領域横断の教育活動として、2020年度より在宅看護学領域と学部生の臨床判断能力育成について協働してきた。本領域科目（2年生）で臨床判断の教育を導入し、在宅

看護学領域の演習・実習（3年生）で実践・応用できるべく取り組んでいる。今後も領域横断で継続的な学部生の臨床判断力育成に取り組む予定である。

これらの教育的活動を通し、本学生や卒業生たちは各国の医療や看護問題について学習するだけでなく、異文化理解を深め、国際性を学び実践することができたと思われる。また、これまでに COIL 授業を共同開催した海外大学（米国：ポートランド大学、ボストンカレッジ、マルケット大学、オレゴン健康科学大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校・デイビス校）や本学との協定校（タイ国立コンケン大学、マヒドン大学）の教員たちともオンライン教育・研究交流を続けており、引き続き協働的なグローバル教育活動に努めていく予定である。

令和 5 年度の国際交流については、国際学術教育についての学部間協定が 2 件締結され、他 2 件の学部間協定についての合意がなされた。令和 5 年 5 月にモンゴル国ドルノゴビ県からドルノゴビ医科大学のオットンチメグ学長と同大学の看護学科教員 1 名の表敬訪問があり、静岡県立大学看護学部との学部間協定への提案がなされ協定締結についての教授会承認が得られた。協定締結は、令和 5 年 8 月に本学教員 2 名（竹熊教授、荒井教授）と学生 2 名によるドルノゴビ医科大学への訪問の折に山下早苗学部長の署名入りの協定書にオットンチメグ学長が署名、協定締結が成された。10 月にはモンゴル国医科大学看護学部との学部間協定も締結された。令和 5 年の 6 月には令和 4 年度から国際交流を行ってきたベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学を竹熊が正式に訪問し、学部間協定締結について提案、協定締結に向けた準備が始まった。令和 6 年度に協定締結予定で協定書の内容について協議中である。令和 6 年 1 月には韓国の慶熙大学看護学部からヨンヒー・ジョン学部長、ヨジン・イム副学部長が静岡県立大学看護学部を表敬訪問され、学部間協定への提案がなされた。令和 6 年 2 月の教授会で学部間協定についての承認が得られ、令和 6 年 5 月に慶熙大学看護学部にて行われる国際学術教育協定署名式に向け準備を進めている。

<領域で行っている地域貢献活動>

竹熊は主に国際保健、高齢者看護、看護管理の領域で地域貢献・専門領域貢献を行っている。国際保健関係では、モンゴル国医科大学看護学部看護学研究科、助産学研究科の管理学の講師として「クリニカルリーダーシップ」の講義を担当した（受講者 25 名）。また、竹熊は令和 4 年から取り組んでいる国際保健プロジェクトとして、青少年と障害者の健全育成と社会参加推進のために、リサイクル柔道畳を贈る活動のプロジェクトリーダーとして取り組んできた。令和 5 年 10 月にはモンゴル国体育大学、モンゴル国視覚障害者協会、モンゴル国ウランバートル第 63 学校（モンゴル国唯一の特別支援学校）に合計 386 枚の日本のリサイクル柔道畳を寄贈した。このプロジェクトにより、これまで運動をする環境が限られていた青少年や障害者に安全に年間を通じて運動ができる環境を提供することが可能になった。高齢者看護の領域では、特に高齢者の転倒に焦点を当て、健やかなエイジング、転倒しない体づくり、転倒に際した安全な着地法についての指導を行っている。特に筑波大学のつくばユナイテッド柔道クラブを拠点に高齢者、成人女性のウェルネス、健やかなエイジ

ングに向けたエクササイズクラスの提供を年間を通じて行っている。看護管理の領域においては看護ケアの質改善と看護管理者のサポートのために「クリニカルナースリーダー（CNL）研究会」の指導者として、毎月オンラインでの研究会に参加し指導、助言を行っている。医療機関を対象に、ダイバーシティ（多様性について）マネジメントについての教育活動にも従事している（国立病院機構看護管理者教育、病院評価機構など）。

根岸は依頼にて、研究分野である看護学生・看護師の臨床判断育成に関して①令和5年度石川県看護教育機関連絡協議会主催の研修会（参加者：看護教員90名）にて「改訂版『臨床判断モデル』に込められた看護教育へのメッセージ」と題して講演、②令和5年度国立病院機構東海北陸グループ主催の研修会（参加者：看護教員50名）にて「臨床判断能力育成の教育ストラテジーと評価」と題して講演、③一般社団法人日本看護研究学会第37回近畿・北陸地方会学術集会主催のシンポジウム「自律した看護師育成のための看護基礎教育とは」にて「臨床判断を培う教育ストラテジーと評価」と題して口演を行った。

<領域で行っている研究活動>

竹熊は現在国際共同研究を含める4つの研究課題に取り組んでいる。1) モンゴル国における心不全患者への看護師によるセルフケア教育の効果（国際研究）；2) 振動運動が高齢の慢性病（糖尿病）患者に与える効果（国際共同研究）；3) 転倒予防・転倒時の安全な着地のためのエクササイズプログラム開発（国際共同研究）そして、4) 看護管理者のためのサポートシステム創り（クリニカルナースリーダー（CNL）研究会の実践である）。

根岸はオレゴン健康科学大学（米国）と本学部の6年に渡るグローバル教育共同プロジェクトを実施してきた。令和3年度からはWendy Hempstock 助教と上智大学看護学部の吉野八重准教授も同プロジェクトに参加した。根岸は、Hempstock 助教、吉野准教授とオレゴン健康科学大学看護学部教員2名と共同し、これらの教育的協働取り組みをThe International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会（令和5年7月カナダ、モントリオール）で発表した。また、根岸の研究分野である看護学生・看護職者の臨床判断能力育成に関する研究結果は教員研修や学術集会で講演し地域貢献に繋げているほか、本領域の科目「災害看護セミナー」にて臨床判断力育成を実践している。

2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動

1) 研究活動

原著論文

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
井上 健一郎	Differential pattern of cell death and ROS production in human airway epithelial cells exposed to quinones combined with heated-PM2.5 and/or Asian sand dust. Honda A, Inoue K, Higashihara M, Ichinose T, Ueda K, Takano H. Int J Mol Sci 24 (13) 10544 2023 年
堀 芽久美	「Nursing support for breathlessness in patients with cancer: a scoping review.」、Kako J (他 11 名)、BMJ Open、12、 e075024、 2023 年
	「 Hemodynamic Variability During Drainage of Large Volumes of Malignant Ascites in Patients With Cancer.」、Kawamura T (他 5 名)、Clin Nurs Res、32、 815-820、 2023 年
	「Economic burden of cancer attributable to modifiable risk factors in Japan.」、Saito E (他 15 名)、Glob Health Med、5、 238-245、 2023 年
	「Cancer Prevalence Projections in Japan and Decomposition Analysis of Changes in Cancer Burden, 2020-2050: A Statistical Modeling Study.」、Nguyen PT (他 3 名)、Cancer Epidemiol Biomarkers Prev、32、 1756-1770、 2023 年
	「 Cancer incidence and type of treatment hospital among children, adolescents, and young adults in Japan, 2016-2018.」、Nakata K (他 10 名)、Cancer Sci、114、 3770-3782.、 2023 年
	「Cost-effectiveness of preventive aspirin use and intensive downstaging polypectomy in patients with familial adenomatous polyposis: A microsimulation modeling study.」、Saito E (他 11 名)、Cancer Med.、12、 19137-19148、 2023 年
	「Nursing support for breathlessness in patients with cancer: a scoping review.」、Tsuge H (他 17 名)、Cancer Sci、115、 623-634、 2024 年
加藤 京里	足背皮膚温と快適な足浴の湯の温度の関連」、細川 諄、木村春香、加藤京里 (3 名)、医学と生物学、163 (4)、i4Oj05 (P1-9)、2023 年
濱井 妙子	「やさしい日本語」、医療通訳,e ラーニング, プログラム開発, 大野直子、岡部純子、濱井妙子、Education Studies 66 International Christian University、P83-91、2024 年

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
	訓練をうけた医療通訳者による通訳変更の種類と頻度、濱井妙子、永田文子、大野直子、西川浩昭、東野定律 (5名)、国際保健医療、38巻、P179-192、2023年
	Evaluating the proposed conceptual framework for quality assessment of medical interpretations, Taeko Hamai, Ayako Nagata, Naoko Ono, Hiroaki Nishikawa, Sadanori Higashino (5名), Patient Education and Counseling, 123, 2024. https://doi.org/10.1016/j.pec.2024.108233 . Online ahead of print
	Regulatory mechanisms of glucose absorption in the mouse proximal small intestine during fasting and feeding. Nakamura, C., Ishizuka, N., Yokoyama, K., Yazaki, Y., Tatsumi, F., Ikumi, N., Hempstock, W., Ikari, I., Yoshino, Y., & Hayashi, H. (10), Scientific Reports, 13, 10838, 2023
Hempstock W e n d y L e a n n e	The effect of claudin-15 deletion on cationic selectivity and transport in paracellular pathways of the cecum and large intestine. Hempstock, W., Nagata, N., Ishizuka, N., & Hayashi, H. (4), Scientific Reports, 13, 6799, 2023
	Na ⁺ -dependent intestinal glucose absorption mechanisms and its luminal Na ⁺ homeostasis across metamorphosis from tadpoles to frogs. Ishizuka, N., Nagahashi, M., Mochida, Y., Hempstock, W., Nagata, N., & Hayashi, H. (6), AJP Regul. Integr. Comp. Physiol., 324, R645-R655, 2023.
佐藤理乃	急性期脳卒中患者の尿道カテーテル抜去時の意識レベルによる尿排出機能障害の経過：後ろ向き調査、佐藤理乃(6)日本老年泌尿器科学会誌、36、58～66、2023
池田麻左子	臨床における患者・利用者への呼称・愛称に関する文献検討。池田麻左子(他5名)、せいい看護学会誌、第14巻第2号、25-32、202
丸山始美	ターミナル期にある小児がんの子ども意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についてのナラティブ、丸山始美(3名)、日本看護倫理学会誌、15(1)、p83-91、2023

総説(翻訳を含む)

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
山下早苗	ナラティブを用いて看護倫理を教える・学ぶ：患者の拘束を解いた看護から。磯野たえ子、大石志津、小村博昭、芝田寛子、山下早苗、小西恵美子。日本看護倫理学会誌、16巻、71-74、2024
濱井妙子	臨床現場における通訳の質の評価方法に関する文献レビュー。濱井妙子、永田文子、大野直子、西川浩昭、東野定律(5名)、日本ヘルスコミュニケーション学会誌、14巻、P39-54、2023年
加納江理	中高年看護師のキャリア継続に対する看護管理者の支援に関する研究、加納江理(他2名)、日本看護学会誌、Vol18.No.2、2023

著書(翻訳を含む)

氏名	著者名、書名、発行所、発行年	単著・共著・編著・分担執筆の別	総頁数	執筆頁数
永谷実穂	高橋真理監訳 (6名)、女性の更年期症状緩和のための認知行動療法	共著	176	24-33、41-55、58-74
池田麻左子	重症心身障害児の看護 へるす出版、2022	共著	251	24
伊藤純子	伊藤純子、高橋佐和子 (2名)、「新任期保健師でもできる！おもしろ健康教育のつくり方」、医学書院、2024年2月	共著	121	P1-121

教科書の執筆・作成

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年	単著・共著の別
林みよ子	北川雄光・江川幸二編集 (著者 38名) 系統看護学講座・別巻・臨床外科看護各論 (第10班)、医学書院、2024年	共著
竹熊カツマ タ麻子	グレッグ美鈴/池西悦子 (20) 看護教育学、南江堂、2024年	共著
山口みのり	山口みのり (35名)、2024年度版 准看護師試験問題集、医学書院、2023年	共著
鈴木千智	松田正己 (18名)、標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2023年	共著
	木下由美子 (34名)、エッセンシャル地域看護学、医歯薬出版、2023年	共著

紀要

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
鈴木和香子	在宅で生活している重症心身障がい児へのリフレクソロジーの効果、中垣紀子、西野厚子、上田一稔、三宅由起、鈴木和香子

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
永谷実穂	「更年期からのヘルスケアとメノポーズカウンセラーの活動について」、「更年期と加齢のヘルスケア」、22、P23-28、2023
大和田裕美	「コミュニケーションと身体性」から考える助産師と出産するひととの関係、大和田裕美、質的心理学フォーラム、15、82-85、2023
安藤継子	令和元年「全国児童相談所保健師のつどい」が始まった…そして今、安藤継子、杉山眞澄、藤田登志美(3名)、保健師ジャーナル、令和6年度発行予定
太田尚子	「12週未満の流産を体験された方へ」、石井慶子、蛭田明子、堀内成子、太田尚子、(4名)、日本ペリネイタル・ロス研究会、p1-16、2023年

会議録

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
濱井妙子	Ono Naoko, Hamai Taeko, Okabe Junko (3名)、希少言語話者が医療通訳を学ぶ時の課題に関するフォーカスグループインタビュー(Focus Group Interview on the Challenges of Rare Language Speakers Learning Medical Interpretation)(英語)、国際保健医療、38巻、P163-164、2023年

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
篁宗一	精神障がい者とともに生きる	全国自治体病院協議会	60分	静岡市	令和5年7月27日
	研究発表会講評	復康会研究発表会	20分	沼津市	令和6年2月11日
畑中純子	産業看護職のめざすもの	日本産業看護学会第12回学術集会	30分	静岡市	令和5年10月
太田尚子	シンポジウム「グリーフケアの原点とエンドポイント」	第6回グリーフ&ビリーブメント学会学術大会	15分	京都市	令和6年3月3日
永谷実穂	「更年期障害各症状への認知行動療法(CBT)によるセルフケア(ホットフラッシュ, 不安, 不眠, 泌尿生殖器症状へのアプローチの実際)」	第21回日本更年期と加齢のヘルスケア学会	15分	Web	令和5年11月5日

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
根岸まゆみ	臨床判断能を培う教育戦略と評価	日本看護研究学会 第 37 回近畿・北陸地方会 学術集会	90 分	敦賀市立看護大学	令和 6 年 3 月 16 日
佐藤理乃	JCS DEI,, diversity セミナー他科の医師・他の職種からみた【ウロの医者】～誤解から理解へ～看護師からみた泌尿器科医師	第 30 回日本排尿機能学会	10 分	千葉市	令和 5 年 9 月 9 日

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
荒井孝子	フェムテック・フェムケアに寄与する子宮脱シミュレータの開発と応用	第 55 回日本医学教育学会	長崎市	令和 5 年 7 月
山田紋子	コロナ禍における成人看護学領域で必要とされる看護実践能力の獲得に関する臨地実習プログラムの検討と評価	US フォーラム 2023	静岡市	令和 5 年 11 月
富安真理	地域住民と地域の看護職との交流を生かした看護基礎教育の推進	US フォーラム	静岡市	2024 年 11 月
	静岡県の地域医療推進に寄与する看護人材育成を目指す特定行為研修の取り組み	第 27 回日本統合医療学会 学術集会	静岡市	2024 年 12 月
加藤京里	バイタルサイン測定における看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	日本看護科学学会第 43 回学術集会	下関市	令和 5 年 12 月 10 日
山口みのり	COVID-19 パンデミックにおける新人看護師の経験と思い—海外文献のスコopingレビュー	第 43 回日本看護科学学会学術集会	下関市	令和 5 年 12 月
杉山眞澄	管理的立場の保健師の人材育成～管理能力の継承方法の検討～(第 1 報)	第 82 回日本公衆衛生学会総会	筑波市	令和 5 年 10 月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
加納江理	A市における在宅療養支援に関するIPW状況調査	第14回せいらい看護学会	浜松市	令和5年9月16日
	医療機関と訪問看護ステーションの連携による神経難病療養者への在宅療養支援の実践報告	第28回日本難病看護学会	新潟市	令和5年9月30日
根岸まゆみ	Collaborative Online International Learning (COIL) for global health nursing education between the US and Japan.	The International Council of Nurses the 29th ICN Congress	カナダ	令和5年7月2-4日
三崎健太郎	腫瘍プロモーション活性を示す多環芳香族化合物曝露細胞におけるRNAシーケンス解析	日本環境変異原ゲノム学会第52回大会	福岡市	令和5年11月
	腫瘍プロモーション活性を示す多環芳香族化合物による細胞曝露影響のRNAシーケンス解析	生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学2023	静岡市	令和5年11月
	肺上皮細胞における含酸素芳香族炭化水素による炎症性サイトカイン誘導パターン	第94回日本衛生学会学術総会	鹿児島市	令和6年3月
Hempstock Wendy Leanne	Collaborative Online International Learning (COIL) for Global Health Nursing Education between the USA and Japan	ICN2023	モントリオール、カナダ	令和5年7月2日~4日
三沢萌伽	集中ケア認定看護師とクリティカルケア認定看護師が実践するAIケアの現状	第43回日本看護科学学会学術集会	下関市	令和5年12月
長谷部美紀	壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと求める支援	「生涯健康サイエンス	静岡市	令和5年11月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
		フェス in 静岡県立大学 2023」プレセッション US フォーラム		
	壮年期がん療養者の終末期における配偶者のニーズに関する文献検討	第 43 回日本看護科学学会学術集会	下関市	令和 5 年 12 月
植田 春美	入院中の終末期高齢者の主介護者が在宅での看取りを決意していく体験	第 43 回日本看護科学学会学術集会	下関市	令和 5 年 12 月 9 日
池田麻左子	臨床における患者・利用者への呼称・愛称に関する文献検討.	せいい看護学会	浜松市	令和 5 年 9 月 16 日
梁川 明	在宅で定期補充療法に取り組む男性血友病患者の思春期における親子の歩み	日本看護研究学会第 49 回学術集会	Web	令和 5 年 8 月
大和田裕美	Phenomenological description of Midwife A' s experience for caring	40th International Human Science Research Conference	平塚市	令和 5 年 8 月
	A Phenomenological Study of a Midwife' s Relationship with Pregnant Women	5th International Conference on Caring and Peace	Web	令和 6 年 3 月
	助産ケアを支える助産師の関心 : 「うまくいかなかった」経験から考える	第 49 回日本保健医療社会学会大会	東京都	令和 5 年 5 月
	超音波検査で胎児の状態を見ること 身体を用いた社会的行為の組み立てられ方の考察—介護・超音波検	日本質的心理学会第 20 回大会	高槻市	令和 5 年 11 月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
	査・搔把行為と身体一			
	パートナーが妊娠期にある男性を対象とした「ハッピーパパマタニティ講座」の実践報告	第 37 回日本助産学会学術集会	Web	令和 5 年 10 月
長 屋 和 美	Needs and support of first-time mothers with children aged 2-5 months : Chick Mom' s Supplement Course	第 5 回国際ケアリング学会学術集会	Web	令和 6 年 3 月
栗田真由美	高齢者虐待にかかわる熟練保健師の経験による実践知から導き出された判断モデル	第 43 回日本看護科学学会	下関市	令和 5 年 12 月 9 日
	K 市地域特性に応じた重層的支援体制整備プロジェクト 第 2 弾	第 43 回日本看護科学学会	下関市	令和 5 年 12 月 10 日
伊 藤 純 子	精緻化見込みモデルを活用した思春期性教育プログラムの実施と評価	第 2 6 回日本地域看護学会	川崎市	令和 5 年 9 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
山下早苗	文献に見る「患者の語り」を取り入れた講義・演習における学生への配慮	日本看護倫理学会第16回年次大会	糸川紅子、梅野華乃子、山下早苗	東京都	令和5年6月4日
畑中純子	産業看護職の現任教育の在り方に関する文献検討	日本産業看護学会第12回学術集会	畑中三千代	静岡市	令和5年10月
	産業看護職が転職する要因	日本産業看護学会第12回学術集会	一尾麻美	静岡市	令和5年10月
荒井孝子	To investigate when and what to do for deep subcortical white matter hyperintensity (DSWMH) in a large cohort study	American Academy of Neurology	Yoshinori Nishimoto, Kyoko Hiyoshi-Arai, Sadanori Higashino, Hidetaka Takeda, Takahiro Amano.	Boston, USA	令和5年4月
	人間ドックデータにおける5年以上の経過からみたeGFRの低下に影響を与える因子の検討	第64回日本人間ドック学会	植松真幸、荒井孝子、武田英孝、東野定律、竹中恒夫、池田俊也、青菽陽子、天野隆弘	高崎市	令和5年9月
	BMI・体脂肪率からみた人間ドックデータにおけるeGFRcreとeGFRcysの乖離に関する検討	第64回日本人間ドック学会	工藤万由子、荒井孝子、武田英孝、東野定律、竹中恒夫、池田俊也、青菽陽	高崎市	令和5年9月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
			子、天野隆弘		
	静岡県の地域医療推進に寄与する看護人材育成を目指す特定行為研修の取り組み	第27回日本統合医療学会学術集会	富安真理、池田麻左子、中岡正昭、林みよ子、荒井孝子	静岡市	令和5年12月
林みよ子	Family nursing practice in emergency settings by certified nurses and certified nurse specialists in Japan	15th International Family Nursing Conference	Yuko Tomari Rie Hori Miyoko Hayashi	ダブリン	令和5年6月
	壮年期初発軽症脳梗塞患者の再発予防行動への取り組みプロセス	第50回日本脳神経看護研究学会学術集会	古市 想 梶原 聡子 林 みよ子	金沢市	令和5年9月
	壮年期がん療養者の終末期における配偶者のニーズに関する文献検討	第43回日本看護科学学会学術集会	長谷部 美紀 林 みよ子 山田 紋子	下関市	令和5年12月
	静岡県の地域医療推進に寄与する看護人材育成を目指す特定行為研修の取り組み	第27回日本統合医療学会学術大会	富安 真理 池田 麻左子 中岡 正昭 林 みよ子 荒井 孝子	静岡市	令和5年12月
山田紋子	ICTを活用した慢性看護学実習の教育教材作成と評価	US フォーラム2023	林みよ子、山田紋子、他	静岡市	令和5年11月
	壮年期がん療養者の終末期における拝具者のニーズに関する文献検討	US フォーラム2023	長谷部美紀、林みよ子、山田紋子	静岡市	令和5年11月
太田尚子	Needs and support of first-time mothers with children aged 2-5 months : Chick	5th International Society	Nagaya Kazumi、Ota Naoko、Taki	Web	令和6年3月1日～31日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	Mom' s Supplement Course.	of Caring & Peace	Kazuko 、 Kondo Ami 、 Nagatani Miho 、 Nakagawa Yuka、Owada Hiromi		
	パートナーが妊娠期にある男性を対象とした「ハッピーパパマタニティ講座」の実践報告	第 37 回日本助産学会学術集会	大和田裕美、 齋藤麻友佳、 太田尚子、中 川有加、長屋 和美	Web	令和 5 年 9 月
	妊娠期の妻を持つ夫同士で語り合うことの体験	第 64 回日本母性衛生学会学術集会	渡部紗季、太 田尚子	大阪市	令和 5 年 10 月
	A 市における産後ケア事業の利用の選択に関する実態調査	第 64 回日本母性衛生学会学術集会	小林樹里、太 田尚子	大阪市	令和 5 年 10 月
富安真理	軽度要介護者に対する介護予防の推進に向けた支援方策	第 14 回せいらい看護学会学術集会	湯澤まさみ	浜松市	令和 5 年 年 9 月
	要介護状態にある在宅高齢者の療養生活継続に向けた透析看護支援	第 12 回静岡県看護学会	黒田沙織	静岡市	令和 6 年 年 1 月 20 日
山口みのり	Mid-career generalist nurses' perceptions of career-related influences from managers:From peer group narratives and interviews	第 5 回国際ケアリング学会学術集会	OTA Yuko YAMAGUCHI Minori	オンデマンド	令和 6 年 3 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	新卒看護師が現場のケアで感じていることー大学横断任意参加の看護 技術ワークショップの経験を通してー	第43回日本看護科学学会学術集会	河合桃代、内山孝子、山口みのり、茂野香おる、殿城友紀、大宮裕子	下関市	令和5年12月
	バイタルサイン測定における看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	第43回日本看護科学学会学術集会	加藤京里、菅原清子、山口みのり、永谷幸子	下関市	令和5年12月
成瀬早苗	COVID-19 パンデミックにおける新人看護師の経験と思いー海外文献のスコopingレビュー	第43回日本看護科学学会学術集会	山口みのり、成瀬早苗、服部美穂	下関市	令和5年12月9日
	地域住民と地域の看護職との交流を生かした看護基礎教育の推進	USフォーラム	富安眞理、他20名	静岡市	令和5年11月17日
中川有加	経産婦の産後入院から退院までの授乳場面で提供する支援における熟練助産師の判断	日本母乳哺育学会	谷澤南美	東京	令和5年9月
杉山眞澄	管理的立場の保健師の人材育成ーGROWモデルを活用してー(第2報)	第82回日本公衆衛生学会総会	鳥羽山睦子、鈴木知代、他3名	筑波市	令和5年10月
	母子保健事業改善に臨む管理的保健師の能力(第1報)ーアクションリサーチを通してー	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会	鈴木知代、深江久代、他3名	北九州市	令和6年1月
	母子保健事業改善に臨む管理的保健師の能力(第2報)ーサーバントリーダーシップの視点による分析ー	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会	深江久代、鈴木知代、他3名	北九州市	令和6年1月
菅原清子	バイタルサイン測定における看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	日本看護科学学会	加藤京里	下関市	令和5年12月10日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
加納江理	入院中のALS患者に行われているコミュニケーション機器に関する支援	第43回日本看護科学学会	河野貴大	下関市	令和5年12月10日
福島恭子	子宮脱の整復およびペッサリー着脱の技術を獲得するための子宮脱モデルの改良	第565回日本医学教育学会	荒井孝子	長崎市	令和5年7月
根岸まゆみ	Collaborative Online International Learning (COIL) Programs for Global Health Nursing Education: Experiences of Collaboration Amongst Universities in USA, Japan, Thailand and Mongolia	The Consortium of Universities for Global Health (CUGH). CUGH's 15th Annual Conference.	Aya Watanabe, Ryutaro Kase, Takeo Yamamura, Benissa Salem, Weiti Chen, Ruth Tadesse, Layla Gurrigues, Otgonchmeg Mangal, Juraporn Tangpukdee	米国	令和6年3月8-9日
	Developing clinical judgment skills in novice nurses: A survey among nursing educators	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Yukari Katayama	香港	令和6年3月6日
	Evaluation of a clinical learning environment design support program that cultivate clinical judgment	27th East Asian Forum of Nursing Scholars	Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yukari	香港	令和6年3月6日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	competency	(EAFONS) Conference	Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto		
	教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術学会	水引智央, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本昶史	山口県	令和5年 12月9日
中岡正昭	静岡県の地域医療推進に寄与する看護人材育成を目指す特定行為研修の取り組み	日本統合医療学会	富安眞理	静岡市	令和5年 12月
池田麻左子	Current family care provided by nurses in Japan under COVID-19 pandemic: A literature review	日本家族看護学会 国際交流委員会 Small group	池田麻左子 渡邊さやか 佐藤律子	Web	令和6年 2月20日
大和田裕美	Needs and support of first-time mothers with children aged 2-5 months : Chick Mom' s Supplement Course	5th International Conference on Caring and Peace	長屋和美	Web	令和6年 3月
長屋和美	先天性心疾患を合併するダウン症児を出産した母親の心理過程に関する文献調査	日本胎児心臓病学会第30回学術集会	佐野琴音	東京	令和6年 2月
栗田真由美	医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体 DC NETWORK と一緒にダブルケアラー支援を考える	日本家族看護学会	寺田由紀子 栗田真由美 生天目禎子 堀内裕子 荒巻順子	吹田市	令和5年 9月9日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
			渋谷郁恵 吉岡喜美代 真溪淳子 寺戸聡子		
	地域共生社会を目指した重層的支援 体制整備における限界突破	第43回日本 看護科学学会	荒巻順子 栗田真由美 寺田由紀子 寺戸聡子	下関市	令和5年 12月9日
伊藤純子	精緻化見込みモデルを活用した 思春期性教育プログラムの開発	ヘルスコミ ュニケーシ ョンウィー ク2023	高橋佐和子、 伊藤純子	川崎市	令和5年 9月
	中学生の性に関する認識と主観 的規範—B中学校の調査から	第12回日本 公衆衛生看 護学会学術 大会	高橋佐和子、 伊藤純子	北九州 市	令和6年 1月
	管理的立場の保健師の人材育成 —管理能力の継承方法の検討— (第1報)	第82回日本 公衆衛生学 会総会	杉山真澄、鈴 木知代、深江 久代、伊藤純 子、鳥羽山睦 子	北九州 市	令和6年 1月
	管理的立場の保健師の人材育成— GROWモデルを活用して—(第2 報)	第82回日本 公衆衛生学 会総会	深江久代、鳥 羽山睦子 鈴 木知代、杉山 真澄、伊藤純 子	北九州 市	令和6年 1月
	母子保健事業改善に臨む管理的 立場の保健師の能力(第1報)	第12回日本 公衆衛生看 護学会学術 大会	鳥羽山睦子、 鈴木知代、深 江久代、杉山 真澄、伊藤純 子	北九州 市	令和6年 1月
	母子保健業務改善に臨む管理的 立場の保健師の能力(第2報)	第12回日本 公衆衛生看 護学会学術	深江久代、鈴 木知代、杉山 真澄、伊藤純	北九州 市	令和6年 1月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
		大会	子、鳥羽山睦 子		

受賞

氏名	賞名	団体名
竹熊カツマ タ 麻 子	名誉博士号	モンゴル国体育大学
杉 山 眞 澄	静岡県看護協会会長表彰	静岡県看護協会

2) 外部資金受け入れ

外部資金：(A)文部科学省科学研究費、(B)他の省庁、地方公共団体研究費、
(C)財団研究費、(D)受託又は委託研究費、(E)奨学寄付金

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
山下早苗	(A)	基盤研究(C)	小児を対象とする看護師への看護倫理教育プログラムの開発	R5	900	代表
	(A)	基盤研究(C)	重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発	R5	100	分担
	(A)	基盤研究(C)	ターミナル期にある小児がんの子どもを対象とする看護師の道徳的レジリエンス	R5	100	分担
篁宗一	(A)	文部科学研究費	SNS を活用した大学生のメンタルヘルス・リテラシー促進および支援プログラムの開発 (基盤 B)	R5	1,370	代表
	(A)	文部科学省科学研究費	量的看護研究における統計的検定の検出力に関する研究 (基盤 C)	R5	300	分担
	(B)	その他の研究費	ネット社会による孤立・依存を予防するプログラムの開発	R5	1,000	代表
	(B)	その他の研究費	看護系大学教員のワーク・エンゲイジメントを高める職場環境改善へのアプローチ (基盤 C)	R5	100	分担
	(A)	文部科学省科学研究費	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対象とした化粧支援アプリの開発 (基盤 C)	R5	50	分担
井上健一郎		CREST	環境中微粒子の体内、細胞内動態、生体・免疫応答機序の解明と外因的、内因的健康影響決定要因、分子の同定	R5	1,040	分担
林みよ子	(A)	基盤研究(C)	若手看護師の脳血管疾患患者に対する早期在宅移行支援実践力育成に関する介入研究	R5	1,430	代表
太田尚子	(A)	基盤研究(C)	悲嘆作業と新しい命を迎えるチャレンジ—周産期喪失後の2つの課題への適応支援	R5	910	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
	(B)	藤枝市地域政策研究・創造事業助成金	未来のための次世代支援ー親と子が健やかに成長できるまち藤枝ー	R5	307	分担
藤田 景子	(A)	基盤研究(C)	妊娠初期から乳幼児期まで切れ目なく DV 被害母子を支援するモデルの開発に関する研究	R5	4,160	代表
	(A)	基盤研究(B)	薬害の社会的過程の分析ーBiological Citizenship の観点から	R5	17,810	分担
富安 真理	(A)	基盤研究(C)	地域特性に応じた訪問看護事業所におけるアウトカムマネジメントモデルの開発	R5	50	分担
竹熊カツマ タ 麻子		科研費	モンゴル国の心不全患者への看護介入の影響:介入研究 The effect on patient outcomes of a nursing intervention for Mongolian patients with heart failure: an interventional study The effect on patient outcomes of a nursing intervention for Mongolian patients with heart failure: an interventional study	R5	4,420	代表
堀 芽久美	(A)	若手研究 (B)	医療資源へのアクセシビリティ格差が与えるがんリスクおよび予後の地域差に関する研究	R5	984	代表
堀 芽久美	(A)	基盤研究 (C)	がん関連症状へのケアに関する科学的根拠に基づいた実戦の促進プログラムの開発	R5	107	分担
	(A)	基盤研究 (C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	R5	0	分担
	(A)	基盤研究 (C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	R5	0	分担
	(A)	基盤研究 (B)	終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエビデンスの基盤形成の確立	R5	50	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
		厚生労働科学 研究費補助 金：がん対策 推進総合研究 事業	がん対策の年齢調整死亡率・罹患率に及ぼ す影響に関する研究	R5	12,000	分担
		厚生労働科学 研究費補助 金：がん対策 推進総合研究 事業	国際比較可能ながん登録データの精度管理 および他の統計を併用したがん対策への効 果的活用の研究	R5	14,950	分担
		国立がん研究 センター研究 開発費	がんの地理情報の総合的活用に関する研究	R5	10,800	分担
		AMED	遺伝性がんを用いた若年発症がんで同定さ れた遺伝要因の検証研究並びに早期診断法 の開発	R5	29,900	分担
加藤京里	(A)	基盤研究C	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	R5	910	代表
	(A)	基盤研究C	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予 防のための教育プログラムの開発	R5	1,240	分担
	(A)	基盤研究C	高齢女性の認知機能を高めるための運動方 法の確立：座位行動時間の短縮を目指して	R5	1,249	分担
	(A)	基盤研究C	2週間の排便日誌から排便パターンを分類す る新しい看護アセスメント方法の確立	R5	530	分担
山口みのり	(A)	基盤研究C	看護実践能力の向上に向けた技術習得過程 のモデル化と教育プログラムの構築	R5	520	分担
	(A)	基盤研究C	対話的リフレクションを契機としたキャリ ア中期看護職の成長に関する研究	R5	520	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
	(A)	基盤研究 C	COVID-19 感染拡大により臨地実習経験が不足した新人看護師の看護実践能力と教育の検討	R5	1,040	代表
成瀬早苗	(A)	基盤研究 C 一般	Cynefin フレームワークを基盤とした専門職連携総合力教育プログラムの構築	R4～ R7	3,380	分担
	(A)	基盤研究 C 一般	COVID-19 感染拡大により臨地実習経験が不足した 新人看護師の看護実践能力と教育の検討	R5～ R9	3,400	分担
鈴木和香子	(A)	科研費 基盤 C	重症心身障がい児のリフレクソロジーの効果の検討ー幼児を対象としてー	R2～	350	分担
中川有加		藤枝市地域政策研究・創造 事業助成金	未来のための次世代支援ー親子が健やかに成長できるまち藤枝ー	R5	307	分担
永谷実穂	(A)	若手研究	就労更年期女性への認知行動療法を取り入れた健康教育プログラムの開発	R5	2,470	代表
	(A)	基盤研究 C	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対象とした化粧支援アプリの開発	R5	1,690	分担
杉山真澄	(A)	基盤研究 C	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレーション型能力育成プログラムの開発	R5	58	分担
	(A)	基盤研究 C	ニュータウン住民の互助を促進する地区組織・住民組織活動モデルの開発	R5	50	分担
濱井妙子	(A)	基盤研究 C	医療通訳者を含むチーム医療における協働モデルの構築	R5	1,100	代表
	(A)	基盤研究 B	医療における「やさしい日本語」の有効性検証と通訳者と協働できる教育プログラム開発	R5	50	分担
	(A)	基盤研究 B	多言語社会に対応した医療通訳者のためのヘルスコミュニケーション教育プログラム開発	R5	150	分担
	(A)	挑戦的萌芽研究	英語医療通訳の技能向上を目的とした、VR・AR 医療通訳者教育システムの開発	R5	200	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
管原清子	(A)	基盤研究 C	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	R5	650	代表
	(A)	基盤研究 C	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	R5	1,040	分担
	(A)	基盤研究 C	高齢女性の認知機能を高めるための運動方法の確立ー座位行動時間の短縮を目指してー	R5	650	分担
加納江理	(A)	基盤研究 C	ALS 患者の病気の受容に応じたコミュニケーション機器導入のためのケアガイドの作成	R5	100	分担
		C (公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団)	在宅医療推進のための多職種連携研修会への助成	R5	500	代表
福島恭子	(B)	藤枝市地域政策研究・創造事業助成金	安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進 (親目線) や子どもが健やかに成長できる環境づくり (子ども目線) の推進	R5	307	分担
根岸まゆみ	(A)	基盤研究 B	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発			分担
中岡正昭	(A)	基盤研究 C	新型コロナウイルス 感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	R3	2,860	代表
鈴木郁美	(A)	基盤研究 C	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	R5	1,126	代表
池田麻左子	(A)	基盤研究 C	重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発	R5	175	代表
丸山始美	(A)	基盤研究 C	ターミナル期にある小児がんの子どもを対象とする看護師の道徳的レジリエンス	R5	500	代表
大和田裕美	(A)	若手研究	助産ケアにおける女性と助産師との相互行為に関する研究	R5	811	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
	(B)	藤枝市地域政策研究・創造事業助成金	未来のための次世代支援－親と子が健やかに成長できるまち藤枝－	R5	293	代表
近藤美保	(A)	基盤研究C	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対象とした化粧アプリの開発	R5	1,729	代表
栗田真由美	(B)		湖西市における地域特性に応じた重層的支援体制整備プロジェクトⅡ ～縦割り緩和に向けた重層的相談支援の実態把握と相談支援体制の検討～	R5	117	代表
伊藤純子	(A)	基盤研究C	超高齢化ニュータウンにおける主体的な予防活動の動機づけ支援看護介入プログラム構築	R5	1,200	代表
	(A)	基盤研究C	「障害の社会モデル」を重視したリハビリテーションのための内省型研修プログラム開発	R5	20	分担
	(A)	基盤研究C	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレーション型能力育成プログラム開発	R5	200	分担

3) 令和5年度学部研究推進費等

令和5年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
荒井孝子	慢性腎臓病（CKD）の診断基準となる eGFR シスタチンおよび eGFR クレアチニンをパラメータとした定量的評価指標の検討	241	東野定律、 天野隆弘、 武田英孝、 竹中恒夫、 池田俊也
林みよ子	コロナ禍で看護基礎教育を受けた看護師の卒後支援に関する研究	236	山田紋子、 前野真由美 鈴木郁美、 中岡正昭 星有紀、長 谷部美紀
山田紋子	成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討	200	林みよ子、 前野真由 美、鈴木郁 美、長谷部 美紀、植田 春美
太田尚子	ペリネイタル・ロスで子どもを亡くした母親に対して看護者とピアサポーターとのペアで家庭訪問をすることの評価	170	大和田裕 美、長屋和 美
富安真理	地域住民と地域の看護職との交流を生かした看護基礎教育の推進	1,000	山下早苗、 畑中純子、 篁宗一他 18 名
	訪問看護師の思考と臨床判断能力を培う看護継続教育プログラムの開発	172	加納江理、 根岸まゆ み、榎みの り他 12 名

令和5年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
竹熊カツマ タ麻子	静岡県立大学看護学部・看護学研究科における国際看護教育と研究環境の構築	379	荒井孝子、 山下早苗
加藤京里	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	501	永谷幸子、 山口みのり、 菅原清子
山口みのり	病棟における看護師の生活行動援助の実態と認識－看護と看護教育の歴史的変遷で見出された視点からの検討	101	有家香 八代律子 服部美穂
中川有加	母親の乳房に負担をかけない搾乳技術習得のためのシステム構築に向けた調査-熟練助産師の搾乳時に手指、手掌にかかる圧力部位の同定と概算値の測定-	451	長田知恵子
永谷実穂	地域における更年期女性の健康に関する意識の現状と健康支援の検討	656	菅原清子、 近藤美保、 永谷幸子、 河端恵美子
菅原清子	教育用電子カルテを2年次実習の事前学習に取り入れた学習効果	483	加藤京里、 山口みのり、 永谷幸子
	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	656	加藤京里、 永谷幸子、 成瀬早苗、 堀芽久美、 森野智子、 串田修
前野真由美	成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討	200	林みよ子、 前野真由美、 鈴木郁美、 長谷部

令和5年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
			美紀、植田 春美
三崎健太郎	多環芳香族化合物の多様な環境リスクの追跡	304	高野裕久、 井上健一郎、 高村岳樹
長谷部美紀	壮年期がん療養者の男性配偶者に対する看取り期の 訪問看護支援	159	林みよ子、 山田紋子
植田春美	終末期高齢者の在宅での看取り支援に関する研究—静岡県 における自宅死亡に関する実態—	361	山田紋子、 林みよ子
佐藤理乃	自己導尿に関する YouTube®動画の検討と自己導尿指導動 画作成	467	西井久枝、 青木芳隆、 若松ひろ 子、鈴木基 文、成瀬早 苗
池田麻左子	重症心身障がい児が最善の生活をするために COVID-19(コ ロナ)との共生を視野に入れた看護実践の課題	208	代表
大和田裕美	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・ 子育てに与える影響 —他施設で出産する女性に焦点を当てて—	258	太田尚子、 中川有加、 永谷実穂、 福島恭子、 長屋和美
長屋和美	静岡県において医療的ケア児等コーディネータが行う未就 園児の家族支援における課題	465	太田尚子、 藤田景子
池田美音	満足なお産に向けた熟練助産師による継続ケアに関する研 究	471	太田尚子、 藤田景子

令和5年度COC事業地域を志向した研究

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	代表分担の別
前野真由美	地域づくりと健康：外国人看取りと若年層の心理 韓国語版 終末期ケア「みせてお話し」ノートの作成と 「外国人高齢者のケア・看護を考える会」の開催	180	分担
中川有加	地(知)の拠点整備事業地域を志向した研究：母親が行う 思春期の娘の妊孕性に影響する健康管理支援	49	代表

国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
太田尚子	令和5年度	妊婦の「出生前検査を含む相談」への初期対応に関する看護職者向け個人学習動画の評価	中込さと子、小笹由香、納富理絵、蛭田明子、太田尚子、片岡弥恵子(日本助産学会)	計画書の作成、郵送先リストの作成など
竹熊カツマ タ麻子	令和5年度	現在高齢者の転倒予防・健やかなエイジングのための柔道の動きを用いたプログラムの開発	岡田弘隆(筑波大学)	代表
鈴木千智	令和5年度	コロナ禍における特別養護老人ホームの苦悩	山口忍(茨城県立医療大学)、道林千賀子(岐阜医療科学大学)、小稲文(国際医療福祉大学)	文献レビュー、インタビュー内容の検討
杉山眞澄	令和2年~5年	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレーション型能力育成プログラムの開発	鈴木知代(豊橋創造大学)	(分担)研修プログラム開発と研修実践

国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究 期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
	令和 2 年～5 年	ニュータウン住民の互助を促進する地区 組織・住民組織活動モデルの開発	伊藤純子(静岡県立 大学)	(分担)地 区 組 織 活 動 の 情 報 収 集・調 査
三崎健太郎	平成 23 年度～	AhR を介した多環芳香族化合物の毒性に 対する評価研究	高村岳樹 (神奈川工 科大学)	PACs に よ る 毒 性 パ タ ー ン 評 価
	令和 4 年度～	ナノ粒子と PM2.5 の体内、細胞内動態、 生体・免疫応答機序の解明	井上健一郎 (静岡県 立大学)	細 胞 内 シ グ ナ ル 解 析

4) 海外研修活動

氏名	事業の名称または目的	研修期間 (日数)	研修先
荒井孝子	静岡県立大学看護学部・看護学研究科におけ る国際看護教育と研究環境の構築 (UB・ドル ノゴビ)	10 日間	モンゴル国
	静岡県立大学看護学部・看護学研究科におけ る国際看護教育と研究環境の構築 (UB)	8 日間	モンゴル国
	高齢者の転倒予防に係る効果的な運動につい て	7 日間	オーストラ リア
竹熊カツマ タ 麻 子	ドルノゴビ医科大学との部局間協定締結なら びにモンゴル国医科大学看護学部との学部間 協定締結への協議	10 日間	モンゴル国 医科大学・ ドルノゴビ 医科大学
	モンゴル国医科大学看護学部との学部間協定 締結	5 日間	モンゴル国 医科大学

氏名	事業の名称または目的	研修期間（日数）	研修先
	アルテベルデ応用健康科学大学と静岡県立大学との部局間協定締結への話し合い	3日間	アルテヴェルデ大学(ベルギー)

5) その他特記事項

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
篁 宗 一	社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験作問	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	
荒 井 孝 子	看護師特定行為研修 厚生労働省への変更申請	令和5年4月～ 令和6年3月	
	看護師特定行為研修 厚生労働省への予算申請、執行、報告書作成	令和5年4月～ 令和6年3月	
	教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）の処理	令和6年1月	
	特定行為研修入講に関する依頼・宣伝活動	令和5年4月～ 令和6年3月	
	令和6年度 医療技術等国際展開推進事業への応募	令和6年1月～ 2月	
竹熊カツマタ麻子	現在高齢者の転倒予防・健やかなエイジングについて、筑波大学と共同でプログラム開発に取り組んでいる。	通年	
富 安 眞 理	看護実践教育研究センター主催スタートアップ現場発想の看護研究 研修補助	令和5年6月10日	
	看護実践教育研究センター主催スタートアップ現場発想の看護研究 研修講師	令和5年8月19日	
	看護実践教育研究センター主催スタートアップ現場発想の看護研究 GW 運営	令和5年12月2日	
	静岡県立大学看護学研究科オンライン特別講義 「看護実践を可視化する・学会発表からはじまる事例研究」 運営	令和6年2月3日	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
成瀬 早苗	静岡コホート袋井研究 ふくけん 調査	令和6年2月	
	地域におけるセルフケア推進モデル事業の検証	令和6年1月～2月	
管原 清子	令和5年度 教育活動奨励研究の表彰を受け研究活動を行った	令和5年5月～令和6年3月	
前野 真由美	在住外国人の終末期（もしものとき、エンディング）ケア「みせてお話し」ノートー7言語 - の韓国語版の作成し、当大学HPへの掲載した	令和5年7月～令和6年2月	地域づくりと健康：外国人看取りと若年層の心理のうちの「外国人高齢者のケア・介護を考える」（研究代表社：前野真由美）の研究費を活用し作成し、静岡県立大学HP（2023.8月）に掲載した。
	- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 - 9言語の健康チェック表の韓国語版の作成とポルトガル語、英語の更新し、当大学HPへの掲載した	令和5年7月～令和6年2月	地域づくりと健康：外国人看取りと若年層の心理のうちの「外国人高齢者のケア・介護を考える」（研

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
			究代表社： 前野真由 美)の研究 費を活用し 作成し、静 岡県立大学 HP (2023.10 月)に掲載 した。
加納江理	ナーシングスキル動画講義シリーズ 訪問 看護師コンテンツ開発 「在宅における呼吸ケアの実際と機器管理 -在宅酸素療法-」15分×4コマ 「在宅における呼吸ケアの実際と機器管理- 人工呼吸器・NIPPV」15分×4コマ 「難病患者の在宅療養の特徴と看護」15分 ×4コマ	令和5年8月～令和 6年2月	
近藤美保	USフォーラム口頭発表	1日	

VIII.学部・研究科としての社会貢献

1. 国・地方自治体における活動

氏名	従事先	従事する職名	任期
山下早苗	山梨県立大学大学院看護学研究科	非常勤講師	令和元年4月～ 令和6年3月
	公立大学協会看護・保健医療部会	部会長	令和5年4月～ 令和6年8月
篁宗一	静岡市	自殺対策推進協議会会長	平成29年4月～ 令和6年3月
	静岡市	精神医療審査会委員	平成29年4月～ 令和6年3月
	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	平成30年4月～ 令和6年3月
	富士市立富士看護専門学校	非常勤講師	令和5年4月～ 令和6年3月
	静岡福祉大学	非常勤講師	令和5年4月～ 令和6年3月
畑中純子	島田市	島田市健康増進計画等検討委員長	令和5年8月～ 令和6年3月
	静岡市	静岡市保健所運営協議会委員	令和5年7月～ 令和7年6月
荒井孝子	国際医療福祉大学大学院	特定行為研修管理委員会外部委員	令和5年4月～ 令和6年3月
	静岡済生会総合病院	地域医療支援病院運営委員	令和5年4月～ 令和6年3月
林みよ子	公益社団法人静岡県看護協会	認定看護管理者教育課程・講師	令和5年7月8日
	静岡県立総合病院	看護研究研修・講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏名	従事先	従事する職名	任期
山田 紋子	静岡県立総合病院	静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会 外部委員	令和4年4月1日～令和6年3月31日
	静岡県立総合病院	看護部倫理研究倫理審査会 外部委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
太田 尚子	茨城県立医療大学(大学院保健医療科学研究科)	非常勤講師 「看護倫理」	令和5年4月～令和6年3月
富安 真理	静岡市	健康福祉審議会委員	令和4年4月～令和6年3月
	厚生労働省	東海北陸地方社会保険医療協議会委員	令和4年4月～令和7年3月
	静岡県立大学看護学部	看護実践教育研究センター研究員	令和5年4月～令和7年3月
	社会福祉法人小羊学園つばさ静岡	苦情解決委員会委員	令和5年4月～令和7年4月
竹熊 カツマ タ 麻子	共立女子大学	非常勤講師	令和5年10月～令和6年3月
	京都大学	非常勤講師	令和5年12月
堀 芽久美	静岡県沼津市	都市開発審査会 委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
山口みのり	国立大学法人 静岡大学	非常勤講師	令和5年4月1日～令和6年3月31日
成瀬 早苗	特別養護老人ホーム 久能の里	第三者委員	令和4年4月1日～令和6年3月31日
	静岡市役所	静岡市介護認定審査会委員	令和4年4月1日～令和7年3月31日
鈴木和香子	静岡市医療的ケア児等支援協議会	副会長	令和4年～

氏名	従事先	従事する職名	任期
	静岡県発達障害者支援地域協議会	委員	令和4年度～
中川有加	厚生労働省	保健師助産師看護師試験委員	令和5年5月～ 令和7年4月
	静岡市	男女共同参画審議会委員	令和5年6月～ 令和7年6月
永谷実穂	焼津市	介護保険認定審査委員	令和5年4月～ 令和7年3月
杉山真澄	静岡県立看護専門学校	非常勤講師	令和5年4月～ 令和5年12月
	組合立静岡県中部看護専門学校	非常勤講師	令和5年4月～ 令和5年9月
	組合立静岡県中部看護専門学校	教育課程編成委員会・委員	令和5年4月～ 令和6年3月
	静岡厚生連するが看護専門学校	非常勤講師	令和5年5月～ 令和6年7月
濱井妙子	日本健康学会	評議員	平成28年～
	日本公衆衛生学会	公衆衛生学会認定専門家	平成23年1月～ 令和8年3月
	日本医療通訳学会	運営委員	令和3年10月1日～
管原清子	静岡市立静岡病院	地域医療支援委員会 委員	令和5年4月～ 令和6年3月
	静岡市立清水病院	地域医療支援委員会 委員	令和5年4月～ 令和6年3月
	静岡市立清水看護専門学校	教育課程編成会議 委員	令和5年4月～ 令和6年3月
加納江理	浜松市	介護認定審査会審査委員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
佐藤瑠美	静岡市	講師等	令和6年3月
池田麻左子	静岡県立こども病院	嘱託看護師	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日

氏名	従事先	従事する職名	任期
	岐阜県立看護大学 大学院	非常勤講師	令和5年4月1日～令和6年3月31日
近藤美保	静岡福祉大学	非常勤講師	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	令和5年6月
	富士市立看護専門学校	非常勤講師	令和5年6月
	静岡市支援センターみらい	運営委員長	令和5年4月～令和7年3月
小泉祐貴	静岡県立看護専門学校	非常勤講師	令和5年4月～令和6年3月
栗田真由美	静岡県	重層的相談支援体制構築事業アドバイザー	令和3年4月～
	中央健康医療大学校	非常勤講師	令和2年4月～
	袋井市	高齢者虐待相談支援体制整備アドバイザー	令和5年10月13日

2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
山下早苗	日本看護倫理学会	代議員	令和5年6月～令和7年5月
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会	理事・評議員	令和2年4月～令和6年3月
畑中純子	日本産業看護学会	副理事長	令和3年4月～令和6年3月
	日本産業看護学会	教育研究委員会委員長	令和3年4月～令和6年3月
	日本産業衛生学会	編集委員会委員	令和2年9月～令和7年2月
	静岡県保健師会	参与	令和2年4月～

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
井上健一郎	日本臨床環境医学会	評議員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	日本エンドトキシン・自然免疫学研究会	理事	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	日本 Schock 学会	評議員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
林みよ子	日本クリティカルケア看護学会	理事	令和3年6月27日～令和5年定時社員総会
	日本クリティカルケア看護学会	専任査読委員	令和3年6月27日～令和7年定時社員総会
	日本クリティカルケア看護学会	編集委員	令和5年7月3日～令和7年定時社員総会
	日本救急看護学会	評議員	令和5年11月23日～令和9年定時社員総会
	日本赤十字看護学会	専任査読委員	令和4年5月1日～令和7年4月30日
	看護科学研究	査読委員	令和5年5月17日～令和7年3月31日
山田紋子	日本看護診断学会	評議員、編集委員、専任査読委員	令和4年7月～令和7年7月
太田尚子	一般社団法人 日本助産学会	専任査読者	令和5年4月～令和7年3月
	一般社団法人 日本助産学会	代議員	令和4年3月～令和6年10月

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	静岡県母性衛生学会	理事	令和2年4月～令和6年3月
	公益社団法人 全国助産師教育協議会	理事	令和5年6月～令和7年6月
	日本ペリネイタル・ロス研究会	代表	平成21年4月～令和6年3月
	聖路加国際大学「天使の保護者ルカの会」	運営委員	平成16年9月～令和6年3月
藤田 景子	日本助産学会	専任査読委員	令和4年4月～令和6年3月
	日本フォレンジック看護学会	専任査読委員	令和4年4月～令和6年3月
竹熊カツマ タ 麻子	JANPU（日本看護系大学協議会）	中部ブロック 災害担当	令和5年4月1日～
加藤 京里	静岡県看護協会	学術研究推進委員	令和5年4月～令和7年3月
	一般社団法人日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会温罨法班	平成26年4月～現在に至る
山口みのり	日本看護学教育学会	教育活動委員会	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	日本看護研究学会	査読委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
鈴木和香子	静岡県専任教員養成講習会運営委員会	委員	令和2年～
	HPS 国際シンポジウム	実行委員	令和元年～
	東海公衆衛生学会	実行委員	令和4年～4年
	リレー・フォー・ライフジャパン静岡2023	実行委員	平成24年～
中川 有加	全国助産師教育協議会	将来構想委員会シミュレーション小委員会 委員	令和4年8月～令和6年6月
	全国助産師教育協議会	将来構想委員会 委員	令和5年8月～令和7年6月

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	公益社団法人桶谷母乳育児推進協会	倫理審査委員会 委員長	令和5年6月～令和6年6月
	一般社団法人日本助産学会	日本助産学会誌専任査読委員	令和5年4月～令和7年3月
	公益社団法人日本看護協会	日本看護学会誌専任査読委員	令和5年4月～令和6年3月
永谷実穂	一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘルス研究所	幹事	令和5年4月～令和6年3月
鈴木千智	日本健康福祉政策学会	編集委員	令和5年4月1日～令和8年3月31日
杉山眞澄	静岡県看護協会	保健師職能理事	令和5年7月～令和7年6月
	東海公衆衛生学会	評議委員	令和3年4月～令和6年3月
	静岡県国民健康保険団体連合会	保健事業支援・評価委員会・委員	令和4年4月～令和6年3月
前野真由美	外国人のための無料健康相談と検診会	実行委員	令和5年4月～20 令和6年3月
加納江理	せいれい看護学会	評議員	令和3年10月25日～令和7年10月25日
福島恭子	日本助産診断実践学会	理事	令和2年4月～令和6年3月
	日本災害看護学会	第27回年次大会実行委員	令和6年2月～令和8年3月
佐藤瑠美	社会デザイン学会	理事	3年
Hempstock W e n d y L e a n n e	The Physiological Society	Editorial Board Member	令和3年8月～令和6年8月
池田麻左子	日本重症心身障害学会	評議員	令和5年4月1日～令和6年3月31日

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	第 29 回 日本難病看護学会学術集会	企画委員	令和 5 年 6 月 1 日 ～令和 6 年 10 月 30 日
	静岡県小児保健協会	幹事	令和 5 年 10 月 18 日～令和 10 年 3 月 31 日
榎 みのり	日本腎不全看護学会	専任査読者	平成 27 年 4 月～令 和 5 年 10 月
栗田真由美	中部 M-GTA 研究会	事務局	令和 3 年 4 月～
	医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体 DC NETWORK	委員	令和 5 年 3 月～
	静岡難病ケア市民ネットワーク	事務局	令和 2 年 4 月～
伊藤純子	日本公衆衛生看護学会	広報委員会委員	令和 4 年 6 月～令 和 6 年 5 月

3. 学会・シンポジウム等の主催

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
畑中純子	日本産業看護学会第12回学術集会	委員長	令和5年 10月	静岡市	367
	第69回東海公衆衛生学会	委員	令和5年7 月	静岡市	200
荒井孝子	令和5年度特定行為研修に係る交流会（シンポジウム）	座長	令和5年 11月	静岡市	26
太田尚子	第35回静岡県母性衛生学会学術集会	委員	令和6年2 月12日	静岡市	100
加藤京里	第12回静岡県看護学会	委員	令和6年1 月	静岡市	352
山口みのり	日本看護学教育学会理事会企画	委員	令和5年8 月27日	福岡市	200
	日本看護学教育学会臨地実習指導研修会	委員	令和6年3 月9日	群馬	30
鈴木和香子	（県）人工呼吸器に関する看護師養成講習	主催	令和5年8 月	静岡市	10
	（市）人工呼吸器に関する看護師養成講習	主催	令和5年8 月	静岡市	7
中川有加	全国助産師教育協議会シミュレーションライブオン研修	委員	令和6年1 月	Web	55
	全国助産師教育協議会シミュレーション対面研修	委員	令和6年3 月	静岡市	20
鈴木千智	日本産業看護学会第12回学術集会	事務局長	令和5年 10月	静岡市	367
	第69回東海公衆衛生学会学術大会	企画委員	令和5年7 月	静岡市	200
	令和5年度公立大学協会看護・保健医療部会総会	運営委員	令和5年8 月	静岡市	96
杉山眞澄	全国児童相談所に働く保健師のつどい	委員長	令和5年7 月	東京都	56

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
	第 69 回東海公衆衛生学会学術大会	企画運営 委員	令和 5 年 7 月	静岡市	114

4. 雑誌編集関連委員

氏名	雑誌名	役職名
山下 早苗	看護科学研究	委員
	日本看護倫理学会	委員
篁 宗一	日本学校メンタルヘルス学会	編集委員
井上 健一郎	Journal of Environmental & Analytical Toxicology	委員
林 みよ子	日本クリティカルケア看護学会誌	委員 (副委員長)
山田 紋子	看護診断(日本看護診断学会の学会誌)	委員
富安 眞理	日本在宅看護学会	委員
	日本看護科学学会	委員
	日本難病看護学会	委員
加藤 京里	生涯健康科学ジャーナル	委員
三崎 健太郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	Topical Advisory Panel member
Hempstock W e n d y L e a n n e	Physiology News	委員
	Bio-Protocol	委員
池田 麻左子	ナースタディ 小児看護 動画講義	監修
榎 み の り	日本腎不全看護学会誌	委員

5. 雑誌の査読

氏名	雑誌名	本数
山下早苗	日本看護学会誌	2
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会誌	2
	日本公衆衛生学会誌	2
	日本看護協会	3
井上健一郎	Allergy	1
林みよ子	日本クリティカルケア看護学会	4
	日本救急看護学会	3
	日本赤十字看護学会	1
	看護科学研究	1
太田尚子	日本助産学会誌	1
	第37回日本助産学会学術集会 演題抄録	7
富安真理	日本在宅看護学会	3
	日本看護科学学会	2
	日本難病看護学会	1
山口みのり	日本看護研究学会誌	2
成瀬早苗	日本看護学会誌	2
鈴木和香子	日本看護学会誌	3
中川有加	日本助産学会誌	1
	日本看護学会誌	4
濱井妙子	日本ヘルスコミュニケーション	1
	生涯健康科学ジャーナルヨン	1
管原清子	日本看護学会誌	1
加納江理	日本看護学会誌	4
	第54回(2023年度)日本看護学会学術集会抄録集	4
	Chutoen Journal	2
福島恭子	経営情報イノベーション	1
	日本母子看護学会誌	1

氏名	雑誌名	本数
Hempstock W e n d y	Bio-protocol	5
L e a n n e	Scientific Reports	3
伊 藤 純 子	東海公衆衛生学会誌	1

6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
山下 早苗	暮らしをつなぐための看護倫理 —看護倫理綱領から読み解く—	静岡県看護協会	静岡市	令和5年7月 31日
	看護研究研修	静岡県立こども 病院	静岡市	令和5年1月 ～12月
篁 宗一	若者の自殺予防	精神保健福祉セ ンター	静岡市	令和6年2月 5日
畑中 純子	対象者理解と個別支援	静岡県中部健康 福祉センター	藤枝市	令和6年1月 16日、3月1 日
	産業看護職としてのメンタルヘルス不 調者支援	愛知産業保健総 合支援センター	Web	令和6年1月 30日
山田 紋子	看護教育方法論(研究方法・文献検索・ク リティーク)	静岡県看護協会	静岡市	令和5年7月
	事例を使って学ぼう—アセスメントと全 体像から導く看護診断—	看護診断研究会	静岡市	令和5年9月 16日
	効果的なプレゼンテーション技法	静岡県看護協会	静岡市	令和5年11 月18日
太田 尚子	母子保健指導者養成に関する広報啓発 「流産・死産を経験した家族へのグリー フケア」	こども家庭庁母 子保健課委託、野 村総合研究所	Web (オン デマン ド配 信)	令和5年8月 ～令和6年3 月
	研修会「ペリネイタル・ロス(周産期の 死別)のグリーフケア」	公益社団法人富 山県看護協会	富山市	令和5年11 月
	第40回水戸周産期懇話会「周産期にお けるメンタルケア～ペリネイタル・ロス のグリーフケアに焦点を当てて～」	茨城県産婦人科 医会、茨城県助産 師会、持田製薬株 式会社 共催	Web	令和5年12 月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	周産期看護研修会<産科編>「周産期に子どもを亡くした家族のケア」	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター	東京都 (ハイブリッド開催)	令和5年12月
竹熊カツマ タ麻子	ダイバーシティについて	国立病院機構	Web	令和6年7月27日
	ダイバーシティについて	日本医療機能評価機構	東京	令和6年8月15日
	看護現場の転換期に、自分らしい働き方、生き方を選ぶ	医学書院	Web	令和6年3月27日
	国際看護について	夢ナビライブ	Web	令和6年10月27日
	リーダーシップの基礎	静岡県立大博看護実践教育センター	Web	令和6年6月15日
	問題分析の方法	静岡県立大博看護実践教育センター	Web	令和6年8月1日
	組織変革に役立つ基礎知識	静岡県立大博看護実践教育センター	Web	令和6年11月27日
鈴木和香子	小児訪問看護研修	静岡県訪問看護ステーション協会	三島市	令和5年9月30日
	小児訪問看護研修	静岡県訪問看護ステーション協会	浜松市	令和5年10月7日
	小児訪問看護研修	静岡県訪問看護ステーション協会	静岡市	令和5年11月3日
	保育所における感染症対策ガイドライン	富士市	富士市	令和5年9月18日
中川有加	実習分娩介助セミナー	(株)メディカ出版	東京	令和5年6月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	実習分娩介助セミナー	(株)メディカ出版	大阪	令和5年6月
	フリースタイル分娩介助セミナー	(株)メディカ出版	大阪	令和5年9月
	フリースタイル分娩介助セミナー	(株)メディカ出版	東京	令和6年1月
	看護を語ろう	社会福祉法人駿府葵会	静岡市	令和5年5月
	看護研究の基礎-質的研究方法-	静岡県看護協会	静岡市	令和5年8月
	看護研究の基礎-研究計画書にトライ-	静岡県看護協会	静岡市	令和5年10月
鈴木千智	今、なぜ地域と共に考えるのか？	掛川市健康福祉部地域包括ケア推進課	掛川市	令和5年12月19日
	静岡県専任教員養成講習会 看護教育課程（保健師課程）	静岡県看護協会	静岡市	令和5年7月3日
	市町村等保健師管理者能力育成研修「根拠に基づく事業・施策の展開」	静岡県健康福祉部健康増進課	静岡市	令和5年12月1日～令和6年1月5日
	地区活動とは ～あらためて意義を確認しよう～	静岡市保健福祉長寿局健康福祉部	静岡市	令和5年8月24日
	日常業務で研究すること	静岡県富士保健福祉センター	富士市	令和6年3月8日
	令和5年度富土地域新任期地域保健従業者研修会	静岡県富士保健福祉センター	富士市	令和6年1月22日
	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程乳がん看護概論	静岡県立静岡がんセンター	駿東郡長泉町	令和5年9月14日
	看護職として大切にしていることー物語で紐解く看護倫理ー第2回：応用編	静岡県立大学看護実践教育研究センター	静岡市	令和5年12月9日
杉山真澄	3 職能交流会「子どもの権利と虐待の予防」	静岡県看護協会	静岡市	令和5年10月
	新任期地域保健従事者研修会	静岡県	静岡市	令和5年8月
	地域保健従事者(中堅期保健師)研修会	静岡県	静岡市	令和5年8月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
加納江理	ALS 患者の在宅ケア ～気管切開における選択の多様性～	難病ケア市民ネットワーク	静岡市	令和5年6月10日
	ヘルスケアシステム論	静岡県看護協会	静岡市	令和5年6月11日
	難病ケアマネジメント～これまでの実践・これからの展開～ 地域連携の立場から	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「難病患者の総合的地域支援体制に関する研究」班	Web/ オンデマンド	令和5年10月17日
	臨床現場を知る看護管理者が看護学生に学んでほしい看護管理について	認定看護管理者会（東海・北陸ブロック）	Web	令和5年11月3日
福島恭子	骨盤内臓器脱「これだけは」	静岡県立総合病院	静岡市	令和5年9月
	助産師のキャリアビジョン	静岡県看護協会	静岡市	令和6年1月
	大規模災害と診療所の事業継続計画	静岡県産婦人科医会	静岡市	令和6年2月
佐藤瑠美	「個」から「地域」へ広げる保健師活動	静岡市	静岡市	令和6年3月4日
根岸まゆみ	改訂版『臨床判断モデル』に込められた看護教育へのメッセージ	石川県看護教育機関連絡協議会	オンライン	令和5年8月8日
	実践報告：臨床判断と LCJR への取り組み	看護教育研究実践センター共催訪問看護リカレント研修会	オンライン	令和5年10月21日
	臨床判断能力育成の教育ストラテジーと評価	国立病院機構東海北陸グループ研修会	オンライン	令和6年3月15日
Hempstock Wendy	埼玉いなほカップ英語ディベート大会のチーフジャージ	HEnDA	Web	令和5年11月5日

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
Leanne	HEnDA 全国大会のチーフジャージ	HEnDA	Web	令和5年12月16日、17日
中岡正昭	看護師特定行為研修 (臨床病態生理、臨床推論、疾病病態、医療安全特定行為、フィジカルアセスメント、シミュレーション演習、超音波演習、気管カニューレ交換演習、OSCE)	看護学部附属看護実践教育研究センター	静岡市	令和5年4月13、25日 6月13、14、23、26日 7月10、19日 8月16、30、31日
	令和5年度 静岡県特別支援学校看護師人工呼吸器管理研修 「人工呼吸器のトラブル対応について」	静岡県教育委員会事務局 特別支援教育課指導	静岡市	令和5年8月7日 8月9日 8月10日
佐藤理乃	国立長寿医療研究センター 第6回排尿自立支援研修会	国立長寿医療研究センター	大府市	令和6年2月19日
	第19回日本褥瘡学会中部地方学術集会 サテライトセミナー「褥瘡管理における排尿ケアの意義」	日本褥瘡学会中部地方会 株式会社大塚製薬工場	福井市	令和6年3月1日
池田麻左子	小児看護援助論	岐阜県立看護大学 大学院看護学研究科 CNSコース	岐阜	令和5年5月
	「Population Health」	米国オレゴン州立オレゴン健康科学大学看護学部	Web	令和5年6月6日
	令和5年度人工呼吸器管理の看護師養成研修 「重症心身障がい児の呼吸器系の特徴」	静岡県教育委員会 特別支援教育課	静岡市	令和5年8月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	令和5年度 静岡市医療的ケア看護職員研修会 「重症心身障がい児について」	静岡市教育局学 校教育課 特 別支援センター	静岡市	令和5年8月
	2022年度第1回スキルアップ研修【医 療依存度の高いこどもと家族のコース】 集合研修	一般社団法人 日本小児看護学 会	Web	令和5年9月
	2022年度第2回スキルアップ研修【医 療依存度の高いこどもと家族のコース】 集合研修	一般社団法人 日本小児看護学 会	Web	令和6年1月
	小児看護アセスメント論	岐阜県立看護大 学 大学院 看護学研究科 CNS コース	岐阜	令和6年3月
	新人看護師のための小児看護概論	株式会社 gene ナーススタディ	名古屋	令和6年2月
	新人看護師のための小児看護における フィジカルアセスメント 新生児・乳児期編	株式会社 gene ナーススタディ	名古屋	令和6年2月
	新人看護師のための子どもと家族への アプローチ	株式会社 gene ナーススタディ	名古屋	令和6年3月
	新人看護師のための医療的ケア児の看 護 基礎編	株式会社 gene ナーススタディ	名古屋	令和6年3月
	新人看護師のための医療的ケア児の看 護 実践編	株式会社 gene ナーススタディ	名古屋	令和6年3月
丸山始美	死を経験する子どもと家族の看護を考 えよう～小児・AYA 世代にとっての死と は～	日本がん看護学 会 小児・AYA 世代が ん看護 SIG 学習 会	Web	令和5年11 月
	がんと向き合う A 世代の ACP を考えよ うー今を生きる若者の意向を支援する ためにー	第38回日本がん 看護学会学術集 会・交流集会 小児・AYA 世代が ん看護 SIG	神戸市	令和6年2月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
大和田裕美	多職種連携による地域の母子・家族への切れ目ない支援	静岡県中部健康福祉センター	島田市	令和6年2月
栗田真由美	袋井市地域包括支援センターステップアップ研修	袋井市健康長寿課	袋井市	令和5年10月13日
	賀茂健康福祉センター地域保健医療福祉活動研究会	静岡県賀茂健康福祉センター	下田市	令和6年2月28日
伊藤純子	参加者が「来てよかった」保健師も「活動して楽しい」と思える健康教育のコツ	静岡県保健師会	静岡市	令和5年5月
	児童生徒のメンタルヘルスと健康教育	海部地区保健主事・養護教諭研修会	津島市	令和5年7月
	手応えのある保健教育のコツー児童生徒の行動変容を促す5つのアプローチ	徳島県高等学校教育研究大会養護学会研究会	徳島市	令和5年8月
	相談対応の危機管理	大阪市保健師会	大阪市	令和5年11月

7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
篁 宗 一	ストレスとの上手な付き合い	森町精神保健講演会	静岡市	令和5年12月16日
太田尚子	藤枝市地域政策研究・創造事業令和5年度採択事業「親子で考えよう自分のからだ・大切なからだ」	静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域主催、静岡県立大学看護実践教育研究センター共催	藤枝市	令和5年11月
	「天使の保護者ルカの会」	聖路加国際大学	東京都	令和5年5,8,9,10,11月、令和6年2月
	「ひよこママのサプリ講座」	NPO バディプロジェクト、静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域 主催	静岡市	令和5年9月
藤田景子	いのちの輝き～たいせつなじぶんのいのち～	伊豆の国市社会福祉協議会	伊豆の国市	令和5年7月
竹熊カツマタ麻子	看護科学者が考える限り無い柔道の魅力	茨城県柔道連盟	水戸市	令和5年4月16日
堀芽久美	ITとデータの科学：実践演習ワークショップ	静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター	静岡市	令和6年3月2日・9日
加藤京里	バイタルサイン測定の技術	静岡県立大学大学祭（第37回剣祭）実行委員会	静岡市	令和5年10月
鈴木和香子	小児看護の基礎知識	伊豆の国市	伊豆の国市	令和5年11月10日

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	子どもの応急手当	静岡市子育て支援センター	静岡市	令和6年2月6日
	ピアサポート研修 ロールプレイング	静岡県対がん協会	静岡市	令和6年1月27日
永谷実穂	市民公開講座 女性のホルモン変動に伴うこころとからだの問題とその対応	一般社団法人 FUmihoriguchi ウィメンズヘルス研究所	Web	令和6年2月
前野真由美	外国人高齢者のケア・介護を考える会	静岡県立大学 令和5年度地(知)の拠点(COC)事業	静岡市	令和5年9月24日

8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説

氏名	活動の種類と活動内容の説明	依頼団体	活動・公表・執筆日	掲載日	掲載場所
竹熊カツマタ麻子	米国看護師のあり方をヒントに看護師の「働く」を考える	医学書院	令和5年8月6日	令和5年9月25日	医学界新聞
	専門看護師(CNS)の未来を探る—急性・重症患者看護の視点から	医学書院	令和5年11月27日	令和5年11月27日	雑誌 看護管理
Hempstock Wendy Leanne	学術論文のまとめ	The Physiological Society	令和5年8月	令和5年11月	Physiology News Issue 131

9. 新聞等メディアへの掲載・出演

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国/ 地方版	掲載・出演日
太田 尚子	愛知県の周産期喪失への支援、自助グループの紹介、専門家としての解説	NHK 名古屋放送 まるっと!	地方版	令和5年7 月18日
	「天使の日」赤ちゃんを亡くした悲しみ。 周囲が共感、協力して」、ベビーロス・アウ ェアネス・ウィークの紹介	中日新聞	全国版	令和5年 10月4日
藤田 景子	ジャニーズ事務所の性加害問題	SBS 静岡放送「ラ イブ静岡」	地方版	令和5年9 月8日
富安 真理	多職種チームで取り組むなんでもかんでも 相談会	静岡市清水区医師 会報	地方版	令和5年 12月5日
竹熊 カツマ タ 麻子	COIL 授業・国際看護学	静岡新聞	地方紙	令和5年6 月7日
根岸 まゆみ	海外学生と看護の役割探る：県立大で国際 協働授業	静岡新聞	地方版	令和5年6 月9日
丸山 始美	新人看護師のための子どもと家族へのアプ ローチ 小児看護に活かす理論	株式会社 gene ナーススタディ	全国	Web・令和 6年6月頃 より配信
	新人看護師のための子どもと家族へのアプ ローチ 子どもや家族との関係形成に必要な基本的 知識	株式会社 gene ナーススタディ	全国	Web・令和 6年8月頃 より配信

10. その他活動

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
山下 早苗	日本看護倫理学会第16回年次大会 座長	令和5年6月4日	
篁 宗一	静岡市自殺対策委託事業	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	
畑中 純子	日本産業看護学会第12回学術集会にて特別講演の座長を勤めた	令和5年10月28日	
	第69回東海公衆衛生学会にて一般口演の座長を勤めた	令和5年7月8日	
荒井 孝子	看護師特定行為研修指定研修機関意見交換会	令和5年11月	1回
	看護師特定行為研修指定研修機関意見交換会	令和6年3月	1回
太田 尚子	座長：第37回日本助産学会学術集会 教育講演「グリーンサポートの健康増進的アプローチ」（録画、オンデマンド）	令和5年7月～8月	
	座長：第37回日本助産学会学術集会 一般演題16「多様なケア」	令和5年10月	
	交流集会ファシリテーター：第37回日本助産学会学術集会 交流集会6「周産期緩和ケア—周産期に子どもの生命が限られた重篤な状態と診断された妊婦・家族の子どもとの過ごし方の意思決定支援」	令和5年10月	
	シンポジウムの企画：第37回日本助産学会学術集会 「流産・死産後の切れ目のないグリーンケアの実装のために」	令和5年2月～10月	
	副議長：第35回静岡県母性衛生学会学術集会総会	令和6年2月	
	座長：静岡県産婦人科医会主催 第14回羽衣セミナー レクチャー「今改めて災害時における周産期体制について考える」	令和6年2月	
	司会・企画・運営：看護実践教育研究センター主催「寄り添いプロジェクト 女性家族に	令和5年10月～令和6年3月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	寄り添う ドゥーラについて知ろう！語ろう！」		
富安真理	第28回日本難病看護学会学術集会 会長講演座長	令和5年9月30日	
	第27回日本統合医療学会学術大会 シンポジウム座長	令和5年12月17日	
竹熊カツマ タ麻子	静岡県立大学看護学部の国際活動推進	通年	
加藤京里	看護学部附属看護実践センター センター研究員	令和5年4月～令和6年3月	
成瀬早苗	「ふじのくに」みらい教育センター地域貢献事業「県大生と！！動いて、骨骨（コツコツ）、健康に ～足腰鍛えてみませんか？～」健康教育	令和5年4月～8月	
	看護実践教育研究センター 地域貢献事業 県大小鹿キャンパスイキイキフェスタ「イキイキと高齢期を過ごそう！」講座	令和5年4月～8月	
	おとな体力測定プロジェクト フレイルについて講義と体力測定	令和6年1月～2月	
鈴木和香子	難病のこどもネットワーク がんばれ共和国 しぞーかキャンプ実行委員	平成23年～	
	静岡市こども食堂ネットワーク 西豊田地区主催	令和元年～	
中川有加	第54回日本看護学会学術集会 ポスター発表座長	令和5年9月30日	
永谷実穂	看護実践教育研究センター主催 令和5年度 県民の日地域貢献事業「県大小鹿キャンパス いきいきフェスタ」にて「楽しく更年期とつきあおう！」を担当	令和5年8月21日	b
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講演会 「これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー」	令和5年10月14日	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室	令和5年12月、令和6年1月・2月・3月に各1回開催	
	シニアメノポーズカウンセラーの活動として「メノマゼンタの会」を開催、一般更年期女性にプチ講座及び座談会 ZOOM で開催	令和4年11月より継続して奇数月に1回夜間に開催	
鈴木千智	市町村等保健師管理者能力育成研修の集合研修にて、グループワークに対する助言	令和6年1月5日	
	静岡県地域保健従事者（管理期）研修会・統括保健師連絡会において統括保健師の意見交換に対して助言	令和5年12月19日	
	掛川市にある地域包括支援センター、社会福祉協議会、訪問看護ステーション、地域包括ケア推進課の4団体で構成されえている「ふくしあ」が新たな取り組みとして実施している職員と住民が協働して行う事業への助言	令和5年10月～令和6年3月	
	日本産業看護学会第12回学術集会教育講演座長	令和5年10月29日	
杉山真澄	第29回日本子ども虐待防止学会・シンポジウム（虐待予防WG）の座長	令和5年11月	
	第43回日本看護科学学会学術集会・交流集会K40の座長	令和5年12月	
管原清子	看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和5年4月～令和6年3月	
	看護学部附属看護実践教育研究センター主催講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」の企画運営主担当	令和5年4月～令和5年9月	
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講座「これからの女性の健康を考えよう」の企画運営分担	令和5年4月～令和5年10月	
前野真由美	「7言語の終末期（もしものとき、エンディング）ケア『みせてお話し』ノート」と「-新型コロナウイルス感染症拡大防止対策-9言語の健康チェック表」の	令和5年8月～	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	静岡県立大学 公式サイトニュースに掲載		
Hempstock W e n d y L e a n n e	ボランティア活動： 静岡市立御幸町図書館で外国語読み聞かせ	令和5年7月・10月・12月	
	ボランティア活動： プロギング静岡・静岡県内のゴミ拾い	令和4年1月から	
長谷部美紀	「外国人のための無料健康診断と検診会」開催にあたってボランティアとして活動した。 1. 令和5年8月27日(日)：静岡英和女学院チャリティーコンサート(収益を検診会の運営費用にするため) 2. 令和5年10月7日(土)：検診会のカルテ作成(言語に応じた問診票など個人カルテの準備) 3. 令和5年10月15日(日)：「外国人のための無料健康診断と検診会」医療スタッフボランティアとして参加	令和5年8月～10月	
佐藤理乃	「ふじのくに」みらい教育センター地域貢献事業「県大生と！！動いて、骨骨(コツコツ)、健康に～足腰鍛えてみませんか?～」	令和5年7月～8月	
	看護実践教育研究センター 地域貢献事業 県大小鹿キャンパスイキイキフェスタ「イキイキと高齢期を過ごそう！」講座	令和5年8月	
	第30回日本排尿機能学会 排尿自立支援2ポスターセッション座長	令和5年9月8日	
池田麻左子	静岡県立大学看護学部附属 看護実践教研究センター センター研究委員 特定行為研修講義・演習	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
	国際交流 タイ国コンケン大学の留学生4名との交流	令和5年5月	
	国際交流 「Healthcare in Japan」のプレゼンの一部担当：米国オレゴン州立オレゴン健康科学大学看護学部、編入3年生の学生とのWeb授業	令和5年6月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	静岡市静岡中央子育て支援センター 子育て相談	令和5年12月5日	
	静岡県立大学看護実践教育研究センター主催 国際交流事業 Yoriso Project～寄り添いプロジェクト～女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！	令和6年3月	
丸山始美	静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和5年4月～令和6年3月	
	静岡県立大学看護実践教育研究センター主催 国際交流事業 Yoriso Project～寄り添いプロジェクト～女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！	令和6年3月	準備・片付け等の支援
	国際交流 タイ国コンケン大学の留学生4名の静岡県立こども病院の視察の引率	令和5年5月	
	国際交流 「Healthcare in Japan」のプレゼンの一部担当：米国オレゴン州立オレゴン健康科学大学看護学部、編入3年生の学生とのWeb授業	令和5年6月	
池田美音	藤枝市地域政策研究・創造事業活動未来のための次世代支援－親と子が健やかに成長できるまち藤枝－	講座開催：全3回(令和5年9月16日、11月11日、11月18日) 報告会：令和6年2月29日	令和5年11月18日、令和6年2月29日参加
	映画「1%の風景」先行上映会 企画運営	上映会開催：令和5年11月1日	
	大学院特別講義「開業助産師の継続ケア」	令和6年2月9日開催	公開講義
大和田裕美	ハッピーパパマタニティ講座の企画・運営・ファシリテーター	令和5年9月16日	NPO 法人 place of peace 共催

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	親子で考えよう 自分のからだ・大切なからだの企画・運営	令和5年11月18日	
	ノーバディーズパーフェクトプログラム「完璧な親なんて、いないよ！」の企画・運営・ファシリテーター	令和6年2月19日 ～令和6年3月25日（全6回）	静岡市・NPO法人 place of peace 共催
	Go to 産婆～地域助産師とのおしゃべり会～の企画	令和5年12月5日 ～令和6年3月6日	静岡市助産師会との共催
	令和5年度助産師国家試験全国統一模擬試験問題・解説の校閲	令和5年7月1日～ 令和6年2月16日	
長屋和美	藤枝市地域政策研究・創造事業活動未来のための次世代支援～親と子が健やかに成長できるまち藤枝～	講座開催：全3回(令和5年9月16日、11月11日、11月18日) 報告会：令和6年2月29日	令和5年11月18日、令和6年2月29日参加
近藤美保	県民の日 県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ・楽しく更年期とつき合おう！	1日	
小泉祐貴	静岡市自殺対策アドバイザーボード 静岡市自殺対策調査分析業務	令和5年6月～令和6年3月	
榎みのり	第68回日本透析医学会 一般演題 座長	令和5年6月16日	
	発表論文の被引用（開発した尺度の使用） 「血液透析患者の水管理の自己効力尺度」の開発：信頼性と妥当性の検討. 日本透析医学会雑誌. 2012. 45. 11. 1045-1053	令和5年7月～令和6年2月	
栗田真由美	医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体 DC NETWORK によるダブルケアラー当事者及び支援者を対象としたオンラインカフェ主催	令和5年4月22日・ 令和5年8月26日	Web
	湖西市重層的支援体制整備会議	令和5年4月24日・ 8月7日・10月24日・ 令和6年1月30日	対面

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
安藤 継子	日本産業看護学会第12回学術集会の事務局として活動	令和5年4月～10月	

11. 県民の日

これまで草薙キャンパス看護学部棟にて、担当領域教員による展示や体験型プログラムを企画していたが、令和5年度は小鹿キャンパスにて「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」を企画、開催した。看護学部教員・学生による高齢男女、更年期女性、中高年女性の各対象者別プログラムと、静岡済生会総合病院と食品栄養科学部の相談ブース招致により、延べ151名の県民の参加を得た。具体的には、①「イキイキと高齢期を過ごそう」、②「楽しく更年期とつきあおう!」、③「骨盤内臓器脱予防&上手なつきあい方」の3プログラムを開催したが、各講座への参加満足度は高く、次回開催への要望も多く聞かれた。また、事業に関わった学生有志の対応について、参加者からの感謝の声も聞かれ、学生が地域住民と交流する機会となり、看護職としての意識醸成にもつながった。

12. 高大連携による講師派遣

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
三島南	畑中純子	看護という仕事	1~2	64	令和5年10月17日
静岡学園	山田紋子	看護って何だろう?看護学って何だろう?	1~3	15	令和5年7月25日
静岡市立	竹熊カツ マタ麻子	国際看護学	1~2	40	令和5年12月8日
常葉大学附属橘	堀芽久美	看護学部の紹介・大学の講義	2	70	令和5年8月29日
焼津中央	加藤京里	バイタルサイン測定の技術	1~2	60	令和5年12月14日
三島北	山口みのり	看護学部で学ぶということ	2	20	令和5年9月25日
富士	成瀬早苗	看護職になるために	1~3	13	令和5年7月14日
沼津市立沼津	鈴木和香子	小児看護学	2~3	80	令和5年12月7日
磐田北	中川有加	地域医療の担い手として求められる力	2	13	令和5年10月6日
静岡東	長澤利枝	大学で看護学を学ぶということ	1~2	30人 ×2	令和5年9月13日

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
				回	
静岡城北	管原清子	看護に求められる能力	1～3	74	令和5年11月1日
浜名	加納江理	静岡県立看護学部の紹介と看護師の仕事とは	2	56	令和5年11月2日
掛川西	福島恭子	人に寄り添う看護の仕事	1～2	68	令和5年9月7日
吉原	中岡正昭	現代社会に求められる看護と最先端の看護教育	1～3	42	令和5年7月13日
浜松湖南	鈴木郁美	チーム医療を考える	2	35	令和5年10月3日
富士東	植田春美	看護に必要とされる資質および最先端の看護について	1～3	43	
静岡西	丸山始美	看護現場の労働環境（夜勤を含む看護師の勤務体制や問題点と改善策）	1～2	39	令和5年6月27日
星陵	梁川明	看護教育、静岡県立大学の概要と静岡県の地域医療および看護師の将来の展望	2	43	令和5年6月21日
富士宮北	大和田裕美	女性と家族を支える母性看護学	1～2	25	令和5年11月2日
富士市立	長屋和美	看護学生になる前に知っておきたいこと～どうやって選ぶ？私の歩む道～	2	14	令和5年7月14日

13. 公開講座等の開催状況

令和5年度特別講義実施状況

	開催日	講義の名称	講師	参加者・人数
1	10/17 (火)	神経難病療養者とその家族の体験	川村佐和子	教員、院生、学部生 204名
2	11/9 (木)	パーソン・センタード・ケアの理論・実践・研究	鈴木みずえ	教員、院生、学部生 126名
3	11/16 (木)	ナイチンゲールの知られざる側面ー女性史からの分析	富田裕子	教員、院生、学部生 139名 (オンライン)
4	11/22 (水)	COVID-19 への対応	大曲貴夫	教員、院生、学部生 645名 (オンライン)
5	12/11 (月)	保健師が取り組んだ健康づくりのシステム改革	野呂千鶴子	教員、院生、学部生 118名
6	12/13 (水)	Communication Skills (感情をコントロールして人間関係の調和を手に入れよう)	Dr.Sho Aoyagi	教員、院生、学部生 21名
7	1/26 (金)	日本人の死生観を看護に生かすー患者に他界されるのに、看護のストレスをどう乗り超えられるか	カール・ベッカー	教員、院生、学部生 157名
8	2/3 (土)	事例報告のテーマ選定とまとめ方	原口道子 川村佐和子	教員、院生、学部生 36名
9	2/9 (金)	開業助産師による継続ケア	松浦照子	教員、院生、学部生 27名
10	2/15 (木)	保健医学と疫学	片野田康太	教員、院生、学部生 18名
11	2/20 (火)	学ぶ意味について考える	横濱竜也	教員、院生、学部生 14名
12	2/28 (水)	今改めて Women's Health1 を問うー健康寿命 100 年・ジェンダーイノベーション・DX から	高橋真理	教員、院生、学部生 16名
13	3/8 (金)	母子保健・思春期の子供の健康について研究ー低所得国・中所得国における研究の経験から	ドゴバタラ・ガンチメゲ	教員、院生、学部生 15名
14	3/18 (月)	日本の社会保障制度と地域における看護活動ー精神訪問看護	村方多鶴子	教員、院生、学部生 17名 (オンライン)
15	3/19 (火)	多職種連携時代の医療における看護職の役割	任和子	教員、院生、学部生 30名 (オンライン)

IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について

1. 看護実践家に対するリカレント教育プログラムの提供

【看護職のための看護研究セミナー1「スタートアップ現場発想の看護研究」】

(講師：操教授、富安教授、林教授、運営サポート：林、加納、大和田)

第1回 2023年6月10日(土) 14:00~17:00 リサーチクエスションの設定【10名(2名)】

第2回 2023年8月19日(土) 14:00~17:00 文献入手と整理のコツ【10名(3名)】

第3回 2023年12月2日(土) 14:00~17:00 研究計画書の作成【5名】

*第1回・第2回はハイブリッド開催(括弧内はそのうちのオンライン参加者数)

【看護職のための看護研究セミナー2「研究論文の数値を理解し看護実践に活かす」】

(講師：堀准教授、運営サポート担当：林、大和田、中岡)

第1回 2024年2月19日(月) 13:00~16:20 【4名】

第2回 2024年3月4日(月) 13:00~17:00 【4名】

【看護管理者のためのキャリア開発セミナー「看護力の高い組織を育てる力を養う」】

(講師：竹熊教授、運営サポート：山口、林)

第1回 2023年6月15日(木) 18:00~20:00 リーダーシップ【19名】

第2回 2023年8月1日(火) 18:00~20:00 問題に潜む本当の原因を明らかにする【15名】

第3回 2023年10月21日(土) 10:00~12:00 組織をいかにして変革するか【10名】

*全回オンライン開催

【看護職のための看護倫理に関する研修「物語で紐解く看護の倫理」】＜無料＞

(講師：山下教授・鈴木_子准教授、運営サポート：林)

第1回 2023年11月11日(土) 13:30~15:30 基礎編【16名】

第2回 2023年12月9日(土) 13:30~15:30 応用編・事例検討【12名】

本センターが主催する事業について、チラシの作成・配布とともに各実習施設等にも声かけを行った。看護研究の受講生の中には、自己のテーマでの研究計画書の立案、大学院受験に繋がるケースもあり、一定の成果が得られた。いずれのコースにおいても熱心に受講され、複数回受講した看護師もいた。今年度の経験をもとに次年度計画の策定に活かしていきたい。

2. 看護学教育研究に関する国際交流の推進拠点

2018年から取り組むCOIL事業において、特に看護学部のある上智大学、ポートランド大学、ボストンカレッジとの教育研究交流を推進させるとともに、すでに国際看護実習を相互で実施しているタイ国コンケン大学等のアジア圏における教育プログラムの開発が推進されている。今年度は新たにモンゴル国のモンゴル国立医科大学看護学部（ウランバートル）およびドルノゴビメディカルスクールとの学部間協定が締結されたことを受け、早速教員間ベースでの教育研究交流が実施された。

3. 特定行為研修について

1) 特定行為研修 指定研修機関の申請

令和2年11月17日付けで、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令（平成27年厚生労働省令第33号）第6条の規定に基づき、指定研修機関の指定申請を行った。

2) 指定研修機関の指定

令和3年2月22日付け厚生労働省発医政0222第2号をもって、保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第37条の2第2項第5号に規定する指定研修機関として指定された。また、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令（平成27年厚生労働省令第33号）別表第4備考第5号に係る領域別パッケージ研修の実施について認定された。

特定行為区分（6区分）

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

ろう孔管理関連

創傷管理関連

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

領域別パッケージ研修（1領域）

在宅・慢性期領域

今年度は、他施設ですでに特定行為研修を履修している研修生の区分研修を受け入れるために、呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連の3区分については、単独で履修できるように変更申請を行い、履修免除無を有にすることで、多様なニーズに応えられるような仕組みづくりを行った。

3) 看護師特定行為研修 研修生の募集

2024年度入講生の募集について、一次募集は2023年7月31日(月)～8月18日(金)を出願書類受付期間とし、3名の応募があり、入講審査の上、3名を合格とした。定員5名を充足するために、二次募集は2024年1月9日(火)～2月2日(金)を出願書類受付期間とし、2名の応募のうち1名が受験し、入講審査の上、1名を合格とした。2024年度研修生は4名と確定した。

4) 看護師特定行為研修の実際

(1) 共通科目と区分別科目の研修

令和5年4月3日(月)に入講式を行い、研修オリエンテーションやガイダンスを実施し、早速共通科目及び独自科目の研修から開始した。研修は、E-ラーニングによる受講、webによるオンライン授業、オンデマンド授業の視聴等により順調に進み、7月には対面による演習を行った。区分別科目については、在宅・慢性期領域パッケージ研修および選択科目であるインスリン投与量の調整について、共通科目同様にE-ラーニングによる受講、webによるオンライン授業および実技演習等を実施した。区分別科目においては特定行為に関する実技があるため、外部講師による胃ろうチューブの交換、気管カニューレの交換、デブリートメント、エコー機器の操作など具体的な行為について演習を実施した。選択科目の履修を終了したところでOSCEを実施し、合格に達したことを確認した。

(2) 特定行為研修(外部施設における臨地研修)

9月より特定行為研修の臨地研修を開始した。研修生が所属しているあるいは研修協力が得られている施設を基本として研修を開始した。今年度は研修生の地域性にに基づき、コミュニティーホスピタル甲賀病院、榛原総合病院、静岡ホームクリニック、静岡市立静岡病院、伊豆保健医療センターでの実習を行った。症例不足については、研修協力機関である公益社団法人有隣厚生会富士病院に研修を受け入れていただいた。研修生は、業務の傍ら、自ら研修調整を行い、積極的な学習ができた。12月末までに規定の症例数を研修することができ、研修の到達基準を満たしたため臨地研修を終了した。研修中は、メンターを担当する教員から適宜面談指導を受けながら、指定された学習、記録等に取り組んだ。

(3) 東海北陸厚生局への手続き

令和5年4月に担当教員の変更を含めた変更申請を行った。令和6年1月19日の研修修了に伴い、修了の届出を実施した。以後、年度報告および令和6年4月のカリキュラムの追加、講師の変更および研修施設の追加に伴う変更申請を予定している。

4. その他、センターの運営事業実績

(1) 看護実践教育研究センター共催事業（地域貢献事業）について

学部広報企画委員会とともに県民の日事業を実施した。詳細については、広報企画委員会の報告を参照。前回企画を踏襲し、募集や広報活動を早めに開始することを意識し、地域公民館、自治会等も含んだ周知活動を行った。どの事業も参加者の評価は大変好評であり、また次年度も開催してほしいという要望が寄せられた。特に事業に学生が参加していることが地域住民の方々の励みとなっており、一部の学生については研究の場としても活用することができた。また、食品栄養科学部の協力も得たことにより学部間協力を基に地域へ還元している意義も感じられた。令和6年度事業企画にも反映していく予定である。

(2) 国際交流事業

- ・寄り添いプロジェクト「女性や家族に寄り添うドゥーラについて知ろう！語ろう！」

日 時：令和6年3月9日（土）第一部 9：55～12：20 第二部 13：00～14：00

会 場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室3

参加者：助産師、看護師、ドゥーラなど20名、学内教員

(3) 各種共催講座・後援講座

【共催】

- ・静岡県助産師会写真展

期 間：令和5年4月7日～28日

会 場：静岡県立大学小鹿キャンパス 事務・図書館棟2階ギャラリー

- ・訪問看護リカレント研修会 「看護学生と看護師の思考と臨床判断を培う看護教育」

講 師：細田 泰子（大阪公立大学大学院看護学研究科 看護教育学分野）

日 時：令和5年10月21日（土）15：00～16：30 オンライン開催

参加者：学内教員および学外から希望する教員・看護師36人

- ・ひよこママのサブリ講座

日 時：第1回 令和5年9月22日（金） 10：00～11：00

第2回 令和5年9月26日（火） 10：00～11：00

第3回 令和5年9月28日（木） 10：00～11：00

会 場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室3

参加者：生後2～5ヶ月の第1子とその母親 計6組

- ・女性健康相談室主催これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねる

ために一

日 時：令和5年10月14日（土） 13：00～16：30

会 場：静岡県立大学小鹿キャンパス、オンライン（Zoom）

参加者：静岡県内在住の30歳以上の女性 16名（会場13名、Zoom3名）

・藤枝市地域政策研究・創造事業

(1) ハッピーパパママタニティ講座

日 時：令和5年9月16日（土） 9：30～11：30

会 場：藤枝市産官学連携推進センターBiviキャン

参加者：パートナーが妊娠期あるいは0歳児の子を持つ男性11名

(2) 親子で学ぼう こどもの健康管理 プレコンセプションケア

日時：令和5年11月11日（土） 10：00～12：00

会 場：藤枝市産官学連携推進センターBiviキャン

参加者：小学生のお子様と高校生の子の保護者4名

(3) 親子で考えよう 自分のからだ・大切なからだ

日 時：令和5年11月18日（土） 10：00～11：00

会 場：藤枝市産官学連携推進センターBiviキャン

参加者：5歳～8歳のお子様とその保護者13名

【後援】

・Nobody's Perfectプログラム「完ぺきな親なんて、いないよ！」

日 時：令和6年2月19日（月）、26日（月）、3月4日（月）、11日（月）、18日（月）、
25日（月）10：00～12：00（全6回）

会 場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5

参加者：0～3歳までの子をもつ親 13名

2) 次年度の事業開催準備について

令和6年度事業は、令和5年度までの実施状況を鑑みた開講準備を進めている、特に令和5年度に開催した看護管理者のためのキャリアアップセミナーと看護倫理セミナーについて好評であったため、看護研究セミナーとともに継続する予定である。